

平成30年度 地方独立行政法人山梨県立病院機構
業務実績報告書

令和元年6月28日

地方独立行政法人山梨県立病院機構

1 概況

(1) 法人名

地方独立行政法人 山梨県立病院機構

(2) 本部の所在地

甲府市富士見一丁目1-1

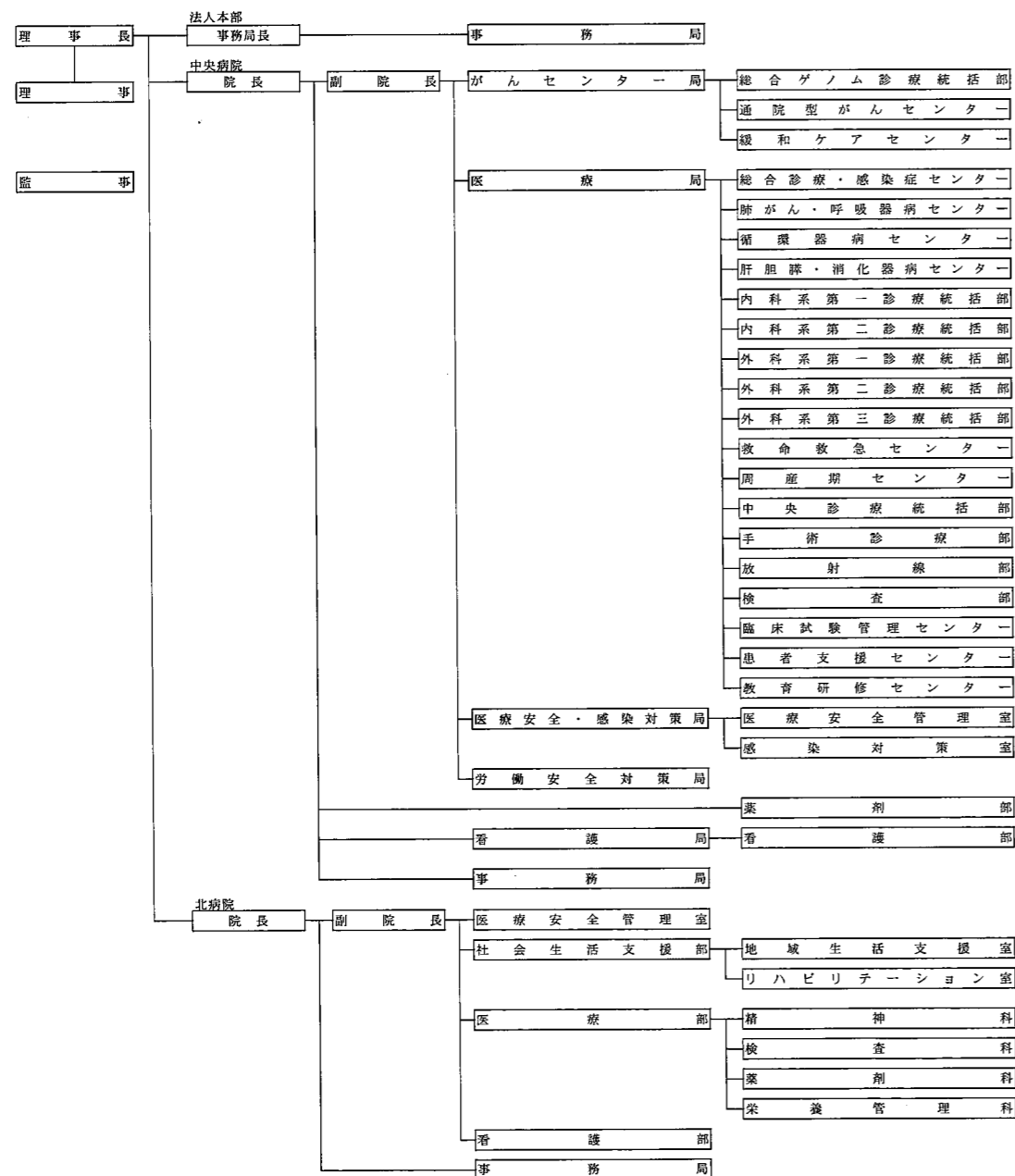
(3) 役員の状況 (平成31年3月31日現在)

役員の定数は、地方独立行政法人山梨県立病院機構定款により、理事長1名、理事5名以内、監事2名以内
理事長 小俣政男 理事 (3名) 神宮寺禎巳、藤井康男、内藤正浩 監事 (2名) 柴山 聡、加藤隆博

(4) 職員の状況 (令和元年5月1日現在)

現員数 計 1,502名 (医師210名、医療技術213名、看護863名、事務職員127名、技能労務職員89名)

(5) 組織 (平成31年3月31日現在)



2 山梨県立病院機構の基本的な目標等

(1) 基本理念

県立中央病院は、山梨県における基幹病院として、地域の需要に基づき医学・医術の進歩に即応した適正な医療を供給することを本旨としている。そして他の医療機関とも緊密に連携しながら、一般医療のほか救命救急医療をはじめ公的医療機関でなければ対応困難な高度・特殊・先駆的医療を担当し、地域医療を補完する役目を果たすとともに、県内各種医療従事者の教育・研修の拠点として本県医療水準の向上に寄与し、県民の健康回復・保持・増進を図り、信頼される質の高い医療を提供し、誰もがいきいきと暮らせる地域社会づくりに貢献することを基本理念とする。

県立北病院は、山梨県の精神科基幹病院として、救急・急性期から早期・長期のリハビリテーション、そしてアウトリーチまで、治療の継続性に重きを置いて、質の高い精神医療の供給をすることを本旨としている。そして特に公的精神医療機関でなくては対応が困難な高度で先駆的な精神医療分野に重点的に取り組み、地域や民間医療機関とも緊密に協力しながら、県の精神医療体制の充実に寄与することを基本方針とする。

(2) 運営方針

・県立中央病院

- 安全・安心な患者さま中心の医療を提供する。
- 専門的知識の習得と技術の向上に努め、質の高い医療を提供する。
- 山梨県の基幹病院として地域医療機関と連携し、医療水準向上に努める。
- 業務の改善や効率化を図り、健全な病院経営に努める。

・県立北病院

- 最良の精神科治療とリハビリテーションレベルを達成する。
- 病院を利用される方々の視点を大切にしてサービスを提供する。
- 山梨県の精神科基幹病院としての役割の中で、最善を尽くす。

3 業務全体の取り組み状況

○政策医療の提供

・県立中央病院

がん医療をはじめとした県民生活に欠くことのできない医療の提供に向けて、引き続き、一層の高度化、専門化に取り組んだ。

①救命救急医療

救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で三次救急患者を受け入れた。また、二次救急患者など必ずしも救命救急センターの対応症例でない患者についても受け入れた。また、ドクターヘリ、ドクターカーによる救命救急活動を実施した。

②総合周産期母子医療

山梨大学医学部附属病院などと役割分担し、県内全てのハイリスクの妊婦等を受け入れ、専門的な医療を提供した。また、胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児の疾患の早期発見に努めるとともに、分娩までの継続的なサポートを実施した。

③がん医療

外注していた遺伝子検査を院内で迅速処理するため、平成30年度の組織改正で検査部にゲノム検査科を設置した。また、平成31年2月に東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として先進医療B「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定された。また、近年がん治療の新薬として注目されている、免疫チェックポイント阻害剤について、治療対象の拡大に応じ適切な投与を進めた。

平成30年度の診療報酬改定において、胃がん、子宮体がんをはじめ多くのロボット手術が保険収載されたため、速やかに対応できるよう指導医の招へいや物品の購入などの対応を行った。

④難病（特定疾患）医療

難病医療拠点病院として、山梨大学医学部附属病院と役割分担を行う中で、神経難病を除く特定疾患医療の患者を受け入れ、適切な医療を提供した。

⑤エイズ医療

医師、看護師による治療、薬剤師による服薬指導、臨床心理士によるカウンセリングなど、多職種による専門的な医療を提供した。また、臨床心理士を含むHIV部会やエイズ研修会を開催した。

⑥感染症医療

第1種感染症指定医療機関として、専門医及び感染症専従看護師により、感染症発生時の迅速な対応と感染症医療の充実、強化を図った。

・県立北病院

平成27年2月から、県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、早急に医療の必要性のある患者の受診相談に応じる精神科救急受診相談センターの業務の一部を担うとともに、センターで救急医療が必要と判断された患者を常時対応型病院として受け入れている。

①精神科救急・急性期医療

スーパー救急病棟2病棟への患者数は年々増加しており、集中した治療を実施した。毎週、医師、看護師、ケースワーカー、デイケアに携わるコメディカルスタッフによるケース会議を開催し、患者の治療方針、退院促進、退院後のリハビリテーション等について、症例検討する中で総合的で一貫した医療を提供した。

②児童思春期精神科医療

県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童・思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1とし、専従のコメディカルを配置するなど、手厚い医療を提供した。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導體制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施するとともに、平成30年12月から、児童思春期病床を20床から23床に増床した。

③心神喪失者等医療観察法に基づく医療

入院患者に対しては、多職種治療チーム（MDT）による充実した医療を提供し、対象者の社会復帰を促進した。また、退院後の通院対象者に対しても、引き続きMDTによる治療体制を継続するとともに、デイケアや訪問看護も実施し、最適な医療を提供した。

④重度・慢性入院患者への医療

退院が困難な重度・慢性入院患者に対し、症例に応じてクロザピンやm-ECTなどを行うとともに、MDTによる治療体制を構築し、治療に当たった。

⑤重症通院患者への医療

退院後、地域で生活する重症通院患者の多様かつ増大する医療ニーズに対して継続的に支援を行うため、訪問看護ステーションの設置、運営に関する検討を進め、平成31年4月に開所、サービスを開始した。

○質の高い医療の提供

①医療従事者の育成、確保及び定着

県外の学生も含め幅広く人材を確保するため、スプリングキャンプ等を実施した。平成30年度初期臨床研修において、17人の定員で募集を行ったところ、平成31年度総合研修プログラムのマッチ率は100%となった。また、より多くの臨床研修医を確保するため、中央病院の研修医の募集定員を拡大（19人→25人）について準備を進めた。

②7対1看護体制への柔軟な対応

パートナーシップ・ナーシング・システムの定着、指導體制の見直しによる教育支援の実践、体験型のシミュレーション研修などニーズに沿った研修の実施等の取り組みを行った。また、新任看護職員の人間関係の構築、連帯感の向上を図るため、5月に清里で1泊2日の宿泊研修を実施した。さらに、新規採用者や採用2年目の看護師の成長支援を行い、離職防止の一助とするため、看護学生教育機関の教員による病院参観を実施した。

③医療の標準化と最適な医療の提供

DPCから得られる情報に基づき、当院と他のDPC参加病院の診療内容を比較し、各種医療資源（処置、検査、投薬、手術等）の投下状況を分析した。また、このDPCの分析データを活用してクリニカルパスの新設や見直しを随時行った。

白血球等の無菌状態での薬物治療を充実させるため、これまで整備した2床に加え平成30年度新たに7床の無菌室を整備し、合わせて9床とした。

中央病院の理念達成や地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」受審に向け様々な改善の取り組みを行い、2月に本審査を受審した。

④高度医療機器の計画的な更新・整備

血液培養で陽性となった検体から、細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を迅速に同定し、抗菌薬の治療方針決定に役立つ全自動遺伝子解析装置「FilmArray」システムを全国に先駆けて導入した。

⑤病院施設の計画的な修繕・改善

病院施設の機能維持のため、第2期中期計画で定めた計画に基づき、常用発電機のエンジン交換など点検、修理を計画的に実施するとともに、緊急な対応が必要となった場合には、診療に影響がないよう迅速に対応した。また、施設整備として8A病棟（無菌室）、入退院センター、図書室、当直室の整備・改修等を実施した。

○県民に信頼される医療の提供

①医療安全対策の推進

中央病院では、平成30年度の診療報酬改定において新設された「医療安全対策地域連携加算1」を9月に取得し、連携先の市立甲府病院とは相互評価、山梨病院とは当院の評価を実施した。

平成29年6月の輸血医療事故を受け、再発防止策を継続して実施した。

②医療倫理の確立

倫理委員会で、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。また、金沢大学附属病院副看護部長を招いて「身体抑制激減への歩み～金沢大学附属病院の取り組み」と題して倫理委員会及び職員研修委員会主催の倫理に関する研修会を11月に開催した。

③患者・家族との信頼・協力関係の構築

最適な医療を提供するため、病院機能評価受審を契機にインフォームド・コンセントに関する基準、ガイドラインを策定した。また、「インフォームド・コンセント部会」を新設し、インフォームド・コンセントを適切に実施するための様々な取り組みについて議論した。

④医薬品の安心、安全な提供

全16病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務の拡充を図るとともに、患者とのコミュニケーションを図りながら、患者が納得して服薬できるように服薬指導を行った。また、平成29年7月に中央病院で発生した薬剤紛失事案について、県に提出した改善計画を継続して実行することにより、薬剤管理の一層の強化と再発防止に取り組んだ。

⑤患者サービスの向上

代表電話への繋がりにくさを解消するため、平成31年4月より電話交換手を1名増員し、3名体制とすることとした。

再来受付機受付後、速やかに検体検査が行えるよう、中央採液室の受付開始時間を15分前倒し8時00分とし、8時15分から採血業務を実施した。また、案内表示モニターを見やすい位置に移設するとともに呼び出しマイクを設置した。

入院などの説明をワンストップで行う入退院センターの増設工事が3月に完了し、個室の面談室を3室から10室に増やした。これに合わせ、現在3科で実施している説明を全診療科に拡大する取り組みを開始した。

北病院では、来院者の利便性を高めるため、時間外・救急入口の看板設置、障がい者用駐車場の増設を行った。

⑥診療情報の適切な管理

紙カルテは、電気錠により入室が制限されているカルテ庫において適切に保管した。また、紙カルテのうち入院カルテについては、カルテ庫内の施錠できる部屋に保管しているが、外来カルテについても、施錠できるパーテーションを新たに設置し、より厳重に管理した。

○医療に関する調査及び研究

・新薬開発等への貢献

中央病院では、新規11件、継続33件の治験のほか、臨床研究や製造販売後調査を、北病院では、精神科分野の臨床研究や製造販売後調査を実施した。また、両院において、治験審査委員会議事録、治験に関する手順書等の治験に関する情報をホームページで公開した。

C型肝炎の患者に対して、治療薬（ソバルディ、ハーボニー）での治療を実施しており、3月末日までに497人の患者に対して治療を行った（治験を含めると547人）

・各種調査研究の推進

看護の質の向上を目指して、県立大学と共同研究を行った。平成30年度は、中央病院では16の研究テーマのうち、「心臓血管外科手術を受けた患者の術後せん妄における看護師のアセスメント力向上への取り組みとその成果」など13テーマを共同研究として実施した。

○医療に関する技術者の研修

・医療従事者の研修の充実

平成30年度からスタートした新専門医制度において、当機構では、「内科」「救急科」「整形外科」「総合診療科」「外科」「精神科」の6つの領域で基幹施設として専門研修プログラムが承認されている。平成30年度は基幹施設として内科5名、救急科1名、精神科1名、連携施設として内科1名、外科1名、産婦人科2名、精神科1名の計12名の専攻医を採用した。また、平成31年度は、基幹施設として内科2名、外科2名、救急科2名、精神科2名、連携施設として内科2名、整形外科1名、小児科1名、産婦人科1名、皮膚科1名の計14名の専攻医を採用した。

・県内の医療水準の向上

がん医療従事者研修会（7回）やエイズ研修会（5回）等を実施した。また、看護師、薬剤師等の実習生を受け入れた。

○医療に関する地域への支援

・地域医療機関との協力体制の強化

各病棟に入退院支援及び地域連携業務に専従として従事する専任の職員を配置するため、平成30年度2名の正規職員を採用し、9月に「入退院支援加算1」及び「入院時支援加算」を取得した。

・地域医療への支援

CT、MRI、RIの放射線検査機器を活用し、開業医等からの依頼検査を実施した。また、11月から全身撮影可能な当院の骨密度測定装置の共同利用を開始した。

県内の地域医療機関に勤務する自治医科大学の卒業生の研修を中央病院で受け入れた（塩川病院3人、飯富病院1人）。

・地域社会への協力

救急救命士の育成のため、就業前実習、再教育実習、薬剤投与実習等を実施するとともに、県立大学等の看護師養成機関の授業や研修等に職員を講師として派遣した。また、捜査機関等からの照会、調査に協力した。

○災害時における医療救護

・医療救護活動の拠点機能

10月6日に職員、ボランティア約400人による大規模災害時対応訓練を実施した。学生ボランティアに参加してもらい、シナリオもほとんど設定しないなど、より実践的な内容で実施した。

・他県等の医療救護への協力

北病院において、平成30年2月に長野県立こころの医療センター駒ヶ根と災害時等に医療活動を継続し、適切な医療を提供するため①医薬品等の物資の支援、②医師・スタッフ等の派遣、③患者の受入・移送等を行う相互支援協定を締結したが、平成30年度からは、両院の担当者間で協定に基づく保有する医療機器の情報共有や、災害時の具体的な対応の検討を始めた。

○医療環境の変化に対応できる運営体制の構築

中央病院では「病院会議」、北病院では「院内連絡会議」を通じ、院内の重要事項、課題等について病院全体で情報の共有化を図った。また、中央病院の「病院会議」において各部署の優れた取り組みを発表させ、業務改善の重要性について病院全体への意識付けを図った。

検体検査、病理検査及びゲノム検査について、ISO15189（臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項に関する国際規格）認定のための審査の受審に向けた準備を推進するとともに、大型検査機器を最新の機種に更新するための準備を進めた。

○効率的な業務運営の実現

医師事務作業補助者の計画的な採用を行い、平成30年10月からは医師事務作業補助体制加算（2.5対1）が取得できた。

医療機器等の保守料を削減するため、これまで機器ごとに保守契約を締結していた放射線機器等について、一括して保守契約を締結することとした。

○経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の削減

・診療報酬請求事務の強化

診療報酬の迅速かつ適正な算定を行うため、柔軟な人員配置などにより、診療報酬請求体制の強化を図った。また、診療報酬適正化に向けDPC担当は、病棟クラーク業務及び医師等に対して、診療報酬制度の周知・啓発に努めた。

・未収金対策

患者サービスの向上と未収金対策として、土曜日、日曜日などの休日に退院する患者に対して、退院までに請求を行う即日請求の取り組みを実施した。また、病棟ごとの即日請求率を病院会議で明示するなど、職員への啓発を図った。

・材料費の適正化

中央病院において、共同購入組織である日本ホスピタルアライアンスに平成28年4月から加盟し、汎用医療材料などの7分野の購入事業に参加した。平成30年度は9分野の共同購入に参加し、80,623千円の経費削減を図ることができた。また、診療材料のベンチマークシステムを活用し、当院が市場価格よりも高く購入している材料を抽出し、平均価格での納入を求め卸業者と交渉し、約930万円の削減を図った。

○事務部門の専門性の向上

病院事務に精通した事務職員を育成するため、全国の病院の各部門における先進事例の発表の場である「全国自治体病院学会」、「日本病院学会」及び「日本医療マネジメント学会学術総会」に総務課、企画経理課、医事課のプロパー職員を派遣した。

○職員の経営参画意識の向上

・経営関係情報の周知

中央病院の「病院会議」、北病院の「院内連絡会議」において、病院全体の情報交換や意見交換、共通認識の醸成を行い、各科の入院、外来の稼働額を前年同期と比較図示化し、前年同月に比べ稼働額が減った診療科については、その要因を探り、対策を立てることにより、職員の経営参画意識を高めた。

・取組の共有化

「病院会議」、「院内連絡会議」において、中期計画等について説明し、共通認識を持って、日々の業務に取り組んだ。

・職員提案の奨励

職員が病院経営について自由に提案する職員提案の募集を行った。平成26年度からは、プロジェクト“KAIZEN”とプロジェクト“坂の上の雲”の2部門で募集を行っているが、平成30年度は46件の提案があった。

○職場環境の整備

・働きやすい職場環境の整備

職員の心身の健康を維持するため、平成31年4月から中央病院に「健康管理室」を新設し、専従の保健師を配置することとした。また、職員のワークライフバランスの推進と働きやすさ向上ため、平成30年度に夏季休暇の取得可能な期間を2か月拡大したが、平成31年度はさらに2か月拡大し5月～11月に取得可能とした。

・資格取得を含む研修の充実

新たに、管理職、リーダー、主任へ昇任した職員を対象に、管理職研修、リーダー研修、主任研修を実施した。

・公平で客観的な人事評価システムの導入

職員の能力や業務の実績を適切に評価し、その結果を人材育成や人事管理、給与等の基礎資料として活用するため、人事評価制度の運用を開始した。

○保健医療行政への協力

中央病院では、がん診療連携拠点病院、三次救急医療を担う救命救急センター、県内の周産期医療の中核をなす総合周産期母子医療センター及び難病医療拠点病院等として、北病院では、精神科救急医療体制の24時間化における精神科救急受診相談センター業務の一部を担うとともに常時対応型病院として、また認知症対策における認知症疾患医療センター等として、県の保健医療に係る重要施策に貢献した。

県が主催する各種委員会等に職員を派遣した。また、医療法第25条に基づく、病院への立入検査業務に放射線技師を派遣した。

○法令・社会規範の遵守

法人業務の適正化を確保するため、「内部統制」、「リスク管理」、「外部通報、内部通報制度」等に関する規程を整備した。

○積極的な情報公開

病院機構、中央病院、北病院がそれぞれホームページを開設しており、年度計画や決算状況、理事会の議事録等を公表するとともに、法人組織や診療案内、研修内容や公開講座の案内、採用情報等も掲載した。

また、病院の情報発信力を高めるため、各部署においてホームページの作成、修正等が簡単に行えるよう、ホームページシステムの更新を行った。

4 特色ある取り組みや様々な工夫

(1) 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

○がん医療

外注していた遺伝子検査を院内で迅速処理するため、平成30年度の組織改正で検査部にゲノム検査科を設置した。また、平成31年2月に東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として先進医療B「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定された。また、近年がん治療の新薬として注目されている、免疫チェックポイント阻害剤について、治療対象の拡大に応じ適切な投与を進めた。

平成30年度の診療報酬改定において、胃がん、子宮体がんをはじめ多くのロボット手術が保険収載されたため、速やかに対応できるよう指導医の招へいや物品の購入などの対応を行った。

○児童思春期精神科医療

県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童・思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1とし、専従のコメディカルを配置するなど、手厚い医療を提供した。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導体制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施するとともに、平成30年12月から、児童思春期病床を20床から23床に増床した。

○医療の標準化と最適な医療の提供

白血病等の無菌状態での薬物治療を充実させるため、これまで整備した2床に加え平成30年度新たに7床の無菌室を整備し、合わせて9床とした。

中央病院の理念達成や地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」受審に向け様々な改善の取り組みを行い、2月に本審査を受審した。

○患者サービスの向上

代表電話への繋がりにくさを解消するため、平成31年4月より電話交換手を1名増員し、3名体制とすることとした。また、再来受付機受付後、速やかに検体検査が行えるよう、中央採液室の受付開始時間を15分前倒し8時00分とし、8時15分から採血業務を実施した。また、案内表示モニターを見やすい位置に移設するとともに呼び出しマイクを設置した。さらに、入院などの説明をワンストップで行う入退院センターの増設工事が3月に完了し、個室の面談室を3室から10室に増やした。これに合わせ、現在3科で実施している説明を全診療科に拡大する取り組みを開始した。

(2) 業務運営の改善及び効率化並びに財務状況に関する事項

○効率的な業務運営の実現

医師事務作業補助者の計画的な採用を行い、平成30年10月からは医師事務作業補助体制加算(2.5対1)が取得できた。また、医療機器等の保守料を削減するため、これまで機器ごとに保守契約を締結していた放射線機器等について、一括して保守契約を締結することとした。

○経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の削減

中央病院において、共同購入組織である日本ホスピタルアライアンスに平成28年4月から加盟し、汎用医療材料などの7分野の購入事業に参加した。平成30年度は9分野の共同購入に参加し、80,623千円の経費削減を図ることができた。また、診療材料のベンチマークシステムを活用し、当院が市場価格よりも高く購入している材料を抽出し、平均価格での納入を求め卸業者と交渉し、約930万円の削減を図った。

○効率的な業務運営の実現

職員の心身の健康を維持するため、平成31年4月から中央病院に「健康管理室」を新設し、専従の保健師を配置することとした。また、職員のワークライフバランスの推進と働きやすさ向上ため、平成30年度に夏季休暇の取得可能な期間を2か月拡大したが、平成31年度はさらに2か月拡大し5月～11月に取得可能とした。

職員の能力や業務の実績を適切に評価し、その結果を人材育成や人事管理、給与等の基礎資料として活用するため、人事評価制度の運用を開始した。

(3) その他業務運営に関する事項

○積極的な情報公開

病院機構、中央病院、北病院がそれぞれホームページを開設しており、年度計画や決算状況、理事会の議事録等を公表するとともに、法人組織や診療案内、研修内容や公開講座の案内、採用情報等も掲載した。また、病院の情報発信力を高めるため、各部署においてホームページの作成、修正等が簡単に行えるよう、ホームページシステムの更新を行った。

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 医療の提供
 (1) 政策医療の提供

1 医療の提供
 県立病院機構は、政策医療を確実に県民に提供するとともに、医療の質の向上に努め、県民に信頼される医療を提供すること。
 (1) 政策医療の提供
 救命救急医療、総合周産期母子医療、精神科救急・急性期医療、児童思春期精神科医療など、他の医療機関では対応が困難であるが県民生活に欠かすことのできない政策医療を提供し、本県の基幹病院としての役割を果たすこと。
 また、がん、難病、エイズ、感染症といった県の拠点病院に指定されている疾病について重点的に取り組み、本県の医療水準の向上に先導的な役割を果たすこと。
 さらに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定医療機関としての医療を提供するとともに、精神科の重度・慢性入院患者、重症通院患者の社会復帰を目指すこと。
 なお、政策医療の提供に当たっては、引き続き県内の医療機関、関係行政機関等と適切な連携及び協力を行うこと。

中期計画	年度計画
<p>第2 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療の提供 山梨県の基幹病院として求められる政策医療を的確に実施するとともに、高度・特殊・先駆的な医療の推進をはじめ、県民に信頼される質の高い医療を提供する。</p> <p>(1) 政策医療の提供 ① 県立中央病院 救命救急医療、総合周産期母子医療、がん医療をはじめとした県民生活に欠くことのできない医療の提供に向けて、一層の高度化、専門化を図る。</p>	<p>第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療の提供 (1) 政策医療の提供 ① 県立中央病院 救命救急医療、総合周産期母子医療、がん医療をはじめとした県民生活に欠くことのできない医療の提供に向けて、一層の高度化、専門化を図る。</p>
<p>ア 救命救急医療 山梨県の三次救急医療を担う救命救急センターを中心に救命救急医療を提供するとともに、新たに患者の重症度や緊急性に応じ、柔軟に対応する総合診療科等を開設し、他の医療機関とも連携する中で、救命救急医療の充実を図る。 また、ドクターヘリ及びドクターカーの活用により、早期の救命救急医療を提供する。</p>	<p>ア 救命救急医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 三次救急医療を担う救命救急センターと各診療科が連携を図り、迅速で効率的な治療を行う。 ドクターヘリ及びドクターカーの活用により、早期の救命救急医療を提供する。 総合診療科・感染症科において、どの診療科にも属さない診断困難な患者の診療を行うとともに、救命救急センターと連携し、患者の重症度や緊急性に応じて柔軟に対応していく。 <p>より充実した救命救急医療を提供するため、救命救急センターの区画を拡充し、三次救急患者だけでなく二次救急患者の診療が可能となるよう整備する。また、結核などの感染症隔離室を設置する。</p> <p>三次救急医療を維持していくため、急性期患者転院の協定締結を推進する。</p>

業務実績及び法人の自己評価																																		
<p>(1)救命救急医療</p> <table border="1"> <tr> <th>評価</th> <td>S</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</td> </tr> </table>		評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																														
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																
<ul style="list-style-type: none"> 救命救急センターでは、各消防本部からの要請により、24時間体制で、3次救急患者を受け入れた。また、二次救急患者など必ずしも救命救急センターの対応症例でない患者についても受け入れており、セーフティーネットの役割も担っている。 緊急状態を脱し、状態が安定した患者の一般病棟への転科を促進するなど、救命救急センターと各診療科が連携した治療を行った。 救命救急センターの患者数は、前年度と比べて0.6%増の2,325人となった。 増加する救急患者への対応、三次救急以外の患者を診察する治療スペースを確保するため、救命救急センターの改修に向けた取り組みに着手した。 広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の患者に対する救命医療を行うため、「高度救命救急センター」の指定を受け、より高度で専門的な救急医療を提供できる体制を整備した。 <p>救命救急センターの救急患者の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>1,119</td> <td>1,307</td> <td>2,137</td> <td>2,840</td> <td>2,175</td> <td>2,038</td> <td>2,205</td> <td>2,311</td> <td>2,325</td> <td>(0.6%増)</td> </tr> <tr> <td>手術件数(件)</td> <td>36</td> <td>37</td> <td>60</td> <td>58</td> <td>68</td> <td>66</td> <td>51</td> <td>48</td> <td>62</td> <td>(29.2%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 救急車搬送人数は、6,146人とほぼ横ばいであるが、一次救急や二次救急当番日以外の甲府・中巨摩地区以外から搬送された二次救急患者の受入は昨年度に引き続き高水準となった。 			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		患者数(人)	1,119	1,307	2,137	2,840	2,175	2,038	2,205	2,311	2,325	(0.6%増)	手術件数(件)	36	37	60	58	68	66	51	48	62	(29.2%増)
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																									
患者数(人)	1,119	1,307	2,137	2,840	2,175	2,038	2,205	2,311	2,325	(0.6%増)																								
手術件数(件)	36	37	60	58	68	66	51	48	62	(29.2%増)																								

救急車搬送人数 (単位:人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
一次救急	1,827	2,013	2,082	2,376	2,556	2,882	2,297	3,170	3,170	(増減なし)
二次救急	1,305	1,415	1,577	1,678	1,807	1,984	2,568	1,808	1,867	(3.3%増)
三次救急	1,003	1,012	1,094	1,348	1,194	982	1,235	1,178	1,109	(5.9%減)
計	4,135	4,440	4,753	5,402	5,557	5,848	6,100	6,156	6,146	(0.2%減)

※ 一次救急は、一次救急、二次救急当番日以外に搬送された二次救急患者及び二次救急当番日に甲府・中巨摩地区以外から搬送された二次救急患者

二次救急病院別患者数 (単位:人、%)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
中央病院	3,098	3,181	3,422	3,354	3,698	4,000	4,803	4,401	4,158	4,361	(4.9%増)
その他	13,020	11,990	11,976	12,529	12,799	12,965	11,966	11,111	12,121	11,732	(3.2%減)
合計	16,118	15,171	15,398	15,883	16,497	16,965	16,769	15,512	16,279	16,093	(1.1%減)
中央病院割合	19.2%	21.0%	22.2%	21.1%	22.4%	23.6%	28.6%	28.4%	25.5%	27.1%	(1.6ポイント増)

- 救急患者は、整形外科の対象患者が多いため、整形外科の医師がローテーションで、常時2人の救急応援体制をとった。
- ドクターヘリについては、消防本部などの関係者で3か月に1度、症例検討会を開催しており、実際の事案をもとに、適切な運用について検討を行った。運航開始から通算で27回開催している。
- ドクターヘリの現場から医療機関への搬送時間は平均11分（前年度と同じ）となった。
- ドクターヘリの効率的な運航を図るため、県が当院内に整備を進めていた給油基地が平成30年1月に完成し、給油時間の短縮が図られた結果、再出動までの時間が約9分短縮された。
- ドクターヘリの出動件数は、前年度と比べて7.8%増の581件（現場出動489件、病院間搬送58件、離陸後キャンセル34件）となった。また、ドクターカーの出動件数は0.7%増の579件となった。

出動件数 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
ドクターヘリ	—	—	382	502	420	430	493	539	581	(7.8%増)
ドクターカー	42	118	264	540	604	460	602	575	579	(0.7%増)
計	42	118	646	1,042	1,024	890	1,095	1,114	1,160	(4.1%増)

- 山梨県、神奈川県及び静岡県とのドクターヘリの広域連携を継続して実施した。
- ドクターヘリの3県広域連携の実績(平成26年8月から運航を開始)
- | | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|----------|
| 山梨県→他県 | 4 | 4 | 8 | 5 | 7 | (40.0%増) |
| 他県→山梨県 | 7 | 8 | 3 | 2 | 0 | (皆減) |
- 甲府地区の初期救急における深夜帯診療が中止されたため、平成28年度から二次救急当番日には、初期救急の患者を緊急避難的に受け入れている。さらに、一部の二次救急病院の受入に支障が出ているため、平成30年4月から当院ではこれまで以上に多くの当番日を設け、患者を受け入れた。
 - 総合診療科・感染症科では、地域の医療機関との連携を緊密にとりながら、極めて専門性の高い医療行為を行っており、延べ外来患者数は前年度と比べて5.9%増の6,522人と増加した。また、研修医、山梨大学5年生の受け入れを行い、幅広く地域医療を担っていただける人材の育成に寄与した。

総合診療科の状況 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	
紹介患者数	296	410	524	533	(1.7%増)
延べ入院患者数	2,794	5,818	7,312	6,747	(7.7%減)
延べ外来患者数	3,289	4,258	6,156	6,522	(5.9%増)
初診患者数	1,055	996	1,383	1,489	(7.7%増)
再診患者数	2,234	3,262	4,773	5,033	(5.4%増)
うち救急車患者数	71	243	586	944	(61.1%増)

- 総合診療科・感染症科に、平成28年10月1日から、県内では初となる「渡航・ワクチン外来」を開設し、渡航目的の患者に対して感染症予防接種を行っている。また、平成29年度から輸入ワクチンの使用も開始しており、11月から狂犬病ワクチン、3種混合ワクチン、腸チフスワクチンの取り扱いを行っている。ワクチン接種だけでなく、マラリア予防薬、旅行者下痢症対策、高山病対策の渡航用薬剤の処方を行うこととし、平成30年度の延べ受診者数は前年度に比べ34.7%増の167人となった。

中期計画

イ 総合周産期母子医療

県内唯一の総合周産期母子医療センターとして、地域の分娩取扱医療機関との連携及び診療体制の整備・充実を図りながら、ハイリスクの妊婦・胎児及び新生児に対し、総合的、専門的な医療を提供する。

c

年度計画

イ 総合周産期母子医療

地域の分娩取扱医療機関との連携を図りながら、ハイリスクの妊婦・胎児及び新生児に対し、総合的、専門的な医療を提供する。また、胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児のリスク判定を行うとともに、分娩までの継続的なサポートを行う。

業務実績及び法人の自己評価

(2)総合周産期母子医療

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

山梨大学医学部附属病院などと役割分担し、県内全てのハイリスクの妊婦等を受け入れ、専門的な医療を提供した。特に産褥以外の母体、新生児救急搬送は、当院で振り分けを行うことにより、地域の分娩取扱機関との連携を図りながら総合的・専門的な医療を提供した。

母体、新生児の救急搬送依頼及び受入実績 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
母体	129	118	105	121	111	108	92	97	144	(48.5%増)
中病受入	112	100	85	91	86	86	73	73	90	(23.3%増)
他院受入	17	18	20	30	25	22	19	24	54	(125.0%増)
新生児	85	75	57	81	71	74	91	74	124	(67.6%増)
中病受入	60	44	17	24	17	34	42	27	72	(166.7%増)
他院受入	25	31	40	57	54	40	49	47	52	(10.6%増)

新生児(1,500g以下)の受入状況 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
新生児(1,500g以下)	(93.7%)	(94.4%)	(94.9%)	(89.5%)	(83.6%)	(91.7%)	(90.5%)	(95.0%)	(93.0%)	(2.0ポイント減)
中病入院件数	59	51	56	51	56	44	38	38	40	(5.3%増)
県内全体	63	54	59	57	67	48	42	40	43	(7.5%増)

NICUでの入院児退院支援件数は前年度と比べて2.3%増の178人の退院支援を行ったが、平成30年度から正規職員を配置し、支援の充実を図った。

NICU入院児退院支援件数 (単位:件)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
支援件数	145	148	199	199	174	178

胎児超音波スクリーニング検査などにより、胎児の疾患の早期発見に努めるとともに、分娩までの継続的なサポートを実施した。検査の実施件数は前年度と比較し8.1%増の1635件となった。

超音波スクリーニング検査等の状況 (単位:人)

	H28	H29	H30
妊娠初期胎児超音波スクリーニング検査	39	6	15
妊娠中期胎児超音波スクリーニング検査	907	1,442	1,545
非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)	42	64	75
マイクロアレイ検査	0	0	0
計	988	1,512	1,635

入院環境を改善するため、MFICUの移転、個室化及び陣痛から分娩、産後の回復に至るまで、同じ部屋で過ごせるLDR出産を行える分娩室を整備している。

MFICUの延べ入院患者数は、改修を行った平成29年度大幅に増加したが、平成30年度は前年度と比べ0.5%増の1,562人と高い水準を維持した。

MFICU、NICUの延べ入院患者数 (単位:人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
MFICU	103	121	120	155	113	320	496	1,554	1,562
NICU	4,066	3,859	4,196	4,048	4,169	4,221	3,962	3,841	3,783

分娩取扱件数は、前年度と比べて4.4%増の735件となった。

分娩取扱件数 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
(中病の占める割合)	(10.2%)	(10.9%)	(9.6%)	(11.2%)	(10.1%)	(11.7%)	(12.9%)	(12.3%)	(13.2%)
中病入院件数	676	698	609	697	611	699	750	704	735
県内全体	6,651	6,412	6,336	6,198	6,063	5,987	5,819	5,705	5,556

産後のうつ予防や新生児への虐待予防等を図るため、甲府市ほか3市町から依頼のあった「産婦検診」を平成29年7月から実施した。また、平成30年度からは県内全市町村を対象を拡大し実施した。

産婦検診実績 (単位:人)

	H29	H30
検査者数	485	1,146

※H29年7月より4市町(甲府市、甲斐市、中央市、昭和町)を対象に実施。H30年度より全市町村を対象に実施

ウ がん医療

専門的ながん医療の提供、地域との連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援・情報提供などのがん診療連携拠点病院としての機能を拡充するとともに、院内のより緊密な連携体制を確立する中で、チーム医療を推進するなど、がんの包括的診療体制を充実し、がん医療の質の向上に努める。

(7) がん治療の充実

手術、化学療法及び放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療の推進やがん相談など治療に伴う精神的ケアの支援により、がん治療の充実を図る。

(4) 緩和ケア診療の充実

身体症状及び精神症状の緩和に携わる医師、専門の看護師などで構成される緩和ケアチームを中心に緩和ケア診療を充実する。

(5) キャンサーボードの充実

がん患者の状態や意向を踏まえた適切な治療を行うため、各専門領域の医師が一堂に会して、手術、化学療法、放射線療法などの治療方法を包括的に議論する場であるキャンサーボードを充実する。

(I) ゲノム解析の推進

ゲノム解析センターにおいて、遺伝子情報の解析を行い、科学的根拠に基づいた適切な薬剤投与方法や診断法を確立し、患者の個々人に合わせた次世代型のがん医療創出に向けて、臨床と研究の一体的な取組を推進する。

(a) 遺伝カウンセリングの推進

乳がんや卵巣がん等遺伝子の関与が疑われるがんの患者等に対してカウンセリングを実施し、得られた結果に基づき適切な治療を行う。

ウ がん医療

(7) がん治療の充実

手術、化学療法及び放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療の推進やがん相談など治療に伴う精神的ケアの支援により、がん治療の充実を図る。
がんセミナーや市民公開講座を開催するなど、県民に向けた情報提供等に取り組む。

(4) 緩和ケア診療の充実

身体症状及び精神症状の緩和に携わる医師、専門の看護師などで構成される緩和ケアチームを中心に緩和ケア診療を充実する。

(5) キャンサーボードの充実

がん患者の状態や意向を踏まえた適切な治療を行うため、各専門領域の医師が一堂に会して、手術、化学療法、放射線療法などの治療方法を包括的に議論する場であるキャンサーボードを充実する。

(I) ゲノム解析の推進

ゲノム解析センターにおいて、遺伝子情報の解析を行い、科学的根拠に基づいた適切な薬剤投与方法や診断法を確立し、患者の個々人に合わせた次世代型のがん医療創出に向けて、臨床と研究の一体的な取組を推進する。
ゲノム診療センターを設置し、家族性癌等の遺伝性変異の解明と診療の充実を図る。

(a) 遺伝カウンセリングの推進

乳がんや卵巣がん等遺伝子の関与が疑われるがんの患者等に対してカウンセリングを実施し、得られた結果に基づき適切な治療を行う。

(3)がん医療

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

平成29年5月からから遺伝子外来を開設し、乳がん・卵巣がんの領域において、将来のがん発症リスクの高い患者の判定を行い、カウンセリング検診の回数を増やすことの指導などを行った。
また、外注していた遺伝子検査を院内で迅速処理するため、平成30年度の組織改正で検査部にゲノム検査科を設置した。

血液培養で陽性となった検体から、細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を迅速に同定し、抗菌薬の治療方針決定に役立つ全自動遺伝子解析装置「FilmArray」システムを全国に先駆けて導入した。
7月の本格稼働以来、3月までに374件の検体の遺伝子を解析し、345件について細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を同定した。

遺伝子外来において、乳がん・卵巣がんの領域で、将来のがん発生リスクの高い患者のがん関連遺伝学的検査を9件実施した。

ゲノム解析検査件数は、前年度と比べて65.5%増の1,983件と大幅に増加した。また、検査の内製化を推進し、迅速な対応と経費の削減を図った。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
検査件数	337	313	966	1,152	1,198	1,983	(65.5%増)

遺伝カウンセリングを推進し、得られた結果に基づき適切な治療を行った。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
カウンセリング	2	3	9	27	26	26	(増減なし)

平成31年2月に東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として先進医療B「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定された。また、平成31年度から指定がはじまる「がんゲノム医療拠点病院」の指定を目指し、引き続きがんゲノム医療の推進していく。

肺がん・呼吸器病センター及び肝胆膵・消化器病センターにおいて、内科系と外科系が連携して高度で専門的な医療を提供した。

新規入院患者数は、前年度と比べて0.4%減の14,472人、新規入院がん患者数は、17.3%減の3,133人となった。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
A 年間新規入院患者数	13,497	13,714	13,733	13,644	13,160	13,698	14,444	14,535	14,472	(0.4%減)
B うち年間新規入院がん患者数	4,375	4,246	3,915	3,612	3,491	3,659	4,006	3,788	3,133	(17.3%減)

がん化学療法患者数は、前年度に比べ微減したものの、12,450人と平成22年度と比較し大幅に増加している。特に通院加療がんセンターの患者数は新薬による治療拡大やレジメンの見直しなどにより増加しており、平成22年度と比べて約2.9倍の9,478人となった。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
ATCC	3,287	4,796	4,726	5,006	5,674	6,857	8,303	9,271	9,478	(2.2%増)
入院	1,898	2,594	2,725	2,853	2,801	2,924	3,300	3,220	2,972	(7.7%減)
合計	5,185	7,390	7,451	7,859	8,475	9,781	11,603	12,491	12,450	(0.3%減)

※ATCC:通院加療がんセンター

放射線治療患者数は、前年度と比べて、1.2%増の8,793人となった。また、患者の放射線被ばくによる副作用の軽減及び治療効果を高めるため、多方向からの照射を積極的に行っており、治療門数は、前年度と比べて1.1%増の34,926門となった。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
患者数(人)	11,511	10,809	11,397	9,290	10,347	8,651	9,303	8,686	8,793	(1.2%増)
治療門数(門)	27,464	24,910	29,440	22,669	26,490	24,953	35,457	34,556	34,926	(1.1%増)

- 近年がん治療の新薬として注目されている、免疫チェックポイント阻害剤について、治療対象の拡大に応じ適切な投与を進めた。

免疫チェックポイント阻害薬新規開始患者数 (単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30	計
オプジーボ	1	4	26	56	43	130
キートルーダ	-	-	-	28	35	63
テセントリク	-	-	-	-	10	10
イミフィンジ	-	-	-	-	4	4
ヤーボイ	-	-	1	-	1	2
計	1	4	27	84	93	209

免疫チェックポイント阻害剤使用数量 (単位:本)

	H26	H27	H28	H29	H30
オプジーボ点滴静注100mg	7	37	268	596	439
オプジーボ点滴静注20mg	14	77	583	984	375
オプジーボ点滴静注240mg	-	-	-	-	119
キートルーダ点滴静注100mg	-	-	2	282	279
テセントリク点滴静注1200mg	-	-	-	-	45
イミフィンジ点滴静注120mg	-	-	-	-	13
イミフィンジ点滴静注500mg	-	-	-	-	14
ヤーボイ点滴静注液50mg	-	-	6	0	4

オラパリブの投与

がん化した細胞に対して、特異的に細胞死を誘導することを目的に開発が進められている分子標的薬（PARP阻害剤）であるオラパリブの有効性は、がん抑制遺伝子の一種であるBRCA変異を有する卵巣癌に対し、従来の治療より副作用が少なく、腫瘍の増悪までの期間を延長できると報告されている。PARP阻害剤であるオラパリブの有効性は、既に海外では確立されている。

中央病院では、平成25年度からBRCA検査が自施設（ゲノム解析センター）で可能になり、変異症例に対して、日本では未承認薬であったオラパリブについて、平成27年11月25日に倫理委員会での承認を受け、「プラチナ感受性BRCA変異陽性再発卵巣癌」に対し、MAP（Managed Access Program）を利用したオラパリブ投与という日本で初めての臨床試験を計画し、平成28年1月に1例目の投与を開始した。

また、平成30年1月には製造販売承認され、同年4月には薬価収載されたことから、先行して研究を実施してきた当院では、今後もオラパリブの投与を推進していく。

※ MAP（Managed Access Program）：国内未承認薬で国外ではすでに提供されている薬剤を国内承認まで無償で提供するシステム。但し、独立した国際的第三者機関の承認が必要。

- 高度化する手術環境に対応するため、また、緊急手術など増加する手術ニーズに対応するため、平成31年1月から手術室の看護職員を増員し、看護体制をオンコール制から二交代制に変更した。

手術の状況 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
全麻	2,773	2,628	2,696	2,485	2,710	2,755	3,135	3,095	3,191	(3.1%増)
局麻等	3,164	3,381	3,389	3,698	3,467	3,739	4,061	4,034	4,059	(0.6%増)
計	5,937	6,009	6,085	6,183	6,177	6,494	7,196	7,129	7,250	(1.7%増)

※全麻:全麻のみ、全麻+硬膜、全麻+脊麻の合計、局麻等:脊麻、局麻、静麻、麻酔なしの合計

※H28年度から硬膜外麻酔を含む

- 内視鏡下手術は、低侵襲に手術を施行でき、入院期間を短縮できること、また整容性に優れていることなど様々なメリットがあるため、積極的に実施しており、前年度と比べて10.2%増の949件となった。

内視鏡下手術の状況 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
外科(肺は除く)	51	39	110	129	123	129	205	261	315	(20.7%増)
肺・呼吸器外科	26	32	44	51	114	177	249	201	217	(8.0%増)
婦人科	80	83	47	43	99	202	246	264	258	(2.3%増)
泌尿器科	0	0	0	0	6	11	66	85	115	(35.3%増)
小児外科	4	4	0	0	6	71	52	50	44	(12.0%減)
計	161	158	201	223	348	590	818	861	949	(10.2%増)

- 平成28年度から最新型の低侵襲手術支援ロボットであるda Vinci Xiを導入し、平成29年度までに、前立腺がん手術、腎部分切除術、子宮頸がん手術を実施した。また、平成30年度の診療報酬改定において、胃がん、子宮体がんをはじめ多くのロボット手術が保険収載されたため、速やかに対応できるよう指導医の招へいや物品の購入などの対応を行った。

da Vinci Xi 部位別手術件数 (単位:件)

	H28	H29	H30	計
前立腺	23	39	58	120
腎	5	15	14	34
子宮(体癌)	-	-	26	26
子宮(体癌以外)	8	2	29	39
食道	-	-	2	2
胃	-	-	22	22
計	36	56	151	243

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																									
		<p>がん患者の治療に伴う精神的ケアの充実に積極的に取り組んでおり、相談体制強化のため、がん看護外来を設置し、緩和ケア認定看護師等により、がん治療に対する専門的かつ継続的なカウンセリングを行った。</p> <p>がん相談支援センター相談実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>1,337</td> <td>1,237</td> <td>2,834</td> <td>4,531</td> <td>5,123</td> <td>4,969</td> <td>4,041</td> <td>4,121</td> <td>3,386</td> <td>(17.8%減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>ピアサポート相談延べ件数(試行:H26.11~H27.2/本格開始:H27.4~) (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>23</td> <td>47</td> <td>28</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>(20.0%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>がん看護外来の状況(平成27年8月開設) (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規患者数(人)</td> <td>104</td> <td>363</td> <td>352</td> <td>325</td> <td>(7.7%減)</td> </tr> <tr> <td>面談件数(件)</td> <td>323</td> <td>1,585</td> <td>1,277</td> <td>1,502</td> <td>(17.6%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成28年7月に甲府公共職業安定所と協定書を締結し、がん等の疾病で長期間治療が必要な患者に対し、治療と両立できる求人の開拓や就職後の職場定着の支援を開始した。就労支援に際し就職支援ナビゲーターによる出張相談を当院のがんセンターで実施し、平成30年度は58名の面談を行い2名の就職が実現した。</p> <p>がん医療の啓発活動として、県民向けのがんセミナーを開催し、がんの基礎知識、がん治療の進歩について当院の医師等がわかりやすく解説した。</p> <p>がんセミナー等の開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がんセミナー</td> <td>開催数 6回</td> <td>8回</td> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>(1回減)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>参加者 574人</td> <td>614人</td> <td>407人</td> <td>220人</td> <td>396人</td> <td>226人</td> <td>259人</td> <td>286人</td> <td>186人</td> <td>(35.0%減)</td> </tr> <tr> <td>シンポジウム</td> <td>参加者 —</td> <td>—</td> <td>407人</td> <td>250人</td> <td>204人</td> <td>160人</td> <td>238人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>緩和ケアチームが一般病棟の患者に対し、回診を行った。また、緩和ケア部会では、緩和ケア病棟や緩和ケア外来等の運用や課題について検討を行うとともに、緩和ケア勉強会を3回開催し、がん疼痛のコントロールやせん妄に対する看護について院内外の医療従事者への講義を行った。</p> <p>緩和ケア外来患者、回診の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ外来患者数</td> <td>761</td> <td>1,080</td> <td>988</td> <td>1,340</td> <td>1,183</td> <td>1,501</td> <td>1,053</td> <td>1,686</td> <td>1,300</td> <td>(22.9%減)</td> </tr> <tr> <td>延べ回診患者数</td> <td>—</td> <td>232</td> <td>277</td> <td>360</td> <td>638</td> <td>962</td> <td>1,284</td> <td>1,484</td> <td>2,040</td> <td>(37.5%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>院内外の医療従事者を対象にしたがんカンサードボードを開催し、がん医療の質の向上に努めた。平成30年度は24回実施した。また、平成25年度からは、領域別のがんカンサードボードを開催するだけでなく、包括的に最適な医療を検討する場として、総合がんカンサードボードを開催しており、平成30年度は5回開催し、累計で71回となった。</p> <p>がんカンサードボード実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>42</td> <td>32</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>(17.2%減)</td> </tr> </tbody> </table>		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		相談件数	1,337	1,237	2,834	4,531	5,123	4,969	4,041	4,121	3,386	(17.8%減)		H26	H27	H28	H29	H30		相談件数	23	47	28	20	24	(20.0%増)		H27	H28	H29	H30		新規患者数(人)	104	363	352	325	(7.7%減)	面談件数(件)	323	1,585	1,277	1,502	(17.6%増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		がんセミナー	開催数 6回	8回	6回	5回	5回	5回	5回	4回	3回	(1回減)		参加者 574人	614人	407人	220人	396人	226人	259人	286人	186人	(35.0%減)	シンポジウム	参加者 —	—	407人	250人	204人	160人	238人	—	—			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		延べ外来患者数	761	1,080	988	1,340	1,183	1,501	1,053	1,686	1,300	(22.9%減)	延べ回診患者数	—	232	277	360	638	962	1,284	1,484	2,040	(37.5%増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		実施回数	42	32	23	23	31	27	31	29	24	(17.2%減)
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																		
相談件数	1,337	1,237	2,834	4,531	5,123	4,969	4,041	4,121	3,386	(17.8%減)																																																																																																																																																	
	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																						
相談件数	23	47	28	20	24	(20.0%増)																																																																																																																																																					
	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																							
新規患者数(人)	104	363	352	325	(7.7%減)																																																																																																																																																						
面談件数(件)	323	1,585	1,277	1,502	(17.6%増)																																																																																																																																																						
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																		
がんセミナー	開催数 6回	8回	6回	5回	5回	5回	5回	4回	3回	(1回減)																																																																																																																																																	
	参加者 574人	614人	407人	220人	396人	226人	259人	286人	186人	(35.0%減)																																																																																																																																																	
シンポジウム	参加者 —	—	407人	250人	204人	160人	238人	—	—																																																																																																																																																		
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																		
延べ外来患者数	761	1,080	988	1,340	1,183	1,501	1,053	1,686	1,300	(22.9%減)																																																																																																																																																	
延べ回診患者数	—	232	277	360	638	962	1,284	1,484	2,040	(37.5%増)																																																																																																																																																	
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																		
実施回数	42	32	23	23	31	27	31	29	24	(17.2%減)																																																																																																																																																	
<p>工 難病(特定疾患)医療 専門医の継続的な治療を行うとともに、関係医療機関との連携を強化しながら、最適な医療の提供を行う。</p>	<p>工 難病(特定疾患)医療 専門医の継続的な治療を行うとともに、関係医療機関との連携を強化しながら、最適な医療の提供を行う。 指定難病の疾病数が増加しているため、患者に適切な医療が提供できるよう、臨床調査個人票の作成を適切に行う。</p>	<p>(4)難病(特定疾患)医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>B</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </tbody> </table> <p>難病医療拠点病院として、山梨大学病院と役割分担を行う中で、神経難病を除く特定疾患医療の患者を受け入れ、適切な医療を提供した。</p> <p>臨床調査個人票作成件数は、前年度と比べて2.4%減の964件となった。</p> <p>臨床調査個人票の状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床調査個人票作成件数(新規)</td> <td>97</td> <td>107</td> <td>101</td> <td>105</td> <td>96</td> <td>73</td> <td>140</td> <td>205</td> <td>199</td> <td>(2.9%減)</td> </tr> <tr> <td>臨床調査個人票作成件数(更新)</td> <td>617</td> <td>651</td> <td>581</td> <td>607</td> <td>643</td> <td>652</td> <td>796</td> <td>783</td> <td>765</td> <td>(2.3%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>714</td> <td>758</td> <td>682</td> <td>712</td> <td>739</td> <td>725</td> <td>936</td> <td>988</td> <td>964</td> <td>(2.4%減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注:「臨床調査個人票」…… 難病患者の医療費助成制度の申請に必要な医師の診断書</p>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		臨床調査個人票作成件数(新規)	97	107	101	105	96	73	140	205	199	(2.9%減)	臨床調査個人票作成件数(更新)	617	651	581	607	643	652	796	783	765	(2.3%減)	合計	714	758	682	712	739	725	936	988	964	(2.4%減)																																																																																																							
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																																																																																									
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																																																																																									
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																		
臨床調査個人票作成件数(新規)	97	107	101	105	96	73	140	205	199	(2.9%減)																																																																																																																																																	
臨床調査個人票作成件数(更新)	617	651	581	607	643	652	796	783	765	(2.3%減)																																																																																																																																																	
合計	714	758	682	712	739	725	936	988	964	(2.4%減)																																																																																																																																																	

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																					
<p>オ エイズ医療 患者に対する総合的、専門的な医療を提供するとともに、臨床心理士によるカウンセリングを実施するなど、エイズ治療拠点病院としての機能を発揮する。</p>	<p>オ エイズ医療 患者に対する総合的、専門的な医療を提供するとともに、患者の精神的負担をケアするため、臨床心理士によるカウンセリングを実施する。</p>	<p>(5)エイズ医療</p> <table border="1" data-bbox="1516 226 2804 310"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 医師、看護師による治療、薬剤師による服薬指導、臨床心理士によるカウンセリングなど、多職種による専門的な医療を提供した。 当院でHIV感染を確認した患者数は、前年度と比べて、4.1%増の126人となった。 <p>エイズ患者の状況 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="1516 485 2525 558"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>72</td> <td>82</td> <td>87</td> <td>89</td> <td>94</td> <td>103</td> <td>112</td> <td>121</td> <td>126</td> <td>(4.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※当院でHIV感染を確認した延べ患者数(紹介を含む。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者からの要望に応じ、医師の判断に基づいて、臨床心理士によるカウンセリングを13回実施した。また、エイズ患者に対するチーム医療の推進を図るため、院外の臨床心理士を含めたHIV部会を9回開催し、エイズ患者等の症例検討や診療方針等を決定した。 訪問看護師、訪問介護職員等を対象としたエイズ研修会を開催し、HIV・エイズに関する講義、感染症の予防策の実技等の研修を行った(11月)。 平成22年度からの累計で、臨床心理士によるカウンセリングは91回、HIV部会は92回、エイズ研修会は27回実施した。 <p>臨床心理士によるカウンセリング等の状況 (単位:回)</p> <table border="1" data-bbox="1516 863 2564 982"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カウンセリング</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>22</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>HIV部会</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>(25.0%減)</td> </tr> <tr> <td>エイズ研修会</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>(40.0%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護を行う医療機関、訪問看護事業所、訪問介護事業所及び居宅介護事業所等を支援するため、支援チームを派遣する体制を整えるとともに、平成28年8月からエイズ予防財団が行っている「HIV支援チーム派遣事業」を受託し、支援チーム派遣事業設置中核拠点病院となった。 	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		患者数	72	82	87	89	94	103	112	121	126	(4.1%増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		カウンセリング	3	3	8	4	22	11	14	13	13	(増減なし)	HIV部会	10	10	11	9	10	10	11	12	9	(25.0%減)	エイズ研修会	3	3	2	5	3	1	2	5	3	(40.0%減)
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																														
患者数	72	82	87	89	94	103	112	121	126	(4.1%増)																																																													
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																														
カウンセリング	3	3	8	4	22	11	14	13	13	(増減なし)																																																													
HIV部会	10	10	11	9	10	10	11	12	9	(25.0%減)																																																													
エイズ研修会	3	3	2	5	3	1	2	5	3	(40.0%減)																																																													
<p>カ 感染症医療 一類感染症(エボラ出血熱など7疾患)患者を受け入れる病室を活用し、第1種感染症指定医療機関としての医療を提供する。 また、新型インフルエンザ患者など感染症患者に対する外来診療や、重篤患者に対する陰圧個室を使った入院治療など、専門的な医療を提供する。</p>	<p>カ 感染症医療 一類感染症(エボラ出血熱など7疾患)患者を受け入れる病室を活用し、第1種感染症指定医療機関としての医療を提供する。 また、新型インフルエンザ患者など感染症患者に対する外来診療や、重篤患者に対する陰圧個室を使った入院治療など、専門的な医療を提供する。</p>	<p>(6)感染症医療</p> <table border="1" data-bbox="1516 1165 2804 1249"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 総合診療科・感染症科の医師及び感染対策室に感染症専従看護師を配置し、院内の感染症対策の強化を図った。また、平成31年度から、感染対策室に専従の看護師を2名増員し、感染対策の更なる強化を図ることとした。 一類感染症の患者を受け入れられる感染症病床2床、結核病床16床を確保し、受け入れ体制を整えている。結核病床の入院患者数は、昨年度に比べ24.2%減の25人であり、延べ入院患者数は、9.7%増の1,892人となった。 <p>結核病床入院患者の状況 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="1516 1486 2546 1577"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規入院患者数</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>36</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>25</td> <td>(24.2%減)</td> </tr> <tr> <td>年間延べ入院患者数</td> <td>3,078</td> <td>2,414</td> <td>2,818</td> <td>1,655</td> <td>2,184</td> <td>1,230</td> <td>1,394</td> <td>1,724</td> <td>1,892</td> <td>(9.7%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策地域連携加算の算定要件となっている相互評価について、これまで県内の病院と実施していたが、平成30年度は感染対策の先進病院である千葉県亀田総合病院と実施した。 水痘、汎発性帯状疱疹などの空気感染対策が必要な患者に対して、陰圧個室を使った入院治療を行った。また、陰圧個室の入院患者数は、前年度と比べて15.4%増の15人となった。 <p>陰圧個室治療患者の状況 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="1516 1766 2564 1839"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>(15.4%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 血液培養で陽性となった検体から、細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を迅速に同定し、抗菌薬の治療方針決定に役立つ全自動遺伝子解析装置「FilmArray」システムを全国に先駆けて導入した。 7月の本格稼働以来、3月までに374件の検体の遺伝子を解析し、345件について細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を同定した(前述P9)。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		新規入院患者数	8	7	44	24	36	27	27	33	25	(24.2%減)	年間延べ入院患者数	3,078	2,414	2,818	1,655	2,184	1,230	1,394	1,724	1,892	(9.7%増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		患者数	5	4	5	8	11	13	7	13	15	(15.4%増)											
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																														
新規入院患者数	8	7	44	24	36	27	27	33	25	(24.2%減)																																																													
年間延べ入院患者数	3,078	2,414	2,818	1,655	2,184	1,230	1,394	1,724	1,892	(9.7%増)																																																													
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																														
患者数	5	4	5	8	11	13	7	13	15	(15.4%増)																																																													

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																															
		<ul style="list-style-type: none"> 第1種感染症指定医療機関として、専門医及び感染症専従看護師により、感染症発生時の迅速な対応と感染症医療の充実、強化を図っている。 専門医による感染症診断を行うための血液培養などの正しい検査の方法や適正な抗生物質の使用などの研修会を実施するとともに、AMS (Antimicrobial stewardship [抗菌薬適正使用]) による感染抑制、感染症診療に取り組んだ。この結果、抗生物質(カルバペネム)の投与患者数は、前年度と比べて9.7%減少し、243人となった。 <table border="1" data-bbox="1525 388 2715 472"> <caption>抗生物質(カルバペネム)の使用状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>投与患者数</td> <td>959</td> <td>933</td> <td>865</td> <td>784</td> <td>773</td> <td>412</td> <td>309</td> <td>269</td> <td>243</td> <td>(9.7%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 県内の他院を受診した感染症の疑いのある患者について、当院に在籍する感染症専門医が適切な診断、治療を行うなど、専門的な医療を提供した。 		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		投与患者数	959	933	865	784	773	412	309	269	243	(9.7%減)																																									
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																								
投与患者数	959	933	865	784	773	412	309	269	243	(9.7%減)																																																							
<p>②県立北病院 精神科救急・急性期医療や通院医療などの充実を図るとともに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院・通院医療機関としての役割を果たす。</p>	<p>②県立北病院 増加する救急患者や児童思春期患者に対応するため、医療体制の充実を図り、手厚い治療と多職種治療チームによる総合的で一貫した医療を提供する。</p>																																																																
<p>ア 精神科救急・急性期医療 本県における精神科救急医療体制の強化に対応するとともに、集中的な治療を要する患者に、急性期の特性に合わせて、手厚い治療と多職種治療チームによる総合的で一貫した医療を提供することで早期退院を図り、通院や退院後のリハビリテーションに結びつける。</p>	<p>ア 精神科救急・急性期医療 本県における精神科救急医療体制の強化に対応するとともに、集中的な治療を要する患者に、急性期の特性に合わせて、手厚い治療と多職種治療チームによる総合的で一貫した医療を提供することで早期退院を図り、通院や退院後のリハビリテーションに結びつける。</p>	<p>(7)精神科救急・急性期医療</p> <table border="1" data-bbox="1516 800 2807 884"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> スーパー救急病棟2病棟への入院患者に対しては、集中した治療を実施した。延べ入院患者数は、前年度と比べて、6.9%減の22,172人であったが、平成30年4月の診療報酬改定で定められた「時間外・休日・深夜の診療件数(いずれも電話等再診を除く)」の必要数300件に対し445件や、「時間外・休日・深夜の入院件数」の必要数80件に対し125件等、施設基準を大幅に満たしている。 毎週、医師、看護師、ケースワーカー、デイケアに携わるコメディカルスタッフによるケース会議を開催し、患者の治療、退院促進、退院後のリハビリテーション等について、総合的で一貫した医療を提供した。 <table border="1" data-bbox="1525 1142 2754 1255"> <caption>救急病棟入院患者・平均在棟日数の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ患者数(人)</td> <td>14,325</td> <td>13,958</td> <td>13,604</td> <td>17,131</td> <td>21,523</td> <td>23,122</td> <td>23,801</td> <td>23,818</td> <td>22,172</td> <td>(6.9%減)</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数(日)</td> <td>65.8</td> <td>64.6</td> <td>59.9</td> <td>47.1</td> <td>42.7</td> <td>50.8</td> <td>43.5</td> <td>47.8</td> <td>53</td> <td>(5.2日増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の24時間化に対応し、精神科救急受診相談センターの業務の一部を担うとともに、センターで救急医療が必要と判断された患者を常時対応型病院として受け入れる体制を構築した。受入患者数は前年度と比較し7.0%増の76人となった。 <table border="1" data-bbox="1525 1381 2249 1528"> <caption>精神科救急医療の受入状況 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入件数</td> <td>67</td> <td>69</td> <td>71</td> <td>76</td> <td>(7.0%増)</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>38</td> <td>48</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>(1.9%増)</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>29</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>(23.5%増)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている					H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		延べ患者数(人)	14,325	13,958	13,604	17,131	21,523	23,122	23,801	23,818	22,172	(6.9%減)	平均在院日数(日)	65.8	64.6	59.9	47.1	42.7	50.8	43.5	47.8	53	(5.2日増)		H27	H28	H29	H30		受入件数	67	69	71	76	(7.0%増)	入院	38	48	54	55	(1.9%増)	外来	29	21	17	21	(23.5%増)
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																															
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																								
延べ患者数(人)	14,325	13,958	13,604	17,131	21,523	23,122	23,801	23,818	22,172	(6.9%減)																																																							
平均在院日数(日)	65.8	64.6	59.9	47.1	42.7	50.8	43.5	47.8	53	(5.2日増)																																																							
	H27	H28	H29	H30																																																													
受入件数	67	69	71	76	(7.0%増)																																																												
入院	38	48	54	55	(1.9%増)																																																												
外来	29	21	17	21	(23.5%増)																																																												
<p>イ 児童思春期精神科医療 思春期に特有な精神疾患の治療について、県内唯一の児童思春期病棟を有する病院として、より高度で専門的な医療を関係機関と連携して提供する。</p>	<p>イ 児童思春期精神科医療 思春期に特有な精神疾患の治療について、県内唯一の児童思春期病棟を有する病院として、関係医療機関と連携して病態に応じた医療を行うなど、より高度で専門的な児童思春期医療を提供する。</p>	<p>(8)児童思春期精神科医療</p> <table border="1" data-bbox="1516 1598 2807 1682"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>S</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童・思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1とし、専従のコメディカルを配置するなど、手厚い医療を提供した。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導体制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施するとともに、平成30年12月から、児童思春期病床を20床から23床に増床した。 児童思春期病棟の延べ入院患者数は、前年度と比べて16.4%増の5,812人、外来患者数は1.3%増の4,674人となった。 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																												
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																															

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																			
		<p>・ こころの発達総合支援センターと連携を図り、児童思春期症例の患者を専門に診療するとともに、思春期精神科ショートケアを週3回実施し、前年度と比べて33.2%増の526人の参加者があった。</p> <p>児童思春期患者の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>3,607人</td> <td>2,960人</td> <td>3,133人</td> <td>4,193人</td> <td>4,067人</td> <td>4,843人</td> <td>4,716人</td> <td>4,993人</td> <td>5,812人</td> <td>(16.4%増)</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>65.3日</td> <td>61.4日</td> <td>55.0日</td> <td>59.0日</td> <td>62.1日</td> <td>67.7日</td> <td>86.5日</td> <td>71.3日</td> <td>84.8日</td> <td>(13.5日増)</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>2,424人</td> <td>2,660人</td> <td>2,536人</td> <td>3,031人</td> <td>3,178人</td> <td>3,619人</td> <td>4,019人</td> <td>4,614人</td> <td>4,674人</td> <td>(1.3%増)</td> </tr> <tr> <td>ショートケア参加者数</td> <td>562人</td> <td>600人</td> <td>551人</td> <td>237人</td> <td>264人</td> <td>276人</td> <td>316人</td> <td>395人</td> <td>526人</td> <td>(33.2%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 児童思春期症例の患者の家族を対象に、家族支援プログラムを導入することにより、患者と家族をサポートしている。平成29年度からは、通院患者家族に対しても家族支援プログラムの導入を開始し、平成30年度は入院患者家族103名、通院患者家族122名、計225名が受講した。</p> <p>・ 児童思春期患者に対する通院治療の充実を図るため、2名の常勤専門医や専任の精神保健福祉士を配置した。その結果、平成28年7月から児童思春期精神科専門管理加算の算定が可能となった。平成30年度は延べ1,568人の患者が加算の対象となった。</p>		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		入院患者数	3,607人	2,960人	3,133人	4,193人	4,067人	4,843人	4,716人	4,993人	5,812人	(16.4%増)	平均在院日数	65.3日	61.4日	55.0日	59.0日	62.1日	67.7日	86.5日	71.3日	84.8日	(13.5日増)	外来患者数	2,424人	2,660人	2,536人	3,031人	3,178人	3,619人	4,019人	4,614人	4,674人	(1.3%増)	ショートケア参加者数	562人	600人	551人	237人	264人	276人	316人	395人	526人	(33.2%増)																												
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																												
入院患者数	3,607人	2,960人	3,133人	4,193人	4,067人	4,843人	4,716人	4,993人	5,812人	(16.4%増)																																																																											
平均在院日数	65.3日	61.4日	55.0日	59.0日	62.1日	67.7日	86.5日	71.3日	84.8日	(13.5日増)																																																																											
外来患者数	2,424人	2,660人	2,536人	3,031人	3,178人	3,619人	4,019人	4,614人	4,674人	(1.3%増)																																																																											
ショートケア参加者数	562人	600人	551人	237人	264人	276人	316人	395人	526人	(33.2%増)																																																																											
<p>ウ 心神喪失者等医療観察法に基づく医療 心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関として最適な医療を提供し、対象者に対して、指定入院から指定通院に向かう一貫した治療体系の中で適切な治療を提供し、社会復帰の促進を図る。</p>	<p>ウ 心神喪失者等医療観察法に基づく医療 多職種治療チームによる充実した医療を提供し、対象者の社会復帰を促進するとともに、社会復帰した対象者の通院治療について充実を図る。</p>	<p>(9)心神喪失者等医療観察法に基づく医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>A</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 県内唯一の指定入院医療機関として多職種治療チームによる手厚い医療を提供し、退院と社会復帰を進めている。平成30年度における5床の指定入院病床の稼働率は50.5%であった。</p> <p>・ 通院対象者に対しては、多職種治療チーム(MDT)による治療体制を継続する中で、デイケアや訪問看護も実施し、多くの通院患者を支える体制を継続している。</p> <p>入院対象者数の状況(3月31日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院対象者数</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>新規者数</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>(皆増)</td> </tr> <tr> <td>転入者数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>(皆減)</td> </tr> <tr> <td>退院者数</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>転院者数</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>通院対象者数</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		入院対象者数	3	5	5	5	4	4	5	3	3	(増減なし)	新規者数	3	5	2	1	2	2	2	0	3	(皆増)	転入者数	0	0	0	3	2	0	2	1	0	(皆減)	退院者数	0	2	1	5	4	2	3	3	3	(増減なし)	転院者数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	(増減なし)	通院対象者数	0	2	2	5	10	9	7	6	6	(増減なし)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																			
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																			
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																												
入院対象者数	3	5	5	5	4	4	5	3	3	(増減なし)																																																																											
新規者数	3	5	2	1	2	2	2	0	3	(皆増)																																																																											
転入者数	0	0	0	3	2	0	2	1	0	(皆減)																																																																											
退院者数	0	2	1	5	4	2	3	3	3	(増減なし)																																																																											
転院者数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	(増減なし)																																																																											
通院対象者数	0	2	2	5	10	9	7	6	6	(増減なし)																																																																											
<p>エ 重度・慢性入院患者への医療 集中的な救急・急性期治療によっても早期の退院が困難な重症患者や長期在院重症患者に、さらに高度な薬物治療等や多職種治療チームによる治療体制を構築し、退院と社会復帰を目指す。</p>	<p>エ 重度・慢性入院患者への医療 重症患者や長期在院重症患者に対し、さらに高度な医療を提供するとともに、多職種治療チームによる治療体制の充実を図り、退院と社会復帰を目指す。</p>	<p>(10)重度・慢性入院患者への医療</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>A</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 1年以上入院を継続し、精神症状が重く、自傷他害のリスク、社会適応能力の重大な問題等のため退院が困難な重度・慢性入院患者15人に対し、症例に応じて統合失調症の治療薬であるクロザピンの処方やm-ECTの施術などを行うとともに、院内多職種(必要時、地域関係者を含む)による治療体制を構築して治療にあたり、5人を退院させることができた。なお、県内において北病院がその大部分を実施しているクロザピンの治療は、人口10万人当たりの使用患者数が全国上位であるとともに、副作用モニタリングシステムを全国へ提案するなど、先進的な取り組みを実施している。</p> <p>・ 長期患者退院推進会議を毎月開催し、重症患者に対する退院と社会復帰を計画的に進めた。</p> <p>高度な精神科医療の状況 (単位:回・人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">m-ECT</td> <td>実施回数</td> <td>717</td> <td>697</td> <td>686</td> <td>530</td> <td>663</td> <td>657</td> <td>617</td> <td>650</td> <td>661</td> <td>(1.7%増)</td> </tr> <tr> <td>新規開始患者数</td> <td>87</td> <td>78</td> <td>71</td> <td>57</td> <td>63</td> <td>74</td> <td>67</td> <td>70</td> <td>76</td> <td>(8.6%増)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">クロザピン</td> <td>使用者数</td> <td>14</td> <td>23</td> <td>53</td> <td>62</td> <td>75</td> <td>87</td> <td>95</td> <td>102</td> <td>118</td> <td>(15.7%増)</td> </tr> <tr> <td>投与継続者数</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>30</td> <td>43</td> <td>52</td> <td>48</td> <td>58</td> <td>57</td> <td>68</td> <td>(19.3%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※m-ECT:修正型電気けいれん療法 クロザピン:治療抵抗性統合失調症の治療薬</p>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		m-ECT	実施回数	717	697	686	530	663	657	617	650	661	(1.7%増)	新規開始患者数	87	78	71	57	63	74	67	70	76	(8.6%増)	クロザピン	使用者数	14	23	53	62	75	87	95	102	118	(15.7%増)	投与継続者数	9	16	30	43	52	48	58	57	68	(19.3%増)																			
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																			
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																			
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																											
m-ECT	実施回数	717	697	686	530	663	657	617	650	661	(1.7%増)																																																																										
	新規開始患者数	87	78	71	57	63	74	67	70	76	(8.6%増)																																																																										
クロザピン	使用者数	14	23	53	62	75	87	95	102	118	(15.7%増)																																																																										
	投与継続者数	9	16	30	43	52	48	58	57	68	(19.3%増)																																																																										

中期計画

オ 重症通院患者への医療

救急・急性期、重度・慢性患者への入院医療、指定入院医療などから退院し、地域で生活する重症患者に対して、関係機関と連携し、多職種治療チームによるデイケアなどの通院治療やアウトリーチ（訪問支援）などにより医療を提供する体制を強化し、地域社会への適応を促進する。

年度計画

オ 重症通院患者への医療

地域で生活する重症通院患者の治療中断による重症化や問題行動の再発等を防ぐとともに、退院後も地域で生活する患者に対して継続的に支援を行い、患者に適応した医療を提供するために、訪問看護ステーションの設置、運営に関する検討を進める。また、デイケアにおいては、治療プログラムの多様化・高度化を図る。

業務実績及び法人の自己評価

(11)重症通院患者への医療

評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている
----	---	---------------------------

- ・医療の中断、自傷・他害行為等のリスクが高く、入退院を繰り返してきた重症通院患者に対し、多職種治療チーム（MDT）による適切な医療の提供や地域での生活を支援するため、平成28年4月に重症通院患者支援推進会議を設置し、治療方針の決定、病状の経過観察等を行っている。
- ・平成28年7月に発生した津久井やまゆり園での殺傷事件を受け、措置入院患者の措置解除の決定等を行う場合には、当該推進会議において協議を行うこととした。また、平成30年4月の診療報酬改定で、措置入院患者への入院中及び退院後半年間の通院時への対応について加算が算定できるようになり、患者の治療、援助全体を統括していく場として当該推進会議の重要性がより増加した。
- ・登録患者24人に対し、訪問（18人）204回、デイケア（6人）402回を実施するとともに、7人には多職種治療チーム（MDT）を編成し、また11人には地域関係者を含むカンファレンスを行い、治療に当たった。

重症通院患者への医療(実績)

	H27	H28	H29	H30	H31
重症通院患者数（人） （登録患者数）	25	31	36	24	-
訪問延数（回）	427	390	395	204	-
うち訪問対象者数/1人あたり実施回数	25人/17回	25人/16回	25人/16回	18人/11回	-
デイケア延数（回）	622	444	499	402	-
うちデイケア対象者数/1人あたり実施回数	9人/69回	10人/44回	9人/55回	6人/67回	-
MDTチーム数	14	10	8	7	-
カンファレンス対象者数（人）	14	13	14	11	-

- ・退院後、地域で生活する重症通院患者の多様かつ増大する医療ニーズに対して継続的に支援を行うため、訪問看護ステーションの設置、運営に関する検討を進め、平成31年4月に開所、サービスを開始した。
- ・デイケアにおいては、治療プログラムの多様化・高度化に向け検討を進めた。平成31年度から患者の特性に合わせた新たな枠組みでのプログラムを考案し、重症通院患者の新たな参加を促している。

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 医療の提供
 (2) 質の高い医療の提供

中期目標
 1 医療の提供
 (2) 質の高い医療の提供
 医師、看護師等（以下「医療従事者」という。）の専門的な知識の取得と技術の向上に努めるとともに、病院施設、医療機器等の整備を計画的に行い、質の高い医療を提供すること。

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																			
<p>(2) 質の高い医療の提供 県立病院機構の有するあらゆる医療資源を活かし、各部門の密接な連携を図る中で、地方独立行政法人制度の特長である弾力的・効率的で透明性の高い運営を行い、より一層県民に信頼される質の高い医療を提供する。</p> <p>①医療従事者の育成、確保及び定着 高度で専門的な医療を提供するため、関係機関との連携を図り、人間的資質が優れ、診療能力が高い医師、看護師等（以下「医療従事者」という。）の育成、確保及び定着に努める。 また、医師事務作業補助者及び看護補助者を拡充し、医療従事者の業務負担の軽減及び処遇の改善を図る。</p>	<p>(2) 質の高い医療の提供</p> <p>①医療従事者の育成、確保及び定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度で専門的な医療を提供するため、関係機関との連携を図り、人間的資質が優れ、診療能力が高い医療従事者の育成、確保及び定着に努める。 研修医向けの実践的講座の充実を図るとともに、医師の研修内容や育成方法について検討を進める。 医学生を対象とした臨床研修プログラムの説明会を開催するとともに、病院説明会の実施等の広報活動を行い、臨床研修医の確保に努める。 医師事務作業補助者及び看護補助者を拡充し、医療従事者の業務負担の軽減及び処遇の改善を図る。 	<p>業務実績及び法人の自己評価</p> <p>(12)医療従事者の育成、確保及び定着</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">評価</td> <td style="width: 5%;">S</td> <td style="width: 85%;">当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 総合診療・感染症医療に優れた医師(H27)、ダヴィンチのエキスパート(H28)、肝胆膵疾患、特に肝臓がんの日本有数の治療歴を有する専門医、小児循環器疾患で、県内で多くの経験を積む専門医、循環器領域、殊に不整脈のカテーテル治療の技能を有する専門医(いずれもH29)、ゲノム医療遂行のための医師(H30)、大動脈ステントグラフト内挿術治療の技術を有する専門医(H30、H31)、胃がんに対する腹腔鏡手術、ロボット手術の経験を積む専門医(H31)を採用してきた。これらの専門的な知識を持った医師の卓越した技術により、質の高い医療を提供するとともに、若手医師の育成にも取り組んだ。 中央病院の精神科医療を充実強化するため、平成28年度から精神科医と精神保健福祉士を北病院から配置することで、精神科医師を2人体制とし、治療(精神科リエゾン)を行った。精神科医や精神保健福祉士など多職種による病棟回診の延べ患者数は945人となった。また、平成30年度からは中央病院の精神科に認定看護師を配置し、7月から「精神科リエゾンチーム加算」を取得した。 最新情報を研修医と上級専門医が解説するカンファレンスであるMedical&Surgical Ground Rounds (MSGR)を、平成30年度は20回実施し、累計で152回となった。毎回参加者は40人を超え、熱心な議論が交わされた。 平成30年度からスタートした新専門医制度において、当機構では、「内科」「救急科」「整形外科」「総合診療科」「外科」「精神科」の6つの領域で基幹施設として専門研修プログラムが承認されている。平成30年度は基幹施設として内科5名、救急科1名、精神科1名、連携施設として内科1名、外科1名、産婦人科2名、精神科1名の計12名の専攻医を採用した。また、平成31年度は、基幹施設として内科2名、外科2名、救急科2名、精神科2名、連携施設として内科2名、整形外科1名、小児科1名、産婦人科1名、皮膚科1名の計14名の専攻医を採用した。 県外の学生も含め幅広く人材を確保するため、レジナビフェアへの出展等積極的な広報活動を展開するとともに、レイトスプリングキャンプ(2回、26人)、サマーキャンプ(1回、13人)、スプリングキャンプ(1回、11人)を実施した。 本県への医師の定着を促進するため、平成30年度初期臨床研修において、17人の定員で募集を行ったところ、平成31年度総合研修プログラムのマッチ率は100%となった。また、より多くの臨床研修医を確保するため、中央病院の研修医の募集定員を拡大(19人→25人)について準備を進めた。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <caption>初期臨床研修医のマッチ状況 総合研修プログラム</caption> <thead> <tr> <th>採用年度</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>(1人増)</td> </tr> <tr> <td>マッチ者数</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>(3人増)</td> </tr> <tr> <td>マッチ率</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>68.8%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>72.2%</td> <td>100.0%</td> <td>94.4%</td> <td>87.5%</td> <td>100.0%</td> <td>(12.5ポイント増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 北病院では、医学生等を対象としたサマーセミナー(1回 8人参加)を実施した。また、若手医師主催による初期臨床研修医との親睦会(8回)の実施等、積極的に医師確保に向けた活動を行った。 北病院医局にてフェイスブックによる病院紹介を始めるなど、広報活動の充実を図った。 	評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている	採用年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31		定員	12	12	16	16	16	18	18	18	16	17	(1人増)	マッチ者数	12	12	11	16	16	13	18	17	14	17	(3人増)	マッチ率	100.0%	100.0%	68.8%	100.0%	100.0%	72.2%	100.0%	94.4%	87.5%	100.0%	(12.5ポイント増)
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																			
採用年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31																																											
定員	12	12	16	16	16	18	18	18	16	17	(1人増)																																										
マッチ者数	12	12	11	16	16	13	18	17	14	17	(3人増)																																										
マッチ率	100.0%	100.0%	68.8%	100.0%	100.0%	72.2%	100.0%	94.4%	87.5%	100.0%	(12.5ポイント増)																																										

中期計画

年度計画

業務実績及び法人の自己評価

② 7対1看護体制への柔軟な対応

患者一人一人の症状に応じたきめ細かな看護を実施し、患者にとって良好な療養環境を確保するため、県立中央病院において、今後変革が予想される7対1看護体制への柔軟な対応を図る。

② 7対1看護体制への柔軟な対応

・ 看護師採用試験の複数回実施や中途採用などにより、必要な看護師の確保を図るとともに、適切な人事管理や運用病床の運営、業務改善を行い、7対1看護体制を継続する。
 看護職員の確保のため、次年度採用予定者に対して、看護師資格取得に向けた支援を行う。また、新任の看護職員に対し、連帯感の向上に向けた研修の充実を図る。
 更に、ベテランの看護職員を看護職員人材育成アドバイザーに任じ、看護師養成機関との就職に関する窓口として役割を果たすとともに、就職活動から新人看護師の期間を通じた様々な相談に親身に対応することで、看護職員の採用の拡大、離職の低減を図る。

- ・ 平成27年度から、山梨大学医学部5年次生全員の臨床実習を受け入れている。平成30年度は、18グループ104人に対して2週間の実習を実施した。
- ・ 医療事務作業補助者を9人採用し、医師等の医療従事者の業務負担の軽減を図った。年度末の人数は14.3%増加し56人となった。

医療事務補助職員の状況 (単位:人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
職員数	19	22	31	39	46	49	56 (14.3%増)
DPC	0	0	0	20	18	16	17
診療情報管理	9	3	6	4	10	8	8
DC	7	10	9	12	15	23	27
診療報酬	3	9	16	3	3	2	4

(13)7対1看護体制への柔軟な対応

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

- ・ 看護師採用試験の複数回実施、正規職員の中途採用などにより平成31年度当初は平成30年度から44名増員し625人の看護師を確保した。また、看護師の負担軽減、時間内就業の実現、パートナーシップ・ナーシング・システムの導入、夜勤専従看護職員の配置などの取り組みにより、7対1看護体制の継続に努めた。(※2人の看護師がパートナーを組んで複数の患者を受け持ち、お互いに補完・協力して看護業務を行う。)

看護師数及び時間外勤務の状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
看護師総数	528人	534人	530人	526人	529人	533人	533人	553人	581人	625人 (7.6%増)
看護師月平均時間外勤務時間(時間)	6.3h	7.4h	9.5h	8.8h	7.9h	6.7h	7.7h	7.4h	8.4h	- (13.5%増)

看護師(正規職員)の中途採用の状況 (単位:人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
7月	5	3		2	2	3	5	2	2
8月	2	3					1		1
9月									1
10月	2			5		2			
11月					2		1		
12月				1					
1月		2	4						
計	4	10	7	8	4	5	7	2	4

- ・ 看護師確保対策として、看護師試験を年6回実施し、平成31年度採用者数は、前年度に比べて5.1%増の82人となった。

看護師の採用状況 (単位:人)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
4月1日採用者	52	55	50	60	54	62	78	82 (5.1%増)

- ・ 看護師確保を強化するため、人材確保対策担当の専従職員を2名配置し、病院説明会、インターンシップを充実させるとともに、県外での就職ガイダンスに参加した。また、県内の看護職養成機関を訪問し、採用者の状況や病院の特色、学生の現状など情報交換し、相互理解を深めることができた。

- ・ 理事長による県立大学の看護実習生を対象とした講話を実施した。県内においてもゲノム解析、がん医療などの最先端の医療提供が行われていること、チーム医療による看護の重要性などを内容としており、県内及び当機構に就職する動機づけになっている。平成30年度は3年生後期実習において4回実施した。

- ・ 看護に対する正しい知識と理解を深めるとともに、看護を志す動機づけの一助とするため、看護に関心のある県内高校生の体験実習を受け入れた。

- ・ パートナーシップ・ナーシング・システムの定着、指導体制の見直しによる教育支援の実践、体験型のシミュレーション研修などニーズに沿った研修の実施等の取り組みを行った。また、新任看護職員の間関係の構築、連帯感の向上を図るため、5月に清里で1泊2日の宿泊研修を実施した。さらに、新規採用者や採用2年目の看護師の成長支援を行い、離職防止の一助とするため、看護学生教育機関の教員による病院参観を実施した。この結果、正規看護師、新卒看護師ともに離職率が全国平均を下回ることができた。

正規看護師の離職率 (単位:%)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
中央病院	8.9	8.8	9.6	8.1	8.8	9.0	6.4	7.4	6.4
全国平均	11.2	10.9	11.0	11.0	10.8	10.9	10.9	10.9	10.9

新卒看護師の離職率 (単位:%)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
中央病院	3.0	11.1	12.2	9.0	5.3	17.6	0.0	1.9	4.6
全国平均	8.6	7.5	7.9	7.5	7.5	7.8	7.6	7.5	7.5

- ・ 継続看護の充実ならびに人材の有効活用に向けて病棟と外来の一元化に取り組んだ。その結果、産科及び整形・形成外科において、病棟と外来の一元化が実現し、スタッフのスキルアップにもつながった。

③医療の標準化と最適な医療の提供

治療内容とタイムスケジュールを明確に示すことで患者の不安を解消するとともに、治療手順の標準化、平均在院日数の適正化など、最適な医療を提供するため、クリニカルパスを推進する。
また、診断群分類包括評価（DPC）から得られる詳細な診療情報を、診療科や疾患別のデータ分析、クリニカルパスの見直し、後発医薬品の採用推進などに積極的に活用する。

③医療の標準化と最適な医療の提供

- クリニカルパスの電子化を進めるとともに、DPCから得られる情報を活用し、随時、クリニカルパスの点検・見直しを行う。
- DPCから得られる多様な診療情報を活用し、医療の標準化や効率化を図る。
- 疾病統計により、医療の安全管理、質の向上を図り、病状に応じた適切な医療を提供していくため、診療情報管理士の配置の充実について検討を行う。
- 手術件数が増加していることから、適切な医療を提供していくため、麻酔科医、看護師の増員及び業務委託などについて検討を行う。
- 脳卒中患者に対する血管内治療などの急性期集中治療だけでなく、急性期リハビリテーションの導入に向け、調査、研究を行う。
- 中央病院精神科において、一般の身体医療の中で起こる様々な精神科疾患に対して、精神科医等が共同して治療を行う（精神科リエゾン）とともに、入院治療が必要な精神科疾患の患者の紹介など、北病院等との連携を強化する。
- リニアックを活用し、画像誘導放射線治療（IGRT）などの高精度放射線治療を積極的に進める。
- 前立腺がん、腎臓がんなどに対し、最新のロボット手術システムを活用し、低侵襲で最適な医療を提供する。また、子宮頸がん、胃がんについては、先進医療の承認、又は保険収載後に速やかに手術が行えるよう取り組みを進める。
- ゲノム診療センターを設置し、家族性癌等の遺伝性変異の解明と診療の充実を図る（再掲）。
- 造血幹細胞移植を進めるとともに、白血病等の無菌状態での薬物治療が必要な患者の受け入れを拡大するため、現在2床の無菌室を新たに8床整備し10床とする。
- 肝臓、胆のう、膵臓について、内科と外科が一体となって治療を行うため、肝胆膵・消化器病センターを設置する。
- 心臓等の循環器系の疾病に対して、内科と外科が一体となって治療を行うため、循環器病センターを設置する。
- 平成29年度に設置した、肝胆膵・消化器病センター及び循環器病センターにおいて、内科と外科が一体となった治療を実施する。
- がん及び感染症に関する遺伝子検査を迅速かつ低廉に実施するため、検査部の中にゲノム検査科を設置する。

- パートナーシップ・ナーシング・システムを平成27年度から本格導入した。その日の患者の状況に応じて、各病棟にてペアを決めており、全体で毎日50組程度のペアにより看護を行った。また、7対1看護体制を維持するため、夜間専従看護職員を配置している（概ね各病棟に1人配置）。

夜勤専従看護職員の状況

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
配置病棟数(配置病棟/7対1病棟)	14/14	13/13	12/13	12/13	14/11	11/13	(21.4%減)
延べ人数(月単位)	66	134	120	140	85	64	(24.7%減)

※H25年9月から実施。H26から6A休床。

- 看護師の確保及び定着を図るため、他県の貸付制度を参考に、看護職員就職支度金貸与制度を導入し、平成27年度の採用者から貸与を開始した。

看護職員就職支度金貸与の状況

	H27	H28	H29	H30	H31	
採用者数(人)	60	54	62	78	87	(11.5%増)
貸与人数(人)	22	11	19	6	5	(16.7%減)
金額(千円)	5,938	2,470	4,824	1,290	1,301	(0.9%増)

※平成31年度は、2度目の募集を9月頃に実施予定

(14)医療の標準化と最適な医療の提供

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

- DPCから得られる情報に基づき、当院と他のDPC参加病院の診療内容を比較し、各種医療資源（処置、検査、投薬、手術等）の投下状況を分析した。また、このDPCの分析データを活用してクリニカルパスの新設や見直しを随時行った。

- 新たに開始したクリニカルパスの件数は前年度と比べて164.5%増の82件と著しく増加した。また、見直し件数は前年度並みの157件、パス適用率は2.4ポイント減の54.7%となった。

- バリエンス（パスから外れる）率は、前年度と比べて0.6ポイント減の10.6%となった。

クリニカルパスの適用状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
パス数(件)	274	328	342	340	397	423	465	485	541	(11.5%増)
見直し	114	150	148	165	145	127	197	158	157	(0.6%減)
新設	49	54	40	38	27	37	34	31	82	(164.5%増)
パス適用件数(件)	5,580	6,402	7,093	7,507	8,119	9,897	8,570	8,483	8,320	(1.9%減)
パス適用率(%)	38.1	43.6	48.0	46.9	48.8	50.0	57.2	57.1	54.7	(2.4ポイント減)
平均在院日数(日)	14.0	12.9	12.9	12.8	13.4	13.0	12.7	12.9	12.5	(0.4日減)

バリエンス率の状況

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
バリエンス率	19.3%	22.2%	18.8%	16.6%	17.6%	12.8%	11.2%	10.6%	(0.6ポイント減)

- DPC医療機関群は、I群、II群、III群（H30年度から名称変更）に分類して評価され、I群は大学病院本院の特定機能病院、II群は大学病院本院に準じた診療機能を有する病院、III群はその他の急性期の病院となっている。II群病院となるためには、高度な医療技術の実施などの選定要件をクリアする必要があり、当院は平成26年度にII群に昇格した。各群内の係数（順位）は、平均在院日数短縮の努力や難易度の高い手術の実施、救急医療の提供などを評価する機能評価係数IIにより決定される。

中央病院では専門の委員会や職員研修会を開催するなど、機能評価係数IIの改善に向けた様々な取り組みを行った結果、全体の機能評価係数は増加し、平成31年度機能評価係数IIのランキングは、1648病院中で43位（昨年度は40位）の診療機能を有する病院と評価された。なお、近隣の病院としては、聖隷浜松病院26位、国保旭中央病院31位、佐久医療センター51位、静岡県立総合病院64位、聖路加国際病院98位、亀田総合病院140位、虎の門病院142位などがある。

DPC機能評価係数IIのランキング

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
医療機関群	—	—	Ⅲ群	Ⅲ群	Ⅱ群	Ⅱ群	Ⅱ群	Ⅱ群	Ⅱ群	特定病院群
基礎係数等	1.01680	1.01330	1.07770	1.07770	1.08170	1.08170	1.08030	1.08030	1.06480	1.06480
機能評価係数I	0.00770	0.11300	0.11750	0.15280	0.16270	0.16140	0.16530	0.19820	0.26030	0.27030
機能評価係数II	0.02130	0.02940	0.02785	0.02830	0.05830	0.05790	0.07560	0.07330	0.10760	0.10760
係数合計	1.04580	1.15570	1.22305	1.25880	1.30270	1.30100	1.32120	1.35180	1.43270	1.44270
順位	341位/1425	128位/1425	213位/1425	196位/1425	31位/1505	29位/1500	23位/1586	31位/1586	40位/1648	43位/1648

※基礎係数等は、基礎係数、暫定調整係数の合計。

※H24診療報酬改定によりI群～III群の医療機関群が設定された。H24以降の順位は、I群を除く順位。

※H23以前の順位は、I群を含む全病院中の順位。

※H24以降の順位は、II群以下の病院中の順位（II群病院中の順位/II群以下の病院数）

※H30より医療機関群の名称が変更（I群→大学病院本院群 II群→特定病院群 III群→標準病院群）

- より充実した救命救急医療を提供するため、救命救急センターの区画を拡充し、三次救急患者だけでなく二次救急患者の診療が可能となるよう整備する。また、結核などの感染症隔離室を設置する(再掲)。
- 当院の理念達成や地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」を受審し、病院の位置付けや問題点を明らかにすることにより、病院の更なる改善活動を推進し、病院体制の一層の充実や医療の質の向上を目指す。
- 思春期に特有な精神疾患の治療について、県内唯一の児童思春期病棟を有する病院として、関係医療機関と連携して病態に応じた医療を行うなど、より高度で専門的な児童思春期医療を提供する(再掲)。
- 退院後も地域で生活する患者に対して継続的に支援を行い、患者に適応した医療を提供するために、訪問看護ステーションの設置、運営に関する検討を進める。また、デイケアにおいては、治療プログラムの多様化・高度化を図る(再掲)。

高度化する手術環境に対応するため、また、緊急手術など増加する手術ニーズに対応するため、平成31年1月から手術室の看護職員を増員し、看護体制をオンコール制から二交代制に変更した(前述P10)。

中央病院の精神科医療を充実強化するため、平成28年度から精神科医と精神保健福祉士を北病院から配置することで、精神科医師を2人体制とし、治療(精神科リエゾン)を行った。精神科医や精神保健福祉士など多職種による病棟回診の延べ患者数は945人となった。また、平成30年度からは中央病院の精神科に認定看護師を配置し、7月から「精神科リエゾンチーム加算」を取得した(前述P16)。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
加算件数	159	174	252	213	121	122	316	262	224	(14.5%減)

内視鏡下手術は、低侵襲に手術を施行でき、入院期間を短縮できること、また整容性に優れていることなど様々なメリットがあるため、積極的に実施しており、前年度と比べて10.2%増の949件となった(前述P10)。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
外科(肺は除く)	51	39	110	129	123	129	205	261	315	(20.7%増)
肺・呼吸器外科	26	32	44	51	114	177	249	201	217	(8.0%増)
婦人科	80	83	47	43	99	202	246	264	258	(2.3%減)
泌尿器科	0	0	0	0	6	11	66	85	115	(35.3%増)
小児外科	4	4	0	0	6	71	52	50	44	(12.0%減)
計	161	158	201	223	348	590	818	861	949	(10.2%増)

平成30年度の診療報酬改定において、胃がん、子宮体がんをはじめ多くのロボット手術が保険収載されたため、速やかに対応できるよう指導医の招へいや物品の購入などの対応を行った(前述P10)。

遺伝子外来において、乳がん・卵巣がんの領域で、将来のがん発生リスクの高い患者のがん関連遺伝学的検査を9件実施した(前述P9)。

白血病等の無菌状態での薬物治療を充実させるため、これまで整備した2床に加え平成30年度8月に7床の無菌室を整備し、合わせて9床とした。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
自家末梢血	0	1	2	4	3	10	10	8	3	(62.5%減)
同種末梢血	0	0	0	0	4	0	4	2	4	(100.0%増)
同種臍帯血	0	1	0	0	2	4	4	10	8	(20.0%減)
同種骨髄	0	0	0	0	0	1	3	1	1	(増減なし)
計	0	2	2	4	9	15	21	21	16	(23.8%減)

※1月~12月の実績

肺がん・呼吸器病センター及び肝胆膵・消化器病センターにおいて、内科系と外科系が連携して高度で専門的な医療を提供した(前述P9)。

外注していた遺伝子検査を院内で迅速処理するため、平成30年度の組織改正で、検査部にゲノム検査科を設置した(前述P9)。

血液培養で陽性となった検体から、細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を迅速に同定し、抗菌薬の治療方針決定に役立つ全自動遺伝子解析装置「FilmArray」システムを全国に先駆けて導入した。
7月の本格稼働以来、3月までに374件の検体の遺伝子を解析し、345件について細菌、薬剤耐性遺伝子の有無を同定した(前述P9)。

増加する救急患者への対応、三次救急以外の患者を診察する治療スペースを確保するため、救命救急センターの改修に向けた取り組みに着手した(前述P6)。

中央病院の理念達成や地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」受審に向け様々な改善の取り組みを行った。2月に本審査を受審し、当院の医療が概ね適切に行われていることが確認できた。

精神、身体疾患の合併症患者に対する適正な医療を提供するため、中央病院に精神疾患の患者が救急搬送された際、入院治療で精神科の治療が可能となる「精神科身体合併症病棟」の整備に着手した(個室4床)。

不整脈治療において、薬物治療よりも長期の治療効果が得られることを目標に、積極的にアブレーション治療を行った。その中でも、特に、心房細動に対するアブレーション治療が増加した。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
アブレーション	49	48	58	50	74	91	139	203	300	(47.8%増)
(うち心房細動)	(5)	(10)	(7)	(9)	(32)	(54)	(65)	(135)	(209)	(54.8%増)

アブレーション…治療用のカテーテルで不整脈を起こす原因となっている異常な電気興奮の発生箇所を焼き切る治療法

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																									
		<p>(北病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童・思春期病棟を持つ病院として、看護師配置を10:1とし、専従のコメディカルを配置するなど、手厚い医療を提供した。また、増加傾向にある児童・思春期患者に対応するため、児童思春期の初診時の診断及び治療を標準化し、児童思春期専門医による指導体制を確立することで、より高度で専門的な診療を実施するとともに、平成30年12月から、児童思春期病床を20床から23床に増床した(前述P13)。 退院後、地域で生活する重症通院患者の多様かつ増大する医療ニーズに対して継続的に支援を行うため、訪問看護ステーションの設置、運営に関する検討を進め、平成31年4月に開所、サービスを開始した(前述P15)。 																																																																																																																																									
<p>④高度医療機器の計画的な更新・整備 各種高度医療機器を計画的に更新・整備するとともに、適切な維持管理を行う。</p>	<p>④高度医療機器の計画的な更新・整備 中期計画で定めた高度医療機器の整備にあたり、機能・性能等と整備に係る費用のバランスを考慮して機種を選定を行う。</p>	<p>(15)高度医療機器の計画的な更新・整備</p> <table border="1" data-bbox="1516 562 2807 653"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 160万円以上の器械備品を購入する際には、原則として器械備品委員会に諮り、承認を得ることとしている。器械備品委員会では、「整備の効果が見込まれるか」「価格は適正か」、「機能、数量等が過大でなか」等の審査基準により購入の可否を決定している 血液培養で陽性となった検体から、細菌、ウイルスの種類、薬剤耐性遺伝子の有無を迅速に同定し、抗菌薬の治療方針決定に役立つ全自動遺伝子解析装置「FilmArray」システムを全国に先駆けて導入した(前述P9)。 <table border="1" data-bbox="1516 884 2323 1003"> <caption>高度医療機器の更新・整備額 (単位:万円)</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>執行額</td> <td>51,300</td> <td>65,900</td> <td>80,800</td> <td>95,600</td> <td>36,800</td> <td>178,600</td> <td>23,443</td> <td>29,072</td> <td>37,026</td> <td>(27.4%増)</td> </tr> <tr> <th>北病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> <tr> <td>執行額</td> <td>1,242</td> <td>2,034</td> <td>1,266</td> <td>2,957</td> <td>1,020</td> <td>3,234</td> <td>1,469</td> <td>1,733</td> <td>2,362</td> <td>(36.3%増)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1516 1024 2243 1318"> <caption>高度医療機器の整備の状況(主なもの) (単位:万円)</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>購入理由</th> <th>金額</th> <th>契約</th> <th>執行</th> <th>入札方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生体情報モニタリングシステム</td> <td>劣化による更新</td> <td>3,932</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>ベッド一式</td> <td>劣化による更新</td> <td>2,644</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>多用途透析用監視装置</td> <td>劣化による更新</td> <td>1,944</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>硝子体手術装置</td> <td>劣化による更新</td> <td>1,400</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>呼吸機能測定装置、総合呼吸抵抗装置</td> <td>劣化による更新</td> <td>1,295</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>デジタル式回診用X線撮影装置</td> <td>劣化による更新</td> <td>1,566</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>冷凍アブレーション装置</td> <td>リース品の購入</td> <td>1,847</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>随時契約</td> </tr> <tr> <td>ダヴィンチ関連器具一式</td> <td>新規購入</td> <td>2,542</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>Film Array</td> <td>新規購入</td> <td>810</td> <td>H30</td> <td>H30</td> <td>指名競争入札</td> </tr> <tr> <td>手術台一式</td> <td>劣化による更新</td> <td>7,560</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>内視鏡下適応手術室整備</td> <td>新規購入</td> <td>7,560</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>超音波診断装置(産科)</td> <td>劣化による更新</td> <td>1,836</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> <tr> <td>超音波診断装置(検査部)</td> <td>劣化による更新</td> <td>2,900</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>一般競争入札</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1516 1339 1976 1413"> <caption>(単位:万円)</caption> <thead> <tr> <th>北病院</th> <th>H30執行額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全自動錠剤分包機</td> <td>1,825</td> </tr> <tr> <td>多項目自動血球分析装置</td> <td>537</td> </tr> </tbody> </table>	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		執行額	51,300	65,900	80,800	95,600	36,800	178,600	23,443	29,072	37,026	(27.4%増)	北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		執行額	1,242	2,034	1,266	2,957	1,020	3,234	1,469	1,733	2,362	(36.3%増)	中央病院	購入理由	金額	契約	執行	入札方法	生体情報モニタリングシステム	劣化による更新	3,932	H30	H30	一般競争入札	ベッド一式	劣化による更新	2,644	H30	H30	一般競争入札	多用途透析用監視装置	劣化による更新	1,944	H30	H30	一般競争入札	硝子体手術装置	劣化による更新	1,400	H30	H30	一般競争入札	呼吸機能測定装置、総合呼吸抵抗装置	劣化による更新	1,295	H30	H30	一般競争入札	デジタル式回診用X線撮影装置	劣化による更新	1,566	H30	H30	一般競争入札	冷凍アブレーション装置	リース品の購入	1,847	H30	H30	随時契約	ダヴィンチ関連器具一式	新規購入	2,542	H30	H30	一般競争入札	Film Array	新規購入	810	H30	H30	指名競争入札	手術台一式	劣化による更新	7,560	H29	H30	一般競争入札	内視鏡下適応手術室整備	新規購入	7,560	H29	H30	一般競争入札	超音波診断装置(産科)	劣化による更新	1,836	H29	H30	一般競争入札	超音波診断装置(検査部)	劣化による更新	2,900	H29	H30	一般競争入札	北病院	H30執行額	全自動錠剤分包機	1,825	多項目自動血球分析装置	537
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																																									
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																		
執行額	51,300	65,900	80,800	95,600	36,800	178,600	23,443	29,072	37,026	(27.4%増)																																																																																																																																	
北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																		
執行額	1,242	2,034	1,266	2,957	1,020	3,234	1,469	1,733	2,362	(36.3%増)																																																																																																																																	
中央病院	購入理由	金額	契約	執行	入札方法																																																																																																																																						
生体情報モニタリングシステム	劣化による更新	3,932	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
ベッド一式	劣化による更新	2,644	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
多用途透析用監視装置	劣化による更新	1,944	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
硝子体手術装置	劣化による更新	1,400	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
呼吸機能測定装置、総合呼吸抵抗装置	劣化による更新	1,295	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
デジタル式回診用X線撮影装置	劣化による更新	1,566	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
冷凍アブレーション装置	リース品の購入	1,847	H30	H30	随時契約																																																																																																																																						
ダヴィンチ関連器具一式	新規購入	2,542	H30	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
Film Array	新規購入	810	H30	H30	指名競争入札																																																																																																																																						
手術台一式	劣化による更新	7,560	H29	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
内視鏡下適応手術室整備	新規購入	7,560	H29	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
超音波診断装置(産科)	劣化による更新	1,836	H29	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
超音波診断装置(検査部)	劣化による更新	2,900	H29	H30	一般競争入札																																																																																																																																						
北病院	H30執行額																																																																																																																																										
全自動錠剤分包機	1,825																																																																																																																																										
多項目自動血球分析装置	537																																																																																																																																										
<p>⑤病院施設の適切な修理・改善 病院施設の修理・改善を計画的に行い、その機能の維持・強化を図る。</p>	<p>⑤病院施設の適切な修理・改善 病院施設の修理・改善を計画的に行い、その機能の維持・強化を図る。</p>	<p>(16)病院施設の適切な修理・改善</p> <table border="1" data-bbox="1516 1493 2807 1583"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 病院施設の機能維持のため、第2期中期計画で定めた計画に基づき、常用発電機のエンジン交換など点検、修理を計画的に実施するとともに、緊急な対応が必要となった場合には、診療に影響がないよう迅速に対応した。 <table border="1" data-bbox="1516 1682 2288 1913"> <caption>機能維持 (単位:万円)</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修繕</td> <td>11,578</td> <td>9,452</td> <td>16,437</td> <td>15,879</td> <td>12,885</td> <td>17,870</td> <td>26,512</td> <td>18,891</td> <td>21,904</td> <td>(15.9%増)</td> </tr> <tr> <td>点検</td> <td>40,690</td> <td>53,643</td> <td>49,626</td> <td>50,992</td> <td>58,408</td> <td>57,025</td> <td>67,106</td> <td>68,468</td> <td>77,607</td> <td>(13.3%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>52,268</td> <td>63,095</td> <td>66,063</td> <td>66,871</td> <td>71,293</td> <td>74,895</td> <td>93,618</td> <td>87,359</td> <td>99,511</td> <td>(13.9%増)</td> </tr> <tr> <th>北病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> <tr> <td>修繕</td> <td>2,232</td> <td>1,844</td> <td>1,915</td> <td>4,305</td> <td>1,262</td> <td>1,932</td> <td>1,544</td> <td>2,841</td> <td>2,838</td> <td>(0.1%減)</td> </tr> <tr> <td>点検</td> <td>2,844</td> <td>3,178</td> <td>3,623</td> <td>3,677</td> <td>3,584</td> <td>3,643</td> <td>3,504</td> <td>3,922</td> <td>4,121</td> <td>(5.1%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,076</td> <td>5,022</td> <td>5,538</td> <td>7,982</td> <td>4,846</td> <td>5,575</td> <td>5,048</td> <td>6,763</td> <td>6,959</td> <td>(2.9%増)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="2318 1682 2822 1944"> <caption>施設整備・改修(主なもの) (単位:万円)</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>H30執行額</th> <th>工事期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常用発電機設備ガスエンジン更新工事</td> <td>12,320</td> <td>H29-30</td> </tr> <tr> <td>8A病棟無菌室改修工事</td> <td>5,273</td> <td>H29-30</td> </tr> <tr> <td>8A病棟無菌室ユニット設置工事</td> <td>7,399</td> <td>H29-30</td> </tr> <tr> <td>患者支援センター増築工事</td> <td>5,117</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <td>図書室改修工事</td> <td>1,328</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <td>当直室改修工事</td> <td>680</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <td>放射線機器室外機移設工事</td> <td>1,522</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <th>北病院</th> <th>H29執行額</th> <th>工事期間</th> </tr> <tr> <td>冷温水ユニット改修工事</td> <td>702</td> <td>H30</td> </tr> <tr> <td>屋上土間改修工事</td> <td>373</td> <td>H30</td> </tr> </tbody> </table>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		修繕	11,578	9,452	16,437	15,879	12,885	17,870	26,512	18,891	21,904	(15.9%増)	点検	40,690	53,643	49,626	50,992	58,408	57,025	67,106	68,468	77,607	(13.3%増)	計	52,268	63,095	66,063	66,871	71,293	74,895	93,618	87,359	99,511	(13.9%増)	北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		修繕	2,232	1,844	1,915	4,305	1,262	1,932	1,544	2,841	2,838	(0.1%減)	点検	2,844	3,178	3,623	3,677	3,584	3,643	3,504	3,922	4,121	(5.1%増)	計	5,076	5,022	5,538	7,982	4,846	5,575	5,048	6,763	6,959	(2.9%増)	中央病院	H30執行額	工事期間	常用発電機設備ガスエンジン更新工事	12,320	H29-30	8A病棟無菌室改修工事	5,273	H29-30	8A病棟無菌室ユニット設置工事	7,399	H29-30	患者支援センター増築工事	5,117	H30	図書室改修工事	1,328	H30	当直室改修工事	680	H30	放射線機器室外機移設工事	1,522	H30	北病院	H29執行額	工事期間	冷温水ユニット改修工事	702	H30	屋上土間改修工事	373	H30													
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																																																																									
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																		
修繕	11,578	9,452	16,437	15,879	12,885	17,870	26,512	18,891	21,904	(15.9%増)																																																																																																																																	
点検	40,690	53,643	49,626	50,992	58,408	57,025	67,106	68,468	77,607	(13.3%増)																																																																																																																																	
計	52,268	63,095	66,063	66,871	71,293	74,895	93,618	87,359	99,511	(13.9%増)																																																																																																																																	
北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																		
修繕	2,232	1,844	1,915	4,305	1,262	1,932	1,544	2,841	2,838	(0.1%減)																																																																																																																																	
点検	2,844	3,178	3,623	3,677	3,584	3,643	3,504	3,922	4,121	(5.1%増)																																																																																																																																	
計	5,076	5,022	5,538	7,982	4,846	5,575	5,048	6,763	6,959	(2.9%増)																																																																																																																																	
中央病院	H30執行額	工事期間																																																																																																																																									
常用発電機設備ガスエンジン更新工事	12,320	H29-30																																																																																																																																									
8A病棟無菌室改修工事	5,273	H29-30																																																																																																																																									
8A病棟無菌室ユニット設置工事	7,399	H29-30																																																																																																																																									
患者支援センター増築工事	5,117	H30																																																																																																																																									
図書室改修工事	1,328	H30																																																																																																																																									
当直室改修工事	680	H30																																																																																																																																									
放射線機器室外機移設工事	1,522	H30																																																																																																																																									
北病院	H29執行額	工事期間																																																																																																																																									
冷温水ユニット改修工事	702	H30																																																																																																																																									
屋上土間改修工事	373	H30																																																																																																																																									

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
 1 医療の提供
 (3) 県民に信頼される医療の提供

中期目標
 1 医療の提供
 (3) 県民に信頼される医療の提供
 県民及び患者の視点に立ち、県民の健康と生命を守る本県の基幹病院として、信頼される医療を提供すること。

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																												
<p>(3) 県民に信頼される医療の提供 医療の専門化・高度化が進む中で、疾病や診療に関する十分な説明を行い、患者・家族の理解を得るとともに、医療安全対策を徹底し、県民に信頼される医療の提供に努める。</p> <p>①医療安全対策の推進 ア リスクマネージャーの活用 専従のリスクマネージャーを配置した医療安全管理室の機能を活かして、医療安全に関する情報の収集や分析を行うとともに、各部門のリスク管理責任者への研修など医療安全教育を徹底する。</p>	<p>(3) 県民に信頼される医療の提供</p> <p>①医療安全対策の推進 ア リスクマネージャーの活用 ・ リスクマネージャーを活用し、医療安全に関する情報の収集や分析を行うとともに、各部門のリスク管理責任者への研修など医療安全教育を徹底する。 ・ 抗菌薬の適正な使用を推進するため、抗菌薬適正使用支援チームの設置について検討を行う。 ・ 北病院の医療安全対策を強化するため、専任の看護師を配置する。</p>	<p>(17)医療安全対策の推進</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">評価</td> <td style="width: 10%;">B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室において、週1回の医療安全管理対策委員会の開催、月1回の医療安全委員会等の開催、週1回程度の医療安全現場指導を実施した。また、平成31年度から、医療安全管理室に専従の看護師を2名増員し、医療安全の更なる強化を図ることとした。 ・ 医療安全部門を強化するため、平成30年度から北病院に医療安全専従の看護師を配置した。その結果、「医療安全対策加算1」の施設基準を満たし、6月から算定を開始した。 ・ 中央病院では、平成30年度の診療報酬改定において新設された「医療安全対策地域連携加算1」を9月に取得し、連携先の市立甲府病院とは相互評価、山梨病院とは当院の評価を実施した。 ・ 医療安全管理対策委員会などで、インシデントレベルの高いレポート、レベルが高くなる可能性のあるレポート、連続して起きているインシデント等を検討・分析し対応した。平成30年度は3,308件の報告があり、注意すべき事例は部署ごとに分析し、再発防止策を立案して評価した。 【取り組み内容】 患者誤認防止のため、入退院センターで入院患者のネームバンドの装着の開始（中央病院） オカレンス報告（原因が不明などで、速やかな情報収集と対処が必要になるあらかじめ病院で定めた事例）の創設（中央病院） 院内自殺予防のためのリスクアセスメント内容の検討と自殺アセスメントシートの作成（北病院） 転倒転落予防、予防への対応としてインシデントの分析、リスクアセスメントの検討（北病院） ・ 中央病院では、全部署のラウンドに加え、平成29年度に発生した異型輸血医療事故及び薬剤紛失事案を受け、関係する事務マニュアルの見直しを行うとともに、事故発生後関連部署へのラウンド回数を増やし再発防止対策の実践状況確認・評価を適宜行った。 <p style="text-align: right;">(単位:件)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">医療安全現場指導の状況</td> <td style="text-align: center;">H26</td> <td style="text-align: center;">H27</td> <td style="text-align: center;">H28</td> <td style="text-align: center;">H29</td> <td style="text-align: center;">H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">指導件数</td> <td style="text-align: center;">43</td> <td style="text-align: center;">41</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">45</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td style="text-align: right;">(33.3%増)</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">※医療安全対策委員会メンバーによる現場指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央病院では研修会参加率の向上を図るため、メイン会場の様子を他の会議室へリアルタイムに映像で伝える装置を整備するとともに、e-learningソフトを導入し研修に参加できない職員に対応できるようにした。 <p style="text-align: center;">医療安全研修会の開催状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">中央病院</td> <td style="text-align: center;">2回実施 669人参加</td> <td style="text-align: center;">4回実施 864人参加</td> <td style="text-align: center;">4回 1,398人参加</td> <td style="text-align: center;">7回 1,387人参加</td> <td style="text-align: center;">6回+DVD 1,467人参加</td> <td style="text-align: center;">8回+DVD 1,941人参加</td> <td style="text-align: center;">13回 2,572人参加</td> <td style="text-align: center;">14回 2,366人参加</td> <td style="text-align: center;">18回+DVD 2,851人参加</td> <td style="text-align: right;">(20.5%増)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">北病院</td> <td style="text-align: center;">2回 200人参加</td> <td style="text-align: center;">2回 195人参加</td> <td style="text-align: center;">2回 252人参加</td> <td style="text-align: center;">2回 286人参加</td> <td style="text-align: center;">2回 324人参加</td> <td style="text-align: center;">4回+DVD 380人参加</td> <td style="text-align: center;">5回+DVD 267人参加</td> <td style="text-align: center;">5回+DVD 416人参加</td> <td style="text-align: center;">7回+DVD 884人参加</td> <td style="text-align: right;">(112.5%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">医療安全研修会への参加状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">中央病院</td> <td style="text-align: center;">対象職員 991</td> <td style="text-align: center;">1,102</td> <td style="text-align: center;">1,126</td> <td style="text-align: center;">1,163</td> <td style="text-align: right;">(3.3%増)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">参加職員 797</td> <td style="text-align: center;">912</td> <td style="text-align: center;">932</td> <td style="text-align: center;">1,117</td> <td style="text-align: right;">(19.8%増)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">参加率 80.4%</td> <td style="text-align: center;">82.8%</td> <td style="text-align: center;">82.8%</td> <td style="text-align: center;">96.0%</td> <td style="text-align: right;">(13.2ポイント増)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">北病院</td> <td style="text-align: center;">対象職員 203</td> <td style="text-align: center;">208</td> <td style="text-align: center;">206</td> <td style="text-align: center;">203</td> <td style="text-align: right;">(1.5%減)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">参加職員 202</td> <td style="text-align: center;">208</td> <td style="text-align: center;">206</td> <td style="text-align: center;">203</td> <td style="text-align: right;">(1.5%減)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">参加率 99.5%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: right;">(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である	医療安全現場指導の状況	H26	H27	H28	H29	H30		指導件数	43	41	40	45	60	(33.3%増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		中央病院	2回実施 669人参加	4回実施 864人参加	4回 1,398人参加	7回 1,387人参加	6回+DVD 1,467人参加	8回+DVD 1,941人参加	13回 2,572人参加	14回 2,366人参加	18回+DVD 2,851人参加	(20.5%増)	北病院	2回 200人参加	2回 195人参加	2回 252人参加	2回 286人参加	2回 324人参加	4回+DVD 380人参加	5回+DVD 267人参加	5回+DVD 416人参加	7回+DVD 884人参加	(112.5%増)		H27	H28	H29	H30		中央病院	対象職員 991	1,102	1,126	1,163	(3.3%増)		参加職員 797	912	932	1,117	(19.8%増)		参加率 80.4%	82.8%	82.8%	96.0%	(13.2ポイント増)	北病院	対象職員 203	208	206	203	(1.5%減)		参加職員 202	208	206	203	(1.5%減)		参加率 99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	(増減なし)
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																												
医療安全現場指導の状況	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																									
指導件数	43	41	40	45	60	(33.3%増)																																																																																								
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																					
中央病院	2回実施 669人参加	4回実施 864人参加	4回 1,398人参加	7回 1,387人参加	6回+DVD 1,467人参加	8回+DVD 1,941人参加	13回 2,572人参加	14回 2,366人参加	18回+DVD 2,851人参加	(20.5%増)																																																																																				
北病院	2回 200人参加	2回 195人参加	2回 252人参加	2回 286人参加	2回 324人参加	4回+DVD 380人参加	5回+DVD 267人参加	5回+DVD 416人参加	7回+DVD 884人参加	(112.5%増)																																																																																				
	H27	H28	H29	H30																																																																																										
中央病院	対象職員 991	1,102	1,126	1,163	(3.3%増)																																																																																									
	参加職員 797	912	932	1,117	(19.8%増)																																																																																									
	参加率 80.4%	82.8%	82.8%	96.0%	(13.2ポイント増)																																																																																									
北病院	対象職員 203	208	206	203	(1.5%減)																																																																																									
	参加職員 202	208	206	203	(1.5%減)																																																																																									
	参加率 99.5%	100.0%	100.0%	100.0%	(増減なし)																																																																																									

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																													
		<ul style="list-style-type: none"> 職員の感染防止対策として、B型肝炎とウイルス4抗体の抗体検査を新規採用者206人に対して実施した。また、必要に応じてワクチンの接種を推奨し、103人に対して接種を行った。 インフルエンザについては、院内に勤務する職員に蔓延した際、病院運営に影響が生じることから、院内の職員を対象とした予防接種を実施した。なお、費用については、職員が自ら院内感染源となることを防ぐ観点などから、病院職員については、全額を病院負担、委託業者の職員については、一般の半額程度で実施した。 <table border="1" data-bbox="1528 373 2418 472"> <caption>インフルエンザ予防接種の状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病院職員</td> <td>932</td> <td>935</td> <td>995</td> <td>1,042</td> <td>1,050</td> <td>1,121</td> <td>1,142</td> <td>(1.9%増)</td> </tr> <tr> <td>委託業者職員</td> <td>51</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>134</td> <td>111</td> <td>69</td> <td>139</td> <td>(101.4%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザの流行期に合わせ、来院者制限に向けた試行的な取り組みを実施した。 中央病院では、10月15日をはさむ1週間を病院の医療安全週間と定め、過去の医療事故を風化させないための取り組みを行っている。平成30年度は、期間中に3回の研修会を実施した。 中央病院では、薬剤紛失事案を受けた対応として、正面玄関等の出入り口の開錠時間の短縮を継続して実施した。 		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		病院職員	932	935	995	1,042	1,050	1,121	1,142	(1.9%増)	委託業者職員	51	70	70	134	111	69	139	(101.4%増)																																																		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																								
病院職員	932	935	995	1,042	1,050	1,121	1,142	(1.9%増)																																																																							
委託業者職員	51	70	70	134	111	69	139	(101.4%増)																																																																							
<p>イ 情報の共有化 チーム医療を推進する中で、より確かな医療安全対策を講じるため、医療従事者間における医療関係情報の共有化を図る。</p>	<p>イ 情報の共有化 より確かな医療安全対策を講じるため、医療従事者間における医療関係情報の共有化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ジェネラルセーフティマネージャーが、インシデントレポートを集計・分析し、医療安全委員会、病院会議、院内連絡会議等へ報告し、必要に応じ院内インフォメーションで周知した。 <table border="1" data-bbox="1528 808 2597 997"> <caption>インシデントレポートの状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インシデント数</td> <td>2,782件</td> <td>2,882件</td> <td>3,079件</td> <td>2,841件</td> <td>2,405件</td> <td>2,769件</td> <td>2,994件</td> <td>3,101件</td> <td>3,308件</td> <td>(6.7%増)</td> </tr> <tr> <td>(うち生命危険に関わるもの)</td> <td>(5件)</td> <td>(5件)</td> <td>(1件)</td> <td>(0件)</td> <td>(1件)</td> <td>(1件)</td> <td>(3件)</td> <td>(0件)</td> <td>(2件)</td> <td>皆増</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>インシデント数</td> <td>3,116件</td> <td>2,677件</td> <td>2,088件</td> <td>1,578件</td> <td>1,409件</td> <td>1,356件</td> <td>1,491件</td> <td>1,581</td> <td>1,337</td> <td>(15.4%減)</td> </tr> <tr> <td>(うち生命危険に関わるもの)</td> <td>(0件)</td> <td>(1件)</td> <td>(1件)</td> <td>(0件)</td> <td>(0件)</td> <td>(2件)</td> <td>(1件)</td> <td>(35件)</td> <td>(27件)</td> <td>(22.9%減)</td> </tr> </tbody> </table>		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		中央病院											インシデント数	2,782件	2,882件	3,079件	2,841件	2,405件	2,769件	2,994件	3,101件	3,308件	(6.7%増)	(うち生命危険に関わるもの)	(5件)	(5件)	(1件)	(0件)	(1件)	(1件)	(3件)	(0件)	(2件)	皆増	北病院											インシデント数	3,116件	2,677件	2,088件	1,578件	1,409件	1,356件	1,491件	1,581	1,337	(15.4%減)	(うち生命危険に関わるもの)	(0件)	(1件)	(1件)	(0件)	(0件)	(2件)	(1件)	(35件)	(27件)	(22.9%減)
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																						
中央病院																																																																															
インシデント数	2,782件	2,882件	3,079件	2,841件	2,405件	2,769件	2,994件	3,101件	3,308件	(6.7%増)																																																																					
(うち生命危険に関わるもの)	(5件)	(5件)	(1件)	(0件)	(1件)	(1件)	(3件)	(0件)	(2件)	皆増																																																																					
北病院																																																																															
インシデント数	3,116件	2,677件	2,088件	1,578件	1,409件	1,356件	1,491件	1,581	1,337	(15.4%減)																																																																					
(うち生命危険に関わるもの)	(0件)	(1件)	(1件)	(0件)	(0件)	(2件)	(1件)	(35件)	(27件)	(22.9%減)																																																																					
<p>ウ 医療事故への対応 医療事故が発生した際の事故調査委員会の設置やその対応マニュアルの作成など、医療事故への対応を図る。</p>	<p>ウ 医療事故への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療事故が発生した際の事故調査委員会の設置やその対応マニュアルの作成など、医療事故への対応を図る。 平成29年度に発生した異型輸血医療事故の再発防止策として、輸血事故防止及び病院輸血マニュアル周知の研修会や救命救急センターにおける緊急輸血訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年6月に発生した輸血医療事故について、県立中央病院輸血医療事故調査委員会からの提言を受け、再発防止策を継続して実施した。 【再発防止策】 緊急輸血の手順の見直し、緊急輸血に関するマニュアルの整備、必要な機器の設置、研修会の実施、安全に緊急輸血が実施できる仕組みづくり 病院機能評価受審に向け、医療安全管理システムの組織図や事故発生時の連絡ルートを現状に沿って改訂した。また、医療発生時の対応マニュアル、フローの見直しを行った。 異型輸血医療事故の再発防止策として、5月、9月に研修会を開催し、輸血に関する知識、管理方法の周知を図った。 医療事故妥当性チェックシートの運用を平成28年6月1日から開始した。平成29年度後半からはすべての死亡患者について、チェックシートが提出され医療安全管理室で確認後、院長が最終確認を行った。 																																																																													
<p>②医療倫理の確立 患者の尊厳を尊重する医療倫理を確立するため、倫理委員会でのチェックや職員研修を実施する。</p>	<p>②医療倫理の確立 患者の尊厳を尊重する医療倫理を確立するため、倫理委員会でのチェックや職員研修を実施する。</p>	<p>(18)医療倫理の確立</p> <table border="1" data-bbox="1528 1522 2804 1606"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 倫理委員会で、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。 <table border="1" data-bbox="1528 1680 2478 1774"> <caption>倫理委員会の審査状況 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>21</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>(16.7%減)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>16</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>(34.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 人を対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を審査するため、「臨床研究・ゲノム研究倫理審査委員会」を開催した。 H29年度から、倫理委員会及び職員研修委員会主催の倫理に関する研修会を実施している。平成30年度は、金沢大学附属病院副看護部長を招いて「身体抑制激減への歩み～金沢大学附属病院の取り組み」と題して11月に講演会を開催した。 	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		中央病院	12	12	14	15	21	25	21	24	20	(16.7%減)	北病院	16	17	12	30	29	16	29	23	31	(34.8%増)																																									
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																													
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																						
中央病院	12	12	14	15	21	25	21	24	20	(16.7%減)																																																																					
北病院	16	17	12	30	29	16	29	23	31	(34.8%増)																																																																					

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																				
<p>③患者・家族との信頼・協力関係の構築 疾病の特性・医療行為の内容と効果及び副作用・リスクに関する十分な説明と理解（インフォームド・コンセント）に基づき、最適な医療を提供する。 また、医療行為等に関し、患者との見解の相違などが生じた場合には、担当医師等を中心として、真摯にかつ適切な対応を図る。</p>	<p>③患者・家族との信頼・協力関係の構築 疾病の特性・医療行為の内容と効果及び副作用・リスクに関する十分な説明と理解（インフォームド・コンセント）に基づき、最適な医療を提供する。 また、医療行為等に関し、患者との見解の相違などが生じた場合には、担当医師等を中心として、真摯にかつ適切な対応を図る。</p>	<p>(19)患者・家族との信頼・協力関係の構築</p> <table border="1" data-bbox="1513 220 2804 304"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、最適な医療を提供するため、病院機能評価受審を契機にインフォームド・コンセントに関する基準、ガイドラインを策定した。また、倫理委員会の傘下に「インフォームド・コンセント部会」を新設し、インフォームド・コンセントを適切に実施するための様々な取り組みについて議論した。 患者支援センターにおいて、患者及びその家族が抱える不安を入院前から把握するとともに、患者相談の受け付けや、退院支援のための病棟ラウンドを保健師、社会福祉士と担当看護師が連携して行うなど、患者及びその家族に対して安心できるサポートを行った。 <table border="1" data-bbox="1513 535 2804 661"> <caption>退院支援数(実人員) (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>転院</td> <td>864</td> <td>1,213</td> <td>1,207</td> <td>1,153</td> <td>1,407</td> <td>1,401</td> <td>1,691</td> <td>2,743</td> <td>2,347</td> <td>(14.4%減)</td> </tr> <tr> <td>在宅</td> <td>617</td> <td>966</td> <td>1,602</td> <td>1,603</td> <td>2,042</td> <td>2,207</td> <td>1,915</td> <td>2,463</td> <td>2,463</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,481</td> <td>2,179</td> <td>2,809</td> <td>2,756</td> <td>3,449</td> <td>3,608</td> <td>3,606</td> <td>5,206</td> <td>4,810</td> <td>(7.6%減)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 入院などの説明をワンストップで行う入退院センターの増設工事が3月に完了し、個室の面談室を3室から10室に増やした。これに合わせ、先行して内科、外科、泌尿器科で実施している説明を全診療科に拡大していく。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		転院	864	1,213	1,207	1,153	1,407	1,401	1,691	2,743	2,347	(14.4%減)	在宅	617	966	1,602	1,603	2,042	2,207	1,915	2,463	2,463	(増減なし)	計	1,481	2,179	2,809	2,756	3,449	3,608	3,606	5,206	4,810	(7.6%減)																																																																					
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																																				
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																													
転院	864	1,213	1,207	1,153	1,407	1,401	1,691	2,743	2,347	(14.4%減)																																																																																																												
在宅	617	966	1,602	1,603	2,042	2,207	1,915	2,463	2,463	(増減なし)																																																																																																												
計	1,481	2,179	2,809	2,756	3,449	3,608	3,606	5,206	4,810	(7.6%減)																																																																																																												
<p>④医薬品の安心、安全な提供 県立中央病院の病棟への薬剤師の配置を推進し、病棟薬剤業務の拡充を図るとともに、医薬品の処方、投薬の安全性等の確保に努め、患者への服薬指導をさらに推進する。</p>	<p>④医薬品の安心、安全な提供 中央病院の病棟への薬剤師の配置を推進し、病棟薬剤業務の拡充を図るとともに、医薬品の処方、投薬の安全性等の確保に努め、患者への服薬指導をさらに推進する。 また、薬剤紛失事案に係る改善計画の着実な実施及び薬剤管理のより一層の強化を図る。</p>	<p>(20)医薬品の安心、安全な提供</p> <table border="1" data-bbox="1513 850 2804 934"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、病棟薬剤師の配置などにより、薬剤業務の充実を図るため、薬剤師を増員しており、薬剤師の数は前年度と比べて、2.3%増の45人となった。 <table border="1" data-bbox="1513 1039 2804 1123"> <caption>中央病院薬剤師の職員数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤師数</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>27</td> <td>33</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>(2.3%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 患者とのコミュニケーションを図りながら、処方薬の薬効や服薬方法等についてわかりやすく説明し、患者が納得して服薬できるように服薬指導を行った。服薬指導回数は、前年度と比べて51.1%増の7,394件と大幅に増加した。 <table border="1" data-bbox="1513 1228 2804 1354"> <caption>服薬指導の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>2,093</td> <td>2,340</td> <td>2,522</td> <td>2,576</td> <td>3,399</td> <td>3,554</td> <td>3,671</td> <td>4,229</td> <td>6,151</td> <td>(45.4%増)</td> </tr> <tr> <td>指導回数(件)</td> <td>2,227</td> <td>2,516</td> <td>2,703</td> <td>2,727</td> <td>3,778</td> <td>4,088</td> <td>4,129</td> <td>4,894</td> <td>7,394</td> <td>(51.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 病棟薬剤師が行った持参薬管理の患者数は、前年度と比べて3.0%増の11,837人、鑑別件数は5.8%増の60,441件と増加した。 <table border="1" data-bbox="1513 1459 2804 1585"> <caption>病棟薬剤師の配置及び持参薬管理の状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病棟数</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>243</td> <td>1,918</td> <td>5,162</td> <td>8,460</td> <td>11,497</td> <td>11,837</td> <td>(3.0%増)</td> </tr> <tr> <td>鑑別件数(件)</td> <td>—</td> <td>12,669</td> <td>29,116</td> <td>45,183</td> <td>57,119</td> <td>60,441</td> <td>(5.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 中央病院では持参薬の確認や投薬・注射状況を把握し、適正使用を推進するため、病棟薬剤業務の充実を図り、平成28年度から全16病棟に専任の病棟薬剤師を配置している。病棟薬剤師は、病棟薬剤業務以外にも入院服薬指導や退院時に入院中に使用した薬とその薬に係る副作用発現状況などをお薬手帳に記載し、退院後も安全に薬物療法ができるように指導を行った。これらの業務を行うことで、年間約5,800万円の収入増となった。 通院加療がんセンターで治療を行う患者に、治療薬の内容や副作用などの説明を実施した。説明回数は、前年度と比べて12.8%増の1,081件と大幅に増加した。 <table border="1" data-bbox="1513 1858 2804 1963"> <caption>通院加療がんセンターでの治療薬の説明状況</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数(人)</td> <td>225</td> <td>198</td> <td>334</td> <td>354</td> <td>838</td> <td>935</td> <td>(11.6%増)</td> </tr> <tr> <td>説明回数(件)</td> <td>225</td> <td>201</td> <td>360</td> <td>383</td> <td>958</td> <td>1,081</td> <td>(12.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※通院加療がんセンターは、H25.1月開所</p>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31		薬剤師数	16	18	20	22	27	33	38	42	44	45	(2.3%増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		患者数(人)	2,093	2,340	2,522	2,576	3,399	3,554	3,671	4,229	6,151	(45.4%増)	指導回数(件)	2,227	2,516	2,703	2,727	3,778	4,088	4,129	4,894	7,394	(51.1%増)		H25	H26	H27	H28	H29	H30		病棟数	—	5	11	16	16	16	(増減なし)	患者数(人)	243	1,918	5,162	8,460	11,497	11,837	(3.0%増)	鑑別件数(件)	—	12,669	29,116	45,183	57,119	60,441	(5.8%増)		H25	H26	H27	H28	H29	H30		患者数(人)	225	198	334	354	838	935	(11.6%増)	説明回数(件)	225	201	360	383	958	1,081	(12.8%増)
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																																																				
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31																																																																																																												
薬剤師数	16	18	20	22	27	33	38	42	44	45	(2.3%増)																																																																																																											
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																													
患者数(人)	2,093	2,340	2,522	2,576	3,399	3,554	3,671	4,229	6,151	(45.4%増)																																																																																																												
指導回数(件)	2,227	2,516	2,703	2,727	3,778	4,088	4,129	4,894	7,394	(51.1%増)																																																																																																												
	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																
病棟数	—	5	11	16	16	16	(増減なし)																																																																																																															
患者数(人)	243	1,918	5,162	8,460	11,497	11,837	(3.0%増)																																																																																																															
鑑別件数(件)	—	12,669	29,116	45,183	57,119	60,441	(5.8%増)																																																																																																															
	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																
患者数(人)	225	198	334	354	838	935	(11.6%増)																																																																																																															
説明回数(件)	225	201	360	383	958	1,081	(12.8%増)																																																																																																															

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																						
		<ul style="list-style-type: none"> 平成29年7月に中央病院で発生した薬剤紛失事案について、県に提出した改善計画を継続して実行することにより、薬剤管理の一層の強化と再発防止に取り組んだ。 (主な改善策) 第3種向精神薬の管理方法の強化(施錠管理)、すべての向精神薬について購入量・処方数量・在庫数量を毎月照合、監視カメラ設置、インターホン増設、ドアアラーム装置設置、各種マニュアルの改訂、職員に対する研修会の実施(棚卸、防犯対策) 北病院においても自主的な取り組みとして、全ての向精神薬を鍵の掛かる引き出しやシャッター式の薬品棚への保管(施錠管理)、監視カメラの設置により薬剤管理の強化を継続して行った。 																																						
<p>⑤患者サービスの向上 外来患者の待ち時間や患者満足度調査を毎年定期的に実施し、より正確な実態の把握に努め、診療予約制度の効率的運用や受付から精算までが円滑に行われるための施設・設備面を含めた実施体制の整備、職員への接遇研修などにより、患者サービスの向上に努める。</p>	<p>⑤患者サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 各科受付から精算までの患者の流れを改善するため、受付業務、会計・精算事務の見直し等を行い、会計時間の短縮を図るとともに、病院職員の接遇強化も図っていく。 入院などの説明をワンストップで行う入退院センターの充実に向けた検討を行う。 病院では、患者や来院者の受動喫煙を防止するため、敷地内禁煙に向けた取り組みを進める。 	<p>(21)患者サービスの向上</p> <table border="1" data-bbox="1507 541 2798 625"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めて来院した外来患者でも、迷うことなく受診ができるよう、わかりやすい案内掲示板を設置した。 会計待ち時間の短縮を図るため、会計表示連動システムを用いて抽出・グラフ化した患者待ち時間データを毎月行われるサービス改善委員会に報告し、改善策を検討する上で参考とした。 代表電話への繋がりにくさを解消するため、平成31年4月より電話交換手を1名増員し、3名体制とすることとした。 電話予約の利便性の向上を図るため、平成30年9月に電話予約センターに多機能電話を導入し、通話時間、待ち時間の短縮を図った。また、予約センターの着信データの詳細な分析を行い、混雑が顕著な時間帯でのオペレーターの増員について検討を進めることとした。 来院時の患者サービスの向上を目的として、看護師、事務職員が総合案内に立ち、医療相談や患者への診察案内を行っている。また、平成31年4月からは看護師長経験者3名を「医療コンシェルジュ」に任命し、これまで以上にきめ細やかな医療相談や患者への診察案内を行う体制を整備した。 再来受付機受付後、速やかに検体検査が行えるよう中央採液室の受付開始時間及び採血業務を15分前倒しそれぞれ8時00分、8時15分からとした。また、案内表示モニターを見やすい位置に移設するとともに呼び出しマイクを設置した。 入院などの説明をワンストップで行う入退院センターの増設工事が3月に完了し、個室の面談室を3室から10室に増やした。これに合わせ、先行して内科、外科、泌尿器科で実施している説明を全診療科に拡大していく。(前述P23)。 <table border="1" data-bbox="1537 1360 2226 1564"> <caption>入退院センターでの説明状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数(新規)</td> <td>3,595</td> <td>5,792</td> <td>6,368</td> <td>(9.9%増)</td> </tr> <tr> <td>入院センター説明数</td> <td>2,239</td> <td>3,642</td> <td>3,897</td> <td>(7.0%増)</td> </tr> <tr> <td> 内科</td> <td>1,419</td> <td>2,140</td> <td>2,106</td> <td>(1.6%減)</td> </tr> <tr> <td> 外科</td> <td>834</td> <td>1,234</td> <td>1,198</td> <td>(2.9%減)</td> </tr> <tr> <td> 泌尿器科</td> <td>—</td> <td>256</td> <td>593</td> <td>(131.6%増)</td> </tr> <tr> <td>入院センター説明率</td> <td>62.3%</td> <td>62.9%</td> <td>61.2%</td> <td>(1.7ポイント減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※入退院センターは平成28年8月より業務開始 ※入院患者数(新規)は内科、外科、泌尿器科のみ的人数 ※泌尿器科はH29年11月以降の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者やその家族が医療及び福祉に関する相談を安心して行うことができ、その相談に対し適切なサポートを行うため、「患者相談窓口」を1階ロビーに開設し、12月から業務を開始した。 入院患者や外来患者を対象とした患者満足度調査を実施し患者からの声・評価を確認(8月～9月実施)した。その中で、満足度の低かった入院食について、県内外の病院に対し実態を調査するとともに、献立の内容の改善等について委託業者と協議した。 中央病院の理念達成や地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」受審に向け様々な改善の取り組みを行った。2月に本審査を受審し、当院の医療が概ね適切に行われていることが確認できた(前述P19)。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H28	H29	H30		入院患者数(新規)	3,595	5,792	6,368	(9.9%増)	入院センター説明数	2,239	3,642	3,897	(7.0%増)	内科	1,419	2,140	2,106	(1.6%減)	外科	834	1,234	1,198	(2.9%減)	泌尿器科	—	256	593	(131.6%増)	入院センター説明率	62.3%	62.9%	61.2%	(1.7ポイント減)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																						
	H28	H29	H30																																					
入院患者数(新規)	3,595	5,792	6,368	(9.9%増)																																				
入院センター説明数	2,239	3,642	3,897	(7.0%増)																																				
内科	1,419	2,140	2,106	(1.6%減)																																				
外科	834	1,234	1,198	(2.9%減)																																				
泌尿器科	—	256	593	(131.6%増)																																				
入院センター説明率	62.3%	62.9%	61.2%	(1.7ポイント減)																																				

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																				
		<p>【北病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北病院では、利用者の視点を重視したより質の高い医療やサービスを提供するため、入院患者及び外来患者を対象とした満足度調査を実施した（10～11月）。 より多くの患者の診察を行うため、外来診察室を1部屋増やし、診察の効率化を図った。 改正健康増進法の成立及び喫煙による健康被害と患者支援のため、平成30年10月から唯一喫煙可能であった1A病棟を禁煙として、建物内完全禁煙とした。 来院者の利便性を高めるため、「時間外・救急入口」の看板設置、「障がい者用駐車場」の増設を行った。 全病棟の食堂の机と椅子をリニューアルし、明るく快適に食事が摂れるようにした。 																																				
<p>⑥診療情報の適切な管理 紙カルテの適切な保管、電子カルテに係る運用規程の遵守など患者の診療情報を厳格に管理するとともに、患者・家族に対する診療情報の開示を適切に実施する。</p>	<p>⑥診療情報の適切な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙カルテの適切な保管、電子カルテに係る運用規程の遵守など患者の診療情報を厳格に管理するとともに、患者・家族に対する診療情報の開示を適切に実施する。また、文書管理システムを活用し、診療に関する資料の効率的な管理を行う。 医療情報システム（電子カルテシステム等）の更新に向け、現有システムの改善点や新たな機能の検討を行う。 北病院では医療情報システムに係るハード整備を行う。 	<p>(22)診療情報の適切な管理</p> <table border="1" data-bbox="1516 653 2801 743"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 紙カルテは、電気錠により入室が制限されているカルテ庫において適切に保管した。紙カルテのうち入院カルテについては、カルテ庫内の施錠できる部屋に保管しているが、外来カルテについても、施錠できるパーテーションを新たに設置し、より厳重に管理した。また、診療情報管理担当による所在管理のもと貸し出しを行うとともに、電子カルテについては、新規採用者を対象に情報セキュリティに関する研修を実施するなど、病院情報システム運用管理規程に基づき適切に運用した。 カルテの記載方法について、中央病院では診療記録委員会、北病院では医療情報システム管理委員会が中心となって適切な記載方法を院内に周知した。 また、カルテ開示については、運用規程等に基づき、適切に実施した。 <table border="1" data-bbox="1516 1052 2801 1171"> <caption>カルテ開示件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>44</td> <td>64</td> <td>47</td> <td>67</td> <td>45</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>(1.5%増)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>(12.5%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 患者の診療情報を厳格に管理するため、これまで委託で行っていた診療録のスキャン業務を平成30年度から内製化し、病院採用職員が業務を行った。その結果、平成31年6月から「診療録管理体制加算1」が取得できる見込みとなった。 文書管理システムを平成28年6月に導入し、紹介状等の紙文書を電子化することにより、電子カルテで文書の確認ができるようになるなど、医療情報の効率的な管理、利用が可能となるとともに、大部分の紙文書をペーパーレス化したため、紙文書の運搬、保管等の業務の大幅な効率化を図ることができた。 中央病院では、平成32年度に計画している医療情報システム（電子カルテシステム）の更新に向け、現有システムの改善点や新たな機能について検討した。 また、北病院では医療情報システムを更新するため業者を選定し、平成31年度当初から更新作業を進めることとした。 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		中央病院	23	21	44	64	47	67	45	66	67	(1.5%増)	北病院	2	5	2	3	3	10	10	8	9	(12.5%増)
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																				
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
中央病院	23	21	44	64	47	67	45	66	67	(1.5%増)																												
北病院	2	5	2	3	3	10	10	8	9	(12.5%増)																												

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
2 医療に関する調査及び研究

中期目標
2 医療に関する調査及び研究
県立病院機構で提供する医療の質の向上、県内の医療水準の向上、県民の健康の確保及び増進、また、新たな医療技術への貢献のため、関係法令・指針等を遵守しつつ、調査及び研究に取り組むこと。

中期計画	年度計画
<p>2 医療に関する調査及び研究 県立病院機構の有する医療資源を活用した調査及び研究を進め、その成果を国内外に積極的に情報発信する。また、調査及び研究に取り組むにあたっては、関係法令・指針等の遵守に努める。</p> <p>(1) 新薬開発等への貢献 新薬の開発等に貢献するため、治療の効果や安全性を確認するための治験を積極的に実施する。また、治験に関する情報をホームページ等で公開する。</p>	<p>2 医療に関する調査及び研究</p> <p>(1) 新薬開発等への貢献 新薬の開発等に貢献するため、治療の効果や安全性を確認するための治験を積極的に実施するとともに、臨床試験管理センターにより、治験の円滑な実施と関連部署との連携強化を図る。また、治験に関する情報をホームページ等で公開する。</p>

業務実績及び法人の自己評価

(23)医療に関する調査及び研究

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

中央病院では、治験（新規11件、継続33件）、臨床研究（新規53件、継続49件）、製造販売後調査（新規24件、継続89件）、北病院では、精神科分野の臨床研究（新規28件、継続29件）、製造販売後調査（継続7件）を実施した。また、両院において、治験審査委員会議事録、治験に関する手順書等の情報をホームページで公開した。

中央病院では、臨床試験管理センターにおいて、治験に関する事務を一元的に処理するとともに、関係機関、関連部署との調整、連携強化を図った。

治験の実施状況 (単位:件)

中央病院		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
治験	新規	5	13	9	14	10	10	12	17	11	(35.3%減)
	継続	3	5	14	16	19	20	21	23	33	(43.5%増)
	終了	3	4	7	11	9	9	10	7	12	(71.4%増)
臨床研究	新規	10	13	15	21	17	16	16	32	53	(65.6%増)
	継続	0	10	20	32	43	49	56	57	49	(14.0%減)
	終了	0	3	3	10	11	9	21	21	27	(28.6%増)
製造販売後調査	新規	29	23	21	15	22	31	29	29	24	(17.2%減)
	継続	78	88	88	83	70	64	72	80	89	(11.3%増)
	終了	19	23	26	28	28	23	21	20	20	(増減なし)

北病院 (単位:件)

北病院		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
治験	新規	4	0	1	0	0	0	0	0	0	(増減なし)
	継続	0	4	4	4	3	0	0	0	0	(増減なし)
	終了	0	0	1	1	3	0	0	0	0	(増減なし)
臨床研究	新規	0	0	0	0	0	0	15	26	28	(7.7%増)
	継続	0	0	0	0	0	0	0	15	29	(93.3%増)
	終了	0	0	0	0	0	0	0	12	28	(133.3%増)
製造販売後調査	新規	2	2	0	3	3	2	1	2	0	(皆減)
	継続	1	3	5	2	5	5	5	6	7	(16.7%増)
	終了	0	0	3	0	3	2	0	1	1	(増減なし)

C型肝炎の患者に対して、治療薬（ソバルディ、ハーボニー）での治療を実施しており、発売開始から3月末日までに497人の患者に対して治療を行っている（治験を含めると547人）。投薬終了後の再発は4例のみであり、非常に良好な治療成績となっている。なお、この治療薬は、当機構の理事長が治験を担当し、保険適用を進めたものであり、治療実績は、全国でも上位となっている。

新薬による肝炎治療の状況

	患者数	購入額	
ソバルディ	161人	7億円	(治療患者数全国12位)
ハーボニー	336人	20億円	(治療患者数全国5位)
計	497人	27億円	(治療患者数全国6位)

※患者数、購入額は発売から3月末日の実績

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																																					
		<p>・オラパリブの投与 がん化した細胞に対して、特異的に細胞死を誘導することを目的に開発が進められている分子標的薬（PARP阻害剤）であるオラパリブの有効性は、がん抑制遺伝子の一種であるBRCA変異を有する卵巣癌に対し、従来の治療より副作用が少なく、腫瘍の増悪までの期間を延長できると報告されている。PARP阻害剤であるオラパリブの有効性は、既に海外では確立されている。 中央病院では、平成25年度からBRCA検査が自施設（ゲノム解析センター）で可能になり、変異症例に対して、日本では未承認薬であったオラパリブについて、平成27年11月25日に倫理委員会での承認を受け、「プラチナ感受性BRCA変異陽性再発卵巣癌」に対し、MAP（Managed Access Program）を利用したオラパリブ投与という日本で初めての臨床試験を計画し、平成28年1月に1例目の投与を開始した。 また、平成30年1月には製造販売承認され、同年4月には薬価収載されたことから、先行して研究を実施してきた当院では、今後もオラパリブの投与を推進していく（前述P10）。</p> <p>※ MAP（Managed Access Program）：国内未承認薬で国外ではすでに提供されている薬剤を国内承認まで無償で提供するシステム。但し、独立した国際的第三者機関の承認が必要。</p>																																																																																																																																																																					
<p>(2) 各種調査研究の推進 医療技術の向上に貢献するため、豊富な臨床事例をもとに、各種調査研究を県立大学等と連携し、積極的に推進する。</p>	<p>(2) 各種調査研究の推進 医療技術の向上に貢献するため、臨床事例をもとに、各種調査研究を県立大学等と連携し、積極的に推進する。 認知コンピュータ（コグニティブ・コンピューティング・システム）を利用した診断等の可能性について調査、研究を行う。</p>	<p>・ 看護の質の向上を目指して、平成26年度から県立大学と共同研究を行っている。 平成30年度は、中央病院では16の研究テーマのうち、「心臓血管外科手術を受けた患者の術後せん妄における看護師のアセスメント力向上への取り組みとその成果」など13テーマを共同研究として実施した。研究結果は、日本看護学会、日本看護管理学会等の全国規模の学会で発表した。また、2月には看護研究学術集会を開催した。 北病院では、県立大学との共同研究を推進し、精神疾患患者のストレングス、家族支援プログラムに関する研究に取り組んだ。研究結果は、精神科看護専門学会等で発表した。</p> <table border="1" data-bbox="1528 871 2537 955"> <caption>看護研究学術集会の状況</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究テーマ数</td> <td>53</td> <td>49</td> <td>47</td> <td>34</td> <td>27</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>17</td> <td>16</td> <td>(5.9%減)</td> </tr> <tr> <td>(うち共同研究数)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>31</td> <td>25</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>(18.8%減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 中央病院の「病院会議」に第2部を設け、各診療科の診療内容、治療成績、最近のトピック、今後の展望など各科の特色の相互理解を深め、かつ、今後の医療に関する調査・研究課題を探索した。</p> <p>・ 図書室で、医師・看護師等の調査・研究に必要な資料・情報等を提供し、論文、講演会等の資料作成を支援した。</p> <p>・ 研修医をはじめ病院職員誰もが気軽に学習できるスペース等を確保するため、図書室リニューアル工事を実施した。 (リニューアルの内容) 個人用学習スペース、2~3人が共同して利用できる小規模ブース、ミーティングルームの設置等</p> <table border="1" data-bbox="1528 1228 2611 1354"> <caption>学術活動(論文)の状況 (単位:本)</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英文論文</td> <td>14</td> <td>57</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>16</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>56</td> <td>45</td> <td>(19.6%減)</td> </tr> <tr> <td>邦文論文</td> <td>123</td> <td>119</td> <td>105</td> <td>76</td> <td>42</td> <td>58</td> <td>29</td> <td>40</td> <td>61</td> <td>(52.5%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>137</td> <td>176</td> <td>141</td> <td>104</td> <td>58</td> <td>111</td> <td>81</td> <td>96</td> <td>106</td> <td>(10.4%増)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1528 1375 2567 1491"> <caption>学術活動(論文)の状況 (単位:本)</caption> <thead> <tr> <th>北病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英文論文</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>(皆減)</td> </tr> <tr> <td>邦文論文</td> <td>28</td> <td>16</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>36</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>(42.9%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>17</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>36</td> <td>15</td> <td>6</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>(33.3%増)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1528 1512 2656 1638"> <caption>学術活動(講演)の状況 (単位:本)</caption> <thead> <tr> <th>中央病院</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国外講演会</td> <td>8</td> <td>71</td> <td>65</td> <td>34</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>34</td> <td>31</td> <td>33</td> <td>(6.5%増)</td> </tr> <tr> <td>国内講演会</td> <td>318</td> <td>401</td> <td>415</td> <td>374</td> <td>334</td> <td>551</td> <td>567</td> <td>596</td> <td>507</td> <td>(14.9%減)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>326</td> <td>472</td> <td>480</td> <td>408</td> <td>361</td> <td>576</td> <td>601</td> <td>627</td> <td>540</td> <td>(13.9%減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 中央病院の肺がん・呼吸器病センター長が第56回日本癌治療学会学術集会で優秀演題賞を受賞した。</p> <p>・ 中央病院の研修医が日本内科学会第646回関東地方会で奨励賞を受賞した。</p> <p>・ 中央病院の検査部に所属する臨床検査技師がサクラ病理技術新人賞を受賞した。</p> <p>・ 中央病院のゲノム解析センターに所属する研究員の研究が、(独)日本学術振興協会の学術研究助成事業に採択された。</p> <p>・ 北病院の医師が、日本臨床精神神経薬理学会・日本神経精神薬理学会において、優秀プレゼンテーション賞を受賞した。</p>	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		研究テーマ数	53	49	47	34	27	35	28	17	16	(5.9%減)	(うち共同研究数)	0	0	0	0	13	31	25	16	13	(18.8%減)	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		英文論文	14	57	36	28	16	53	52	56	45	(19.6%減)	邦文論文	123	119	105	76	42	58	29	40	61	(52.5%増)	計	137	176	141	104	58	111	81	96	106	(10.4%増)	北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		英文論文	0	1	0	2	0	0	1	1	0	(皆減)	邦文論文	28	16	10	10	36	15	5	14	20	(42.9%増)	計	28	17	10	12	36	15	6	15	20	(33.3%増)	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		国外講演会	8	71	65	34	27	25	34	31	33	(6.5%増)	国内講演会	318	401	415	374	334	551	567	596	507	(14.9%減)	計	326	472	480	408	361	576	601	627	540	(13.9%減)
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																														
研究テーマ数	53	49	47	34	27	35	28	17	16	(5.9%減)																																																																																																																																																													
(うち共同研究数)	0	0	0	0	13	31	25	16	13	(18.8%減)																																																																																																																																																													
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																														
英文論文	14	57	36	28	16	53	52	56	45	(19.6%減)																																																																																																																																																													
邦文論文	123	119	105	76	42	58	29	40	61	(52.5%増)																																																																																																																																																													
計	137	176	141	104	58	111	81	96	106	(10.4%増)																																																																																																																																																													
北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																														
英文論文	0	1	0	2	0	0	1	1	0	(皆減)																																																																																																																																																													
邦文論文	28	16	10	10	36	15	5	14	20	(42.9%増)																																																																																																																																																													
計	28	17	10	12	36	15	6	15	20	(33.3%増)																																																																																																																																																													
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																														
国外講演会	8	71	65	34	27	25	34	31	33	(6.5%増)																																																																																																																																																													
国内講演会	318	401	415	374	334	551	567	596	507	(14.9%減)																																																																																																																																																													
計	326	472	480	408	361	576	601	627	540	(13.9%減)																																																																																																																																																													

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
3 医療に関する技術者の研修

3 医療に関する技術者の研修
医療従事者の確保、育成及び定着を図るとともに、県内の医療水準の向上のため、他の医療機関と連携して研修等の充実に努めること。
(1) 医療従事者の研修の充実
医療従事者の知識・技術の向上を図り、また、医療従事者に魅力ある病院となるよう研修の充実に努めること。
(2) 県内の医療水準の向上
他の医療機関等の医療従事者に対し、県立病院機構の持つ知識や技術を研修等により普及し、県内の医療水準の向上を図ること。
また、医療従事者養成機関等の実習の受け入れ等、本県の医療を担う医療従事者の育成に協力すること。

中期計画	年度計画
<p>3 医療に関する技術者の研修 医療従事者の研修の充実に取り組むとともに、他の医療機関との交流を進める。</p> <p>(1) 医療従事者の研修の充実 ① 医師の専門性の向上 研修体制の充実や専門医・認定医等の資格取得を支援し、医師の専門性の向上を図る。 ② 認定看護師等の資格取得の促進 認定看護師等の資格取得を支援するとともに、資格を取得しやすい環境を整える。 ③ 研修の充実 院内研修会の開催をはじめ、先進的な研修・研究会への派遣などを行い、職員の資質の向上を図る。</p>	<p>3 医療に関する技術者の研修</p> <p>(1) 医療従事者の研修の充実 ① 医師の専門性の向上 研修体制の充実や専門医・認定医等の資格取得を支援するとともに、医師の専門性の向上を図る。 ② 認定看護師等の資格取得の促進 認定看護師等の資格取得を支援するとともに、資格を取得しやすい環境を整える。 ③ 研修の充実 院内研修会の開催をはじめ、先進的な研修・研究会への派遣などにより、職員の資質の向上を図る。</p>

業務実績及び法人の自己評価

業務実績及び法人の自己評価			
(24) 医療従事者の研修の充実			
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている	
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度胎児心臓病診断及びスクリーニング精度の向上等を図るため、中央病院新生児内科の医師を、日本で有数の先進的な胎児・小児心臓医療を行っている長野県立こども病院へ11か月間派遣した。 平成30年度からスタートした新専門医制度において、当機構では、「内科」「救急科」「整形外科」「総合診療科」「外科」「精神科」の6つの領域で基幹施設として専門研修プログラムが承認されている。平成30年度は基幹施設として内科5名、救急科1名、精神科1名、連携施設として内科1名、外科1名、産婦人科2名、精神科1名の計12名の専攻医を採用した。また、平成31年度は、基幹施設として内科2名、外科2名、救急科2名、精神科2名、連携施設として内科2名、整形外科1名、小児科1名、産婦人科1名、皮膚科1名の計14名の専攻医を採用した(前述P16)。 da Vinci Xiなど高度、専門的な医療を提供するに当たり、他の医療機関から指導医を招へいした(平成29年度 泌尿器科7例、平成30年度 胃食道外科 6例)。その結果、当院の医師の技術向上が図られるとともに、当院が施設基準を満たすための症例数を増やすことができた。 国内外の各種学会に積極的に参加するとともに、院内学術集会・院内医療従事者研修会を実施した。 			
(参加した主な学会)			
学会名	演題	発表区分	開催国
第77回日本医学放射線学会総会	3D polka-dot sign: 肺lymphangiomyomatosis のLow-Attenuation Area 抽出3次元画像所見	口演	日本
第92回日本感染症学会学術集会	将来生じうる感染症医療サージに、どのように対応するかー山梨県での取り組み 第1報ー	口演	日本
第14回日本クリティカルケア看護学会学術集会	救命救急センターにおけるせん妄評価ツール CAM-ICU・ICDSC導入後の看護師の認識	口演	日本
第54回日本周産期・新生児医学会学術集会	山梨県における新生児蘇生法普及事業への取り組みー第2報ー	口演	日本
第16回日本臨床腫瘍学会学術集会	肺癌surfactant遺伝子領域におけるnoncoding indelの解析	口演	日本
第80回日本血液学会学術集会	発熱性好中球減少症遷延に対する従来型経験的治療とD-indexによる早期治療の無作為割付比較試験CEDMIC試験(FN研究会第6次研究)	口演	日本
第28回国際産科婦人科超音波学会(ISUOG)	Objective evaluation of fetal facial morphology using a new method: facial shape index.	口演	シンガポール
第26回日本消化器関連学会週間(JDDW)	Big DataとパネルゲノムProfile解析	パネルディスカッション	日本
2018年アジア・太平洋消化器病週間(APDW2018)	Multidisciplinary approach in HCC treatment: various combination strategies and new emerging MTAs in HCC treatment.	講演	韓国
第46回日本救急医学会総会・学術集会	山梨の救急をドクターヘリとドクターカーで守る	パネルディスカッション	日本
2019年アジア太平洋肝臓学会議(APASL2019)	Comparison of clinical judgement and genetic differentiation of multinodular HCC; Intrahepatic metastasis (IM) vs Multicentric occurrence (MC).	口演	フィリピン

学術活動(講演)の状況

(単位:本)

中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
国外講演会	8	71	65	34	27	25	34	31	33	(6.5%増)
国内講演会	318	401	415	374	334	551	567	596	507	(14.9%減)
計	326	472	480	408	361	576	601	627	540	(13.9%減)

(院内学術集会)

開催月	内容
7月	当院での斜視・弱視の訓練・検査の現状 開心術を受けた高齢患者の早期離床におけるレジリエンス 入退院センターにおける入院前常用薬管理に関する薬剤師の取り組み ビッグデータと解析ツールとしてのR入門
10月	初回抗がん薬治療を受ける患者に対する看護師と薬剤師の協働指導の効果 気管支鏡検査中の迅速細胞診の取り組み ゲノムのABC 泌尿器科におけるロボット手術
1月	医療被ばく最適化への試み CHDFの安全管理への取り組み 電気刺激療法の可能性 ー外傷性外肛門括約筋完全断裂に対する理学療法の経験を通してー 中央病院は大丈夫??? ートラフ、水害、停電、富士山ー

・ 院内外の医療従事者を対象にしたカンサーボードを開催し、がん医療の質の向上に努めた。平成25年度からは、領域別のカンサーボードを開催するだけでなく、包括的に最適な医療を検討する場として、総合カンサーボードを開催しており、平成30年度は5回開催し、累計で71回となった。

平成30年度総合カンサボード

No.	開催日	内容	人数
1	第67回 平成30年4月27日(金)	直腸がんに対するロボット手術	62
2	第68回 平成30年6月19日(火)	内視鏡的インターベンション 膵癌・胆道癌	69
3	第69回 平成30年9月18日(火)	ロボット支援食道癌手術 ～現状と安全な導入～	54
4	第70回 平成30年12月26日(水)	ゲノムとロボット手術	43
5	第71回 平成31年2月26日(火)	臓器横断的癌治療の夜明け	54

・ 最新情報を研修医と上級専門医が解説するカンファレンスであるMedical&Surgical Ground Rounds (MSGR) を、平成30年度は20回実施し、累計で152回となった。毎回参加者は40人を超え、熱心な議論が交わされた(前述P16)。

Medical & Surgical Ground Rounds (MSGR) プログラム 2018

平成30年(2018)年度

	開催回	開催日	トピックス	文献
H30 (2018)	第133回	5月28日	Dawn trial, 脳梗塞、血管内治療	N Engl J Med 2018; 378: 11-21
"	第134回	6月11日	Olaparib, 乳癌、BRCA変異	N Engl J Med 2017; 377: 523-33
"	第135回	6月18日	スポーツ、PRP、再生医療	Am J Sports Med 2014; 42: 2410-18
"	第136回	7月2日	心不全、房細動、catheter ablation	N Engl J Med 2018; 378:417-427
"	第137回	7月23日	脂肪移植の応用、瘢痕再建	Plast Reconstr Surg 2017;139:212-219
"	第138回	8月6日	HIV治療遵守=移らないかも	JAMA. 2016;316:171-181
"	第139回	8月20日	I期子宮体癌、腹腔鏡 vs 開腹	JAMA. 2017;317:1224-1233.
"	第140回	9月3日	腫瘍形成性虫垂炎、治療選択	Lancet Gastroenterol Hepatol 2017; 2: 253-260
"	第141回	9月10日	ケタミン、術後せん妄	Lancet 2017; 390: 267-75
"	第142回	10月1日	早産、経母体ステロイド投与	N Engl J Med 2016; 374: 1311-20
"	第143回	10月15日	ロボット支援腎部分切除術、他の術式との比較	Eur Urol. 2015; 67: 891-901
"	第144回	10月29日	塞栓原不明脳塞栓症、植え込み型心電図	N Engl J Med 2014; 370:2478-2486.
"	第145回	11月5日	がん、ゲノム解析	JAMA 2018; 320: 469-477
"	第146回	11月12日	小細胞肺癌、線量分割、照射野	Lancet Oncol. 2017; 18:1116-1125.
"	第147回	11月26日	アトピー性皮膚炎、生物学的製剤	N Engl J Med 2016;375:2335-48.
"	第148回	12月3日	Nivolumab、頭頸部癌	N Engl J Med 2016;375:1856-67.
"	第149回	12月17日	免疫チェックポイント阻害薬、Atezolizumab、非小細胞肺癌	Lancet 2017; 389: 255-265.
H31 (2019)	第150回	1月21日	重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症、弁形成 vs. 弁置換	N Engl J Med 2016; 374: 344-353
"	第151回	2月4日	閉経後骨粗鬆症、Denosumab	Lancet Diabetes Endocrinol 2017; 5: 513-523
"	第152回	2月18日	CGM、最新の自己血糖測定器	Lancet 2016; 388: 2254-63

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																																								
		<p>・平成27年度から、医師、看護師、医療従事者等を対象に研修の一元化を目的とした、教育研修センターを設置し、医療の質の維持・向上を図っている。</p> <p>・平成28年度に開設した臨床研修センター及び医療教育シミュレーションセンターにおいて、医師などの医療職の実技研修の充実を図った。平成30年度は、看護師に対する採血の手技やBLS、ALSの実技研修など89件の研修が実施された。</p> <p>・認定看護師取得のため、教育課程を5人が受講した（緩和ケア・認知症看護・放射線看護）</p> <p>認定看護師等の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>中央病院</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>専門看護師</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>(25.0%減)</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>北病院</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>専門看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>(16.7%増)</td> </tr> </table> <p>・医療従事者等の研修等の充実のため、研修会、学会参加旅費、負担金、認定看護師受講料、研修医指導用図書購入費等の職員研究研修に係る必要額を予算計上した。</p> <p>研修予算の状況 (単位:千円)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>H31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>予算額</td> <td>13,405</td> <td>13,570</td> <td>15,139</td> <td>17,284</td> <td>18,508</td> <td>20,461</td> <td>30,550</td> <td>(49.3%増)</td> </tr> </table> <p>・平成30年9月と10月に医療ガス会社の社員を講師として招き「医療ガス研修会」を開催した。この研修では医療ガス器具の実際の取り扱い方法や危険性など、より実践的な内容で実施した。</p> <p>・中央病院では、医療機器の安全使用のため、臨床工学技師が講師となり職員を対象とした研修を実施した。</p> <p>医療機器安全研修の状況</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開催回数(回)</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>19</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>8</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>(10.0%増)</td> </tr> <tr> <td>参加者数(人)</td> <td>75</td> <td>210</td> <td>220</td> <td>230</td> <td>240</td> <td>212</td> <td>357</td> <td>633</td> <td>(77.3%増)</td> </tr> </table>	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		専門看護師	0	1	4	4	4	4	3	4	3	(25.0%減)	認定看護師	14	14	16	17	21	19	20	22	22	(増減なし)	北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		専門看護師	0	0	0	0	0	0	2	2	2	(増減なし)	認定看護師	3	4	5	5	6	7	7	6	7	(16.7%増)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31		予算額	13,405	13,570	15,139	17,284	18,508	20,461	30,550	(49.3%増)		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		開催回数(回)	8	14	19	11	15	8	20	22	(10.0%増)	参加者数(人)	75	210	220	230	240	212	357	633	(77.3%増)																																																						
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																	
専門看護師	0	1	4	4	4	4	3	4	3	(25.0%減)																																																																																																																																																																
認定看護師	14	14	16	17	21	19	20	22	22	(増減なし)																																																																																																																																																																
北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																	
専門看護師	0	0	0	0	0	0	2	2	2	(増減なし)																																																																																																																																																																
認定看護師	3	4	5	5	6	7	7	6	7	(16.7%増)																																																																																																																																																																
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31																																																																																																																																																																			
予算額	13,405	13,570	15,139	17,284	18,508	20,461	30,550	(49.3%増)																																																																																																																																																																		
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																		
開催回数(回)	8	14	19	11	15	8	20	22	(10.0%増)																																																																																																																																																																	
参加者数(人)	75	210	220	230	240	212	357	633	(77.3%増)																																																																																																																																																																	
<p>(2) 県内の医療水準の向上</p> <p>①地域医療従事者の研修 他の地域医療機関の医療従事者を対象とした医療技術の向上に資する研修を実施する。</p> <p>②研修、実習等の実施 他の医療機関の医療従事者などを対象に、拠点病院として有する知識や技術を活かして、がん診療、感染症診療等に係る研修を実施する。</p> <p>③医療従事者養成機関からの実習生の受入れ</p>	<p>(2) 県内の医療水準の向上</p> <p>①地域医療従事者の研修 他の地域医療機関の医療従事者を対象とした病院セミナーの定期的な開催など、医療技術の向上に資する研修を実施する。</p> <p>②研修、実習等の実施 他の医療機関の医療従事者などを対象に、拠点病院として有する知識や技術を活かして、がん診療、感染症診療等に係る研修を実施する。</p> <p>③医療従事者養成機関からの実習生の受入れ 看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師等を目指す実習生を養成機関から積極的に受け入れ、人材養成の支援に努める。</p>	<p>(25) 県内の医療水準の向上</p> <table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <p>・院内外の医療従事者を対象とした、がん医療従事者研修会やエイズ研修会、総合周産期母子医療センター症例検討会を実施した。</p> <p>がん医療従事者研修会</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開催回数(回)</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>(40.0%増)</td> </tr> <tr> <td>参加者数(人)</td> <td>311</td> <td>312</td> <td>809</td> <td>537</td> <td>649</td> <td>387</td> <td>387</td> <td>326</td> <td>205</td> <td>(37.1%減)</td> </tr> </table> <p>エイズ研修会、総合周産期母子医療センター症例検討会 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>エイズ研修会</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>総合周産期母子医療センター症例検討会</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </table> <p>・助産師の知識と技術の向上を図るため、ハイリスク分娩を扱う中央病院において、都留市立病院から1名の助産師及び県立看護大学から3名の助産師学生の研修を受け入れた。</p> <p>・訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師が最新の医療知識及び医療技術を習得するため、中央病院で実習を受け入れた。</p> <p>・看護師、薬剤師、精神保健福祉士等の実習生を受け入れた。</p> <p>実習生等の受入状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <td>中央病院</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>686</td> <td>662</td> <td>718</td> <td>718</td> <td>745</td> <td>734</td> <td>687</td> <td>730</td> <td>659</td> <td>(9.7%減)</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>(57.1%増)</td> </tr> <tr> <td>NST</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>(皆増)</td> </tr> </table> <p>※NST(栄養サポートチーム)専門療法士実地修練</p> <table border="1"> <tr> <td>北病院</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>106</td> <td>107</td> <td>118</td> <td>79</td> <td>90</td> <td>101</td> <td>108</td> <td>96</td> <td>104</td> <td>(8.3%増)</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士</td> <td>15</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>1</td> <td>(90.0%減)</td> </tr> <tr> <td>臨床心理士</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>(皆減)</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </table>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		開催回数(回)	6	6	10	8	6	6	5	5	7	(40.0%増)	参加者数(人)	311	312	809	537	649	387	387	326	205	(37.1%減)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		エイズ研修会	6	6	10	5	3	1	2	5	5	(増減なし)	総合周産期母子医療センター症例検討会	0	1	1	1	1	1	1	1	1	(増減なし)	中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		看護師	686	662	718	718	745	734	687	730	659	(9.7%減)	薬剤師	3	6	2	9	7	9	8	7	11	(57.1%増)	NST	4	4	4	4	3	0	0	0	1	(皆増)	北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		看護師	106	107	118	79	90	101	108	96	104	(8.3%増)	精神保健福祉士	15	14	15	10	12	13	9	10	1	(90.0%減)	臨床心理士	3	5	3	3	2	4	2	2	0	(皆減)	作業療法士	1	1	2	0	0	0	0	2	2	(増減なし)
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																																																																																																								
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																	
開催回数(回)	6	6	10	8	6	6	5	5	7	(40.0%増)																																																																																																																																																																
参加者数(人)	311	312	809	537	649	387	387	326	205	(37.1%減)																																																																																																																																																																
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																	
エイズ研修会	6	6	10	5	3	1	2	5	5	(増減なし)																																																																																																																																																																
総合周産期母子医療センター症例検討会	0	1	1	1	1	1	1	1	1	(増減なし)																																																																																																																																																																
中央病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																	
看護師	686	662	718	718	745	734	687	730	659	(9.7%減)																																																																																																																																																																
薬剤師	3	6	2	9	7	9	8	7	11	(57.1%増)																																																																																																																																																																
NST	4	4	4	4	3	0	0	0	1	(皆増)																																																																																																																																																																
北病院	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																	
看護師	106	107	118	79	90	101	108	96	104	(8.3%増)																																																																																																																																																																
精神保健福祉士	15	14	15	10	12	13	9	10	1	(90.0%減)																																																																																																																																																																
臨床心理士	3	5	3	3	2	4	2	2	0	(皆減)																																																																																																																																																																
作業療法士	1	1	2	0	0	0	0	2	2	(増減なし)																																																																																																																																																																

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
4 医療に関する地域への支援

4 医療に関する地域への支援
本県の基幹病院として、他の医療機関と密接な連携を通じて、県民に良質な医療を提供するとともに、地域の医療機関から信頼され、必要とされる病院となるよう努めること。
(1) 地域医療機関との協力体制の強化
他の医療機関との協力のもと、病病・病診連携を推進し、県全体として県民に適切な医療を提供できる体制の構築に努めること。
(2) 地域医療への支援
本県の基幹病院の役割を果たすため、紹介率・逆紹介率を向上する取組みを進めることなどにより、地域の医療機関との連携を一層強化すること。
また、臨床研修指定病院等としての機能を充実し、研修医や専修医の育成を図り、県内への医師の定着に寄与すること。
さらに、県立病院機構に必要な医師の確保及び定着を図る中で、他の医療機関への支援に努めること。
(3) 地域社会への協力
医療従事者の専門的な知識及び技術を保健、医療、福祉、教育等に関係する機関に提供し、人材の育成、講師の派遣、調査、鑑定などの地域社会からの要請に積極的に協力すること。

中期計画	年度計画
<p>4 医療に関する地域への支援 地域医療機関との連携の強化及び機能の分担を図る中で、県立病院機構の機能を活かし、医療に関する地域への支援を行う。</p> <p>(1) 地域医療機関との協力体制の強化 県立中央病院が、他の医療機関との協力のもと、病院と病院との連携や病院と診療所との連携である、いわゆる病病・病診連携を推進し、県全体として県民に適切な医療を提供できる体制を構築するため、地域医療機関の医師との共同利用病床を整備するとともに、紹介率・逆紹介率の向上や登録医制度の普及に努めるなど、医療法（昭和23年法律第205号）第4条に定められた地域医療支援病院の承認に向けた取組を進める。</p>	<p>4 医療に関する地域への支援</p> <p>(1) 地域医療機関との協力体制の強化 県立中央病院が、地域医療支援病院として、患者支援センターを中心に、いわゆる病病・病診連携を推進していく。 また、地域の医療水準向上のため、患者が退院する際には、紹介元の医療機関に加え、身近な「かかりつけ医」に対しても、画像などを添付した診療情報提供書により情報を共有し、地域の医療機関と連携した治療を行う。 連携医療機関検索システムを活用し、連携医への紹介促進及び連携医情報の提供により患者サービスの向上を図る。</p>

業務実績及び法人の自己評価																																														
(26)地域医療機関との協力体制の強化																																														
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																												
<ul style="list-style-type: none"> 紹介状に対する返書作成の推進、連携登録医の訪問、連携登録医を対象とした研修会などを行い、患者支援センターを中心に、地域の医療機関との連携強化を図った。 また、平成27年9月からは、地域の医療水準の向上のため、入院患者をかかりつけ医に紹介する際、診療情報提供書に画像などの情報を添付することを医師に徹底し、病棟看護師などが漏れがないか確認を行った。この結果、情報添付ありの診療情報提供書は、6.4%増加、情報添付なしは、32.6%増加し、診療情報提出書の件数は8.1%増の5,216件となった。 さらに、患者が退院後も安心して生活できるよう、薬剤師、病棟看護師、医師等が協力して、患者のかかりつけ医などの情報の把握に努め、病院とかかりつけ医とが患者の病状を共有できる体制を強化した。 各病棟に入退院支援及び地域連携業務に専従として従事する専任の職員を配置するため、平成30年度2名の正規職員を採用し、9月に「入退院支援加算1」及び「入院時支援加算」を取得した。 中央病院の患者が当院の連携医や近隣医療機関を容易に検索でき、かつ必要な情報を取り出すことができる「かかりつけ医検索システム」を活用し、連携医への紹介促進及び患者サービスの向上を図った。 																																														
<p>連携登録医療機関の状況 (単位:院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23末</th> <th>H24末</th> <th>H25末</th> <th>H26末</th> <th>H27末</th> <th>H28末</th> <th>H29末</th> <th>H30末</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関数</td> <td>173</td> <td>348</td> <td>351</td> <td>435</td> <td>460</td> <td>478</td> <td>466</td> <td>475</td> <td>(1.9%増)</td> </tr> </tbody> </table>				H23末	H24末	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末	H30末		医療機関数	173	348	351	435	460	478	466	475	(1.9%増)																								
	H23末	H24末	H25末	H26末	H27末	H28末	H29末	H30末																																						
医療機関数	173	348	351	435	460	478	466	475	(1.9%増)																																					
<p>診療情報提供書(退院時情報添付)の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報添付あり</td> <td>1,686</td> <td>1,851</td> <td>2,060</td> <td>2,019</td> <td>2,371</td> <td>2,851</td> <td>3,580</td> <td>4,509</td> <td>4,797</td> <td>(6.4%増)</td> </tr> <tr> <td>情報添付なし</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>586</td> <td>392</td> <td>366</td> <td>316</td> <td>419</td> <td>(32.6%増)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,957</td> <td>3,243</td> <td>3,946</td> <td>4,825</td> <td>5,216</td> <td>(8.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※情報添付なしは、集計方法が変更になったためH26から記載</p>				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		情報添付あり	1,686	1,851	2,060	2,019	2,371	2,851	3,580	4,509	4,797	(6.4%増)	情報添付なし	—	—	—	—	586	392	366	316	419	(32.6%増)	計	—	—	—	—	2,957	3,243	3,946	4,825	5,216	(8.1%増)
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																					
情報添付あり	1,686	1,851	2,060	2,019	2,371	2,851	3,580	4,509	4,797	(6.4%増)																																				
情報添付なし	—	—	—	—	586	392	366	316	419	(32.6%増)																																				
計	—	—	—	—	2,957	3,243	3,946	4,825	5,216	(8.1%増)																																				
<ul style="list-style-type: none"> 紹介患者が円滑に受診できるよう、紹介患者専用受付窓口を設置するとともに、総合電話予約センターにおいて、紹介患者の初診電話予約の受付を行った。 紹介率は、前年度と比べて1.7ポイント増の80.9%、逆紹介率は、4.2ポイント増の75.3%となった。 																																														

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																																																																																			
		<p>・ 退院患者のかかりつけ医への紹介率等が基準を満たしたため、平成29年度11月から「総合入院体制加算3」の算定が可能となったが、平成30年度も紹介率・逆紹介率とも前年度を上回った。</p> <p>平均紹介率の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>53.1%</td> <td>54.3%</td> <td>57.4%</td> <td>57.7%</td> <td>62.0%</td> <td>65.7%</td> <td>75.0%</td> <td>79.2%</td> <td>80.9%</td> <td>(1.7ポイント増)</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>34.0%</td> <td>37.4%</td> <td>41.1%</td> <td>42.6%</td> <td>52.0%</td> <td>54.7%</td> <td>63.4%</td> <td>71.1%</td> <td>75.3%</td> <td>(4.2ポイント増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 地域医療を担う連携登録医（かかりつけ医）等の資質向上を図るため、地域連携研修会を開催した。</p> <p>患者支援センター主催研修の開催状況 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table>		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		紹介率	53.1%	54.3%	57.4%	57.7%	62.0%	65.7%	75.0%	79.2%	80.9%	(1.7ポイント増)	逆紹介率	34.0%	37.4%	41.1%	42.6%	52.0%	54.7%	63.4%	71.1%	75.3%	(4.2ポイント増)		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		開催数	0	0	0	3	4	13	14	14	14	(増減なし)																																																																																																																												
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																												
紹介率	53.1%	54.3%	57.4%	57.7%	62.0%	65.7%	75.0%	79.2%	80.9%	(1.7ポイント増)																																																																																																																																																																											
逆紹介率	34.0%	37.4%	41.1%	42.6%	52.0%	54.7%	63.4%	71.1%	75.3%	(4.2ポイント増)																																																																																																																																																																											
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																												
開催数	0	0	0	3	4	13	14	14	14	(増減なし)																																																																																																																																																																											
<p>(2) 地域医療への支援</p> <p>① 医療機器の共同利用 県立中央病院の施設、設備、高度・特殊な医療機器の共同利用などを進める。</p> <p>② 臨床研修医、専修医の受け入れ態勢の強化 県立病院機構の機能を活かした研修プログラムの内容の充実を図るとともに、指導医の育成、資質の向上に積極的に取り組むことで、臨床研修医と専修医を確保し、本県への医師の定着を促進する等地域医療への支援を行う。</p> <p>③ 公的医療機関への支援 県立病院機構の医師の増員を図る中で、公的医療機関への外来診療の協力体制を推進する。</p>	<p>(2) 地域医療への支援</p> <p>① 医療機器の共同利用 他の医療機関等から県立中央病院所有の医療機器による検査等の依頼があった場合は積極的に引き受ける。</p> <p>② 臨床研修医、専修医の受け入れ態勢の強化 臨床研修医と専修医を確保し、本県への医師の定着を促進するため、平成30年度から開始される新専門医制度において、内科、総合診療科、救急科、精神科では基幹施設として、またその他の科では連携施設として、専修医（専攻医）の受け入れを行い、研修を開始する。 また、外科領域においても専門研修プログラムを作成し、基幹施設となるための申請を行う。</p> <p>③ 公的医療機関への支援 県立病院機構の医師の増員を図る中で、地域の公的医療機関を支援するため、当機構の医師を派遣す</p>	<p>(27) 地域医療への支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>B</th> <th>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ CT、MRI、RIの放射線検査機器を活用し、開業医等からの依頼検査を実施した。また、11月からは全身撮影可能な当院の骨密度測定装置の共同利用を開始した。</p> <p>依頼検査の状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>検査数</td> <td>71</td> <td>64</td> <td>111</td> <td>115</td> <td>109</td> <td>112</td> <td>134</td> <td>135</td> <td>150</td> <td>(11.1%増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 本県への医師の定着を促進するため、平成30年度初期臨床研修において、17人の定員で募集を行ったところ、平成31年度総合研修プログラムのマッチ率は100%となった。また、より多くの臨床研修医を確保するため、中央病院の研修医の募集定員を拡大(19人→25人)について準備を進めた(前述P16)。</p> <p>初期臨床研修の募集の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">H27研修</th> <th colspan="2">H28研修</th> <th colspan="2">H29研修</th> <th colspan="2">H30研修</th> <th colspan="2">H31研修</th> </tr> <tr> <th>定員</th> <th>マッチ者</th> <th>定員</th> <th>マッチ者</th> <th>定員</th> <th>マッチ者</th> <th>定員</th> <th>マッチ者</th> <th>定員</th> <th>マッチ者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合研修プログラム</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>富士/東部病院群総合研修プログラム</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>産婦人科重点プログラム</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>小児科重点プログラム</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 県内の地域医療機関に勤務する自治医科大学の卒業生の研修を中央病院で受け入れた。(塩川病院3人、飯富病院1人)。</p> <p>自治医科大学卒業生の研修受け入れ状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>(2人減)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 平成30年度からスタートした新専門医制度において、当機構では、「内科」「救急科」「整形外科」「総合診療科」「外科」「精神科」の6つの領域で基幹施設として専門研修プログラムが承認されている。平成30年度は基幹施設として内科5名、救急科1名、精神科1名、連携施設として内科1名、外科1名、産婦人科2名、精神科1名の計12名の専攻医を採用した。また、平成31年度は、基幹施設として内科2名、外科2名、救急科2名、精神科2名、連携施設として内科2名、整形外科1名、小児科1名、産婦人科1名、皮膚科1名の計14名の専攻医を採用した(前述P16)。</p> <p>H31新規採用専攻医(中央病院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現所属名</th> <th>領域</th> <th>基幹プログラム</th> <th>基幹施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>血液内科</td> <td>内科</td> <td>山梨県立中央病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>消化器内科</td> <td>内科</td> <td>山梨県立中央病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>呼吸器内科</td> <td>内科</td> <td>東京医科歯科大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>呼吸器内科</td> <td>内科</td> <td>山梨大学医学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>救急科</td> <td>救急科</td> <td>山梨県立中央病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>救急科</td> <td>救急科</td> <td>山梨県立中央病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>胃食道外科</td> <td>外科</td> <td>山梨県立中央病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>呼吸器外科</td> <td>外科</td> <td>山梨県立中央病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>整形外科</td> <td>山梨大学医学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>小児科</td> <td>山梨大学医学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>産科</td> <td>産婦人科</td> <td>山梨大学医学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>産科</td> <td>産婦人科</td> <td>山梨大学医学部</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>H31新規採用専攻医(北病院)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現所属名</th> <th>領域</th> <th>基幹プログラム</th> <th>基幹施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科</td> <td>精神科</td> <td>山梨県立北病院</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>精神科</td> <td>精神科</td> <td>山梨県立北病院</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である					H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		検査数	71	64	111	115	109	112	134	135	150	(11.1%増)		H27研修		H28研修		H29研修		H30研修		H31研修		定員	マッチ者	定員	マッチ者	定員	マッチ者	定員	マッチ者	定員	マッチ者	総合研修プログラム	18	13	18	18	18	17	16	14	17	17	富士/東部病院群総合研修プログラム	3	0	3	0	3	0	-	-	-	-	産婦人科重点プログラム	2	0	2	0	2	0	-	-	-	-	小児科重点プログラム	2	1	2	0	2	0	-	-	-	-		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		受入数	0	10	11	9	5	7	6	6	4	(2人減)	現所属名	領域	基幹プログラム	基幹施設	血液内科	内科	山梨県立中央病院	○	消化器内科	内科	山梨県立中央病院	○	呼吸器内科	内科	東京医科歯科大学		呼吸器内科	内科	山梨大学医学部		救急科	救急科	山梨県立中央病院	○	救急科	救急科	山梨県立中央病院	○	胃食道外科	外科	山梨県立中央病院	○	呼吸器外科	外科	山梨県立中央病院	○	整形外科	整形外科	山梨大学医学部		小児科	小児科	山梨大学医学部		産科	産婦人科	山梨大学医学部		産科	産婦人科	山梨大学医学部		現所属名	領域	基幹プログラム	基幹施設	精神科	精神科	山梨県立北病院	○	精神科	精神科	山梨県立北病院	○
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																																																																																																																																																																			
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																												
検査数	71	64	111	115	109	112	134	135	150	(11.1%増)																																																																																																																																																																											
	H27研修		H28研修		H29研修		H30研修		H31研修																																																																																																																																																																												
	定員	マッチ者	定員	マッチ者	定員	マッチ者	定員	マッチ者	定員	マッチ者																																																																																																																																																																											
総合研修プログラム	18	13	18	18	18	17	16	14	17	17																																																																																																																																																																											
富士/東部病院群総合研修プログラム	3	0	3	0	3	0	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
産婦人科重点プログラム	2	0	2	0	2	0	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
小児科重点プログラム	2	1	2	0	2	0	-	-	-	-																																																																																																																																																																											
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																																																																																												
受入数	0	10	11	9	5	7	6	6	4	(2人減)																																																																																																																																																																											
現所属名	領域	基幹プログラム	基幹施設																																																																																																																																																																																		
血液内科	内科	山梨県立中央病院	○																																																																																																																																																																																		
消化器内科	内科	山梨県立中央病院	○																																																																																																																																																																																		
呼吸器内科	内科	東京医科歯科大学																																																																																																																																																																																			
呼吸器内科	内科	山梨大学医学部																																																																																																																																																																																			
救急科	救急科	山梨県立中央病院	○																																																																																																																																																																																		
救急科	救急科	山梨県立中央病院	○																																																																																																																																																																																		
胃食道外科	外科	山梨県立中央病院	○																																																																																																																																																																																		
呼吸器外科	外科	山梨県立中央病院	○																																																																																																																																																																																		
整形外科	整形外科	山梨大学医学部																																																																																																																																																																																			
小児科	小児科	山梨大学医学部																																																																																																																																																																																			
産科	産婦人科	山梨大学医学部																																																																																																																																																																																			
産科	産婦人科	山梨大学医学部																																																																																																																																																																																			
現所属名	領域	基幹プログラム	基幹施設																																																																																																																																																																																		
精神科	精神科	山梨県立北病院	○																																																																																																																																																																																		
精神科	精神科	山梨県立北病院	○																																																																																																																																																																																		

中期計画

- (3) 地域社会への協力
 ①救急救命士の育成
 救命救急センターの機能を活かして、救急救命士の育成に努める。
 ②看護師養成機関等への講師派遣
 看護師養成機関での授業や地域医療機関の医療従事者を対象とした研修会などに対し、講師を派遣する。
 ③公的機関からの鑑定・調査への協力
 公的機関からの医療に関する鑑定や調査について積極的に協力する。

年度計画

- (3) 地域社会への協力
 ①救急救命士の育成
 救命救急センターの機能を活かして、救急救命士の育成に努める。
 ②看護師養成機関等への講師派遣
 看護師養成機関での授業や地域医療機関の医療従事者を対象とした研修会などに対し、講師を派遣する。
 ③公的機関からの鑑定・調査への協力
 公的機関からの医療に関する鑑定や調査について積極的に協力する。

業務実績及び法人の自己評価

(28)地域社会への協力

評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている
----	---	---------------------------

- 救急救命士の育成のため、就業前実習、再教育実習、薬剤投与実習、気管挿管実習などを実施した。

救急救命士の育成の状況 (単位:人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
就業前実習	12	11	15	10	10	10	18	19	18	(5.3%減)
再教育実習	155	158	177	188	205	188	207	207	227	(9.7%増)
薬剤投与実習	16	16	0	0	0	10	18	19	18	(5.3%減)
気管挿管実習	4	5	2	1	1	1	0	1	1	(増減なし)
臨床実習	8	10	8	8	10	6	12	14	10	(28.6%減)
メディカルオフィサー	4	4	4	4	5	8	4	4	4	(増減なし)
計	199	204	206	211	231	223	259	264	278	(5.3%増)

- 県立大学、県立大学大学院、共立高等看護学院、帝京福祉専門学校等に対し職員を講師として派遣した。

県立大学等への講師の派遣状況 (単位:人、回)

		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
県立大学、大学院	人数	6	8	17	17	15	15	22	(46.7%増)
	回数	6	21	31	44	35	22	39	(77.3%増)
看護専門学校	人数	2	2	3	3	4	3	5	(66.7%増)
	回数	2	2	10	9	11	9	6	(33.3%減)
その他	人数	11	19	42	38	39	45	57	(26.7%増)
	回数	17	29	75	62	56	97	96	(1.0%減)
計	人数	19	29	62	58	58	63	84	(33.3%増)
	回数	25	52	116	115	102	128	141	(10.2%増)

- 捜査機関等からの照会に協力した。

照会の状況 (単位:件)

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
中央病院											
警察・検察・裁判所		137	149	179	244	255	227	280	320	254	(20.6%減)
その他機関		20	7	10	14	17	14	14	19	17	(10.5%減)
計		157	156	189	258	272	241	294	339	271	(20.1%減)
北病院											
警察・検察・裁判所		20	21	38	22	20	34	31	63	45	(28.6%減)
その他機関		0	0	0	0	2	0	2	1	1	(増減なし)
計		20	21	38	22	22	34	33	64	46	(28.1%減)

- 警察の扱う検視業務において、死因究明に最も有効である画像診断に協力した。

検体(死体)の放射線撮影の状況 (単位:件)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
撮影数	20	62	63	93	95	90	82	(8.9%減)

- 平成27年10月に始まった医療事故調査制度で、中小病院や診療所では自院だけで調査することは難しいため、医療事故調査等支援団体として、医療事故が起きた医療機関の調査を死亡時画像診断で支援する体制を整備している。制度開始から平成30年度まで支援依頼はなかった。

県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
5 災害時における医療救護

5 災害時における医療救護
災害時における県民の生命・安全を守るため医療救護活動の拠点機能を担うとともに、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。
中期目標
(1) 医療救護活動の拠点機能
日頃から災害等に対する備えに努め、大規模災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。
(2) 他県等の医療救護への協力
他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護活動に協力すること。

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価			
<p>5 災害時における医療救護 県立の病院として、日頃から災害発生時における適切な医療救護活動が実施できるよう訓練するとともに、災害時においては、山梨県地域防災計画（大規模災害時医療救護マニュアル）に基づき、迅速な医療救護活動に取り組む。</p>	<p>5 災害時における医療救護</p>				
<p>(1) 医療救護活動の拠点機能 大規模災害を想定したトリアージ訓練などを定期的に行うとともに、災害発生時には、知事の要請に応じてDMATを派遣するなど、基幹災害拠点病院としての機能を発揮する。</p> <p>(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、知事の要請に応じてDMAT等を派遣するなど、積極的に医療救護活動に協力する。</p>	<p>(1) 医療救護活動の拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害を想定したトリアージ訓練などを行う。 災害発生時には、知事の要請に応じてDMATを派遣するなど、基幹災害拠点病院としての機能を発揮する。 中央病院正面玄関南側スペースの大規模災害時の来院者避難待機場所としての活用について検討する。 <p>(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、知事の要請に応じてDMAT等を派遣するなど、積極的に医療救護活動に協力する。</p>	<p>(29)医療救護活動の拠点機能</p> <table border="1" data-bbox="1516 846 2801 932"> <tr> <td>評価</td> <td>A</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 10月6日に職員、ボランティア約400人による大規模災害時対応訓練を実施した。平成30年度の訓練は、平日の時間外（午前7時30分）に大規模地震が発生したことを想定して実施した。各職員は徒歩で登院することを想定した時間に参集するとともに、学生ボランティアに参加してもらい、シナリオもほとんど設定しないなど、より実践的な内容で実施した。 （参加者）職員（医師、看護師、事務等）約340人、ボランティア 約60人 北病院において、平成30年2月に長野県立こころの医療センター駒ヶ根と災害時等に医療活動を継続し、適切な医療を提供するため①医薬品等の物資の支援、②医師・スタッフ等の派遣、③患者の受入・移送等を行う相互支援協定を締結した。平成30年度からは、両院の担当者間で協定に基づく保有する医療機器の情報共有、災害時の具体的な対応の検討を始めた。 また、平成30年3月には、大規模災害が発生した際、山梨県知事の要請に応じて、被災地域で精神科医療の提供や精神保健活動を行う北病院の精神医療チーム（DPAT）を派遣する協定を山梨県と締結した。平成30年度は、DPAT隊員の研修・演習に医師2人、看護師3人、ロジ6人（臨床心理士2人、事務4人）が参加した。 化学薬品等により汚染された傷病者の迅速な受け入れ、処置を行うため、NBC（核・生物・化学）訓練を実施した。 本年度のDMAT隊員として、医師10人、看護師12人、ロジ6人（薬剤1人、検査1人、リハビリ1人、事務3人）を確保し、様々な防災訓練に参加した。 11月11日 山梨県地震防災訓練（県主催）（於：富士吉田市） 参加者：コントローラーとして、医師1人、看護師2人、ロジ1人を派遣 県内の消防本部で実施している災害訓練にドクターヘリが活用された。 8月25日 山梨県広域医療搬送訓練 10月3日 都留市・大月市・上野原市消防署合同訓練 11月28日 富士五湖消防本部合同訓練 北病院では、本年度のDPAT隊員として、医師2人、看護師3人、臨床心理士2人、ロジ4人（事務4人）を確保し、県の主催する隊員登録に必要な研修に参加した。 9月29日 山梨県災害派遣精神医療チーム（DPAT）研修（県主催） 	評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている			

業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 医療環境の変化に対応できる運営体制の構築

中期目標 1 医療環境の変化に対応できる運営体制の構築

県立病院機構に求められる医療を確実に提供するため、医療を取り巻く環境の変化に的確に対応できる運営体制を構築すること。

中期計画	年度計画
<p>1 医療環境の変化に対応できる運営体制の構築</p> <p>医療ニーズの多様化、高度化、患者動向など、医療を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、職員を機動的に配置するとともに、医療及び病院経営に関する情報を分析し、その分析結果を活用することで、医療環境の変化に対応できる運営体制の構築に努める。</p>	<p>1 医療環境の変化に対応できる運営体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療を取り巻く環境の変化に柔軟に対応するため、職員の機動的配置に努める。 医療及び病院経営に関する情報を分析し、その分析結果を活用することで、医療環境の変化に対応できる運営体制の構築に努める。 県民に質の高いがんゲノム医療を提供するため、平成30年度から始まるがんゲノム医療連携病院の指定に向けた体制を整備する（再掲）。 また、がんゲノム医療連携病院では、臨床検査を適切に実施するために第三者認定を受けることが望ましいとされていることから、検体検査及び病理検査について、ISO15189（臨床検査室の認定）取得のための準備に着手する。 平成29年度に設置した、肝胆膵・消化器病センター及び循環器病センターにおいて、内科と外科が一体となった治療を実施する（再掲）。 がん及び感染症に関する遺伝子検査を迅速かつ低廉に実施するため、検査部の中にゲノム検査科を設置する（再掲）。 中長期の医療需要を見極め、中央病院、北病院が提供すべき医療について調査・研究を進め、長期の課題は次期中期計画に反映させる。 <p>（中央病院検討事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> 手術支援ロボット拡大を見据えた手術室の環境整備 外来機能の拡充 ハイブリット手術室の整備 AIを活用した医療の提供 放射線機器の導入 <p>（北病院検討事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物再整備 内科診療（身体合併症診療）

業務実績及び法人の自己評価

(30)医療環境の変化に対応できる運営体制の構築

評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている
----	---	---------------------------

診療報酬の迅速かつ適正な算定を行うため、平成31年度は診療報酬担当9名、DPC担当22名、診療情報管理担当9名、DC（医療事務補助業務（診断書作成））担当28名体制で業務に取り組むこととした。

		H26.4	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4
診療報酬担当	正規職員	6	7	6	5	5	5
	臨時職員	8	6	3	5	4	4
	小計	14	13	9	10	9	9
DPC担当	正規職員	—	—	2	3	5	5
	臨時職員	—	—	19	22	17	17
	小計	—	—	21	25	22	22
診療情報管理担当	正規職員	1	1	1	1	1	1
	臨時職員	15	13	15	21	8	8
	小計	16	14	16	22	9	9
DC担当	正規職員	—	—	—	—	1	1
	臨時職員	—	—	—	—	23	27
	小計	—	—	—	—	24	28
合計		30	33	46	58	64	68 (4人増)

※VT(保険診療適正化タスクフォース)
※H30.4より、診療情報管理担当は診療情報管理担当とDC担当に別れた

中央病院の「病院会議」、北病院の「院内連絡会議」において、病院全体の情報交換や意見交換、共通認識の醸成を行い、各科の入院、外来の稼働額を前年同期と比較図示化し、前年同月の稼働減額の科については、その要因を探り、対策を立てることにより、医療環境の変化に対応できる運営体制の構築に努めた。

【中央病院】

会議名 病院会議（月1回 開催）
構成メンバー 理事長、院長、副院長、院長補佐、事務局長、医療局長、看護局長、統括部長、部長、副部长、主任看護師長、技師長、事務局課長及び担当リーダー等
定員 148人
内容 病院の医療提供状況、経営状況等の周知、経営分析や経営改善に向けた協議、研究発表等

【北病院】

会議名 院内連絡会議（月1回 開催）
構成メンバー 院長、副院長、事務局長、社会生活支援部長、医療部長、看護部長、副看護部長、薬剤師長、栄養士長、主任臨床検査技師、医療安全管理者、社会生活支援部各室長及び担当リーダー、事務局課長及び担当リーダー等
定員 26人
内容 病院に関する諸問題について、課題の検討、経営分析や経営改善に向けた協議、各セクションからの状況報告等

中央病院の「病院会議」には第2部を設けており、各診療科の診療内容、治療成績、最近のトピック、今後の展望など各科の特色の相互理解を深め、かつ、今後の医療に関する調査・研究課題を探索した。

発表者	内容
5月 新採用研修医	新採用研修医紹介
6月 新採用職員(研修医除く)	新採用職員紹介
7月 肺がん・呼吸器病センター	肺がん呼吸器病センター
8月 肝胆膵・消化器病センター	肝がん内視鏡治療の現状と今後について
9月 救命救急センター	救命救急センター
10月 ゲノム診療センター	ゲノム診療センター
11月 周産期遺伝子診療センター	当院における周産期遺伝診療の現状
12月 総合診療・感染症センター	総合診療・感染症センター
1月 通院型がんセンター	通院加療がんセンターの現状と今後の課題
2月 患者支援センター	患者支援センター
3月 二年度研修医(20名)	20名の研修医が研修成果を発表

- 中央病院の「病院会議」において各部署の優れた取り組みを発表させ、業務改善の重要性について病院全体への意識付けを図った。

業務改善の取り組み発表の内容
発表者

発表者	内容
5月	—
6月	薬剤部 がん治療における薬剤部の役割と取り組み
7月	企画経理課調度担当 検体検査に係る支出概観
8月	5B病棟 働き方改革の一助として DCさんとの連携
9月	医事課 メディカルコードの導入と活用
10月	医事課DPC担当 さらなる高機能病院に向けてDPCの観点から
11月	企画経理課情報システム担当 情報システム担当の業務紹介
12月	7A病棟 パス短縮・適応率向上への取り組み
1月	企画経理課施設管理担当 光熱水費削減の取り組み
2月	医事課診療報酬担当 患者未収金削減への取り組み
3月	—

- 中央病院での勤務経験が短く、病院会議に出席機会のない若手医師を対象に、病院の現状や課題をコンパクトに説明する、「プレ病院会議」を開催した。
- 平成29年5月からから遺伝子外来を開設し、乳がん・卵巣がんの領域において、将来のがん発症リスクの高い患者の判定を行い、カウンセリング検診の回数を増やすことの指導などを行った。
平成30年度の組織改正において、外注していた遺伝子検査を院内で迅速処理するため、検査部にゲノム検査科を設置した（前述P9）。
- 平成31年2月に東京大学医学部附属病院のがんゲノム医療連携病院として先進医療B「遺伝子パネル検査」の実施医療機関に指定された。また、平成31年度から指定がはじまる「がんゲノム医療拠点病院」の指定を目指し、引き続きがんゲノム医療を推進していく（前述P9）。
- 肺がん・呼吸器病センター及び肝胆膵・消化器病センターにおいて、内科系と外科系が連携して高度で専門的な医療を提供した（前述P9）。
- 検体検査、病理検査及びゲノム検査について、ISO15189（臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項に関する国際規格）認定のための審査の受審に向けた準備を推進するとともに、大型検査機器を最新の機種に更新するための準備を進めた。

業務運営の改善及び効率化に関する事項
2 効率的な業務運営の実現

中期目標
2 効率的な業務運営の実現
県立病院機構が有する人的、物的資源の有効活用や業務の見直しを行い、効率的な業務運営の実現を図ること。

中期計画	年度計画
<p>2 効率的な業務運営の実現 委託業務の適正化の検討や職員のプロパー化等による簡素で効率的な運営体制を構築し、全職員が一丸となって、医療サービスの向上と経営改善に取り組む。</p>	<p>2 効率的な業務運営の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な外部委託を継続するため、業務内容の課題発見や改善を随時行うよう努める。 医療ニーズの多様化・高度化、患者動向などを踏まえ、必要に応じて職員を採用するとともに、法人内における弾力的な配置を進める。 器械備品の保守料を削減するため、器械備品の更新、増設時に備品購入費だけでなく保守料を含めたトータルの費用により入札を実施する。

業務実績及び法人の自己評価																																																																																																																
(31)効率的な業務運営の実現																																																																																																																
評価	A 当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																																																																															
<ul style="list-style-type: none"> 契約更新の際には、契約方法、契約内容の見直しを行い、委託業務の適正化に努めている。平成28年度から、適正な外部委託とするため、情報システムの保守、病棟クラーク業務の内製化を行い、業務の効率化を図った。また、医師事務作業補助者については計画的な採用を行っており、平成30年10月からは医師事務作業補助体制加算（2.5対1）が取得できた。 医療機器等の保守に関する委託契約については、作業員の人工数、交換部品等について業務日誌等を詳細に分析し、契約内容の妥当性について検討するとともに、以後の契約に反映させるよう取り組んだ。 器械備品の保守料を削減するため、平成29年度から1,000万円以上の器械備品を更新、増設する際には、備品購入費だけでなく保守料を含めたトータルの費用により入札を実施した。また、平成30年度からは1,000万円以下の器械備品にも対象を拡大し、5件の入札を実施した。 中央病院で実施した、「検査部生化学・免疫等検査機器導入及び保守業務」「移動式X線透視診断装置導入及び保守業務」及び「情報系システムの導入及び保守業務」の業者選定において、従来実施していた競争入札ではなく、企画提案型のプロポーザル方式を採用した。 医療機器等の保守料を削減するため、これまで機器ごとに保守契約を締結していた放射線機器等について、一括して保守契約を締結することとした。 年度途中に看護師、医師事務補助者等の採用を行い、必要な部門に弾力的に配置した。 																																																																																																																
<p>看護師(正規職員)の中途採用の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td></td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>2</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	7月		5	3	2	2	3	5	2	2	8月	2	3					1		1	9月									1	10月	2			5		2				11月					2		1			12月				1						1月		2	4							計	4	10	7	8	4	5	7	2	4																					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																							
7月		5	3	2	2	3	5	2	2																																																																																																							
8月	2	3					1		1																																																																																																							
9月									1																																																																																																							
10月	2			5		2																																																																																																										
11月					2		1																																																																																																									
12月				1																																																																																																												
1月		2	4																																																																																																													
計	4	10	7	8	4	5	7	2	4																																																																																																							
<p>医療事務職員の状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>H26.4</th> <th>H27.4</th> <th>H28.4</th> <th>H29.4</th> <th>H30.4</th> <th>H31.4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">診療報酬担当</td> <td>正規職員</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>VT</td> <td>—</td> <td>6</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>14</td> <td>19</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">DPC担当</td> <td>正規職員</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">診療情報管理担当</td> <td>正規職員</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>16</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>22</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">DC担当</td> <td>正規職員</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>23</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>24</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>30</td> <td>33</td> <td>46</td> <td>58</td> <td>64</td> <td>68 (4人増)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※VT(保険診療適正化タスクフォース) ※H30.4より、診療情報管理担当は診療情報管理担当とDC担当に別れた</p>				H26.4	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4	診療報酬担当	正規職員	6	7	6	5	5	5	臨時職員	8	6	3	5	4	4	VT	—	6	—	—	—	—	小計	14	19	9	10	9	9	DPC担当	正規職員	—	—	2	3	5	5	臨時職員	—	—	19	22	17	17	小計	—	—	21	25	22	22	診療情報管理担当	正規職員	1	1	1	1	1	1	臨時職員	15	13	15	21	8	8	小計	16	14	16	22	9	9	DC担当	正規職員	—	—	—	—	1	1	臨時職員	—	—	—	—	23	27	小計	—	—	—	—	24	28	合計		30	33	46	58	64	68 (4人増)
		H26.4	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4																																																																																																									
診療報酬担当	正規職員	6	7	6	5	5	5																																																																																																									
	臨時職員	8	6	3	5	4	4																																																																																																									
	VT	—	6	—	—	—	—																																																																																																									
	小計	14	19	9	10	9	9																																																																																																									
DPC担当	正規職員	—	—	2	3	5	5																																																																																																									
	臨時職員	—	—	19	22	17	17																																																																																																									
	小計	—	—	21	25	22	22																																																																																																									
診療情報管理担当	正規職員	1	1	1	1	1	1																																																																																																									
	臨時職員	15	13	15	21	8	8																																																																																																									
	小計	16	14	16	22	9	9																																																																																																									
DC担当	正規職員	—	—	—	—	1	1																																																																																																									
	臨時職員	—	—	—	—	23	27																																																																																																									
	小計	—	—	—	—	24	28																																																																																																									
合計		30	33	46	58	64	68 (4人増)																																																																																																									

業務運営の改善及び効率化に関する事項
3 経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減

中期目標
3 経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減
質の高い医療を提供するため、診療報酬改定への適切な対応や料金の定期的な見直しなど、経営基盤を安定化するための収入の確保に努めるとともに、業務運営の改善及び効率化を検討する中で、費用の節減に努めること。

中期計画	年度計画
<p>3 経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減</p> <p>(1) 診療報酬請求の事務の強化 診療報酬事務職員の専門研修の実施やプロパー化等により、診療報酬部門の強化を図り、診療報酬改定に迅速かつ適切に対応することができる人員体制や院内の連携体制を構築するとともに、レセプト請求の迅速化及び減点防止を徹底するなど診療報酬請求事務の強化を図る。</p> <p>(2) 料金収入の見直し 診療報酬基準以外の料金については、新規需要等を的確に捉え、随時適正な料金の設定を図る。</p> <p>(3) 未収金対策 患者負担金に係る未収金については、定期的な請求・督促をはじめ、未収金の発生を防止するとともに、回収業務の専門家の活用など、早期回収に努める。</p> <p>(4) 材料費の適正化 後発医薬品の採用を推進するとともに、診療材料の購入にあたりその費用対効果を十分に検証するなど、材料費の適正化に努める。</p>	<p>3 経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減</p> <p>(1) 診療報酬請求の事務の強化 ・ 診療報酬事務職員の専門研修の実施やプロパー化等により、診療報酬部門の強化を図る。 ・ 診療報酬改定に迅速かつ適切に対応することができる人員体制や院内の連携体制を構築する。 ・ レセプト請求の迅速化や減点を防止するために導入したレセプトチェックシステムを有効に活用することにより、さらなる請求事務の適正化を図る。</p> <p>(2) 料金収入の見直し 診療報酬基準以外の料金について、新規需要等を的確に捉え、随時適正な料金の設定を図る。</p> <p>(3) 未収金対策 患者負担金に係る未収金については、定期的な請求・督促をはじめ、未収金の発生を防止するとともに、回収業務の専門家の活用など、早期回収に努める。</p> <p>(4) 材料費の適正化 ・ 材料の新規採用にあたり、院内の関係者で構成される院内委員会により効能・効果等の必要性及びコストを比較し、適正な選択を行う。また、後発医薬品の採用、同種同等品への切替等による材料費の適正化に努めるとともに、共同購入を行う選定品を追加し、さらなるコスト削減に取り組む。 ・ 競争入札を実施し、電気料金の削減を図る。</p>

業務実績及び法人の自己評価

(32)経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

診療報酬の迅速かつ適正な算定を行うため、柔軟な人員配置などにより、診療報酬請求体制の強化を図った。また、診療報酬適正化に向け平成28年度に新設されたDPC担当は、病棟クラーク業務及び医師等に対して、診療報酬制度の周知・啓発に努めた。

診療報酬・DPC担当職員の状況 (単位:人)

		H26.4	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4
診療報酬担当	正規職員	6	7	6	5	5	5
	臨時職員	8	6	3	5	4	4
	小計	14	19	9	10	9	9
DPC担当	正規職員	—	—	2	3	5	5
	臨時職員	—	—	19	22	17	17
	小計	—	—	21	25	22	22
合計		14	19	30	36	31	31 (増減なし)

患者サービスの向上と未収金対策として、土曜日、日曜日などの休日に退院する患者に対して、退院までに請求を行う即日請求の取り組みを実施した。また、病棟ごとの即日請求率を病院会議で明示するなど、職員への啓発を図った。

退院患者の即日請求率

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
即日請求率	42.8%	47.4%	52.6%	55.6%	67.5%	64.1%	63.5% (0.6ポイント減)

未収患者に対する初期対応を強化するため、平成27年6月から納入通知書及び督促状を早期に送付している。また、入院申込時に未収金がある患者に対しては、面談により支払い方法等の確認を実施するとともに、発生から3ヵ月経過時の督促にもかかわらず、納付のない者へは連帯保証人への請求も開始するなど、徴収方法の強化を図った。

患者負担金未納状況(入院+外来) (単位:万円)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
中央病院									
未収金	45,428	51,170	50,553	45,863	41,580	43,006	33,828	33,367	32,328 (3.1%減)

発生から1年以上の債権については、弁護士事務所に回収を委託した。

未収患者への請求状況

	平成27年5月以前	平成27年6月以降	平成28年9月以降
納入通知書 1回	月末〆~1週間内	半月〆~1週間内	半月〆~1週間内
納入通知書 2回	—	—	2ヵ月後
督促状 1回	6(~8)ヵ月後	3(~5)ヵ月後	4(~5)ヵ月後
督促状 2回	9(~11)ヵ月後	6(~8)ヵ月後	6(~7)ヵ月後
督促状 3回	11(~13)ヵ月後	11(~13)ヵ月後	9(~12)ヵ月後

弁護士への未収金回収委託の状況 (単位:万円)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
中央病院									
委託債権	22,284	29,259	31,302	24,762	28,450	33,021	34,679	38,254	39,695 (3.8%増)
回収金額	778	962	85	2,377	2,390	2,032	1,044	1,789	766 (57.2%減)
回収率	3.5%	3.3%	0.3%	9.6%	8.4%	6.2%	3.0%	4.7%	1.9% (2.8ポイント減)

北病院

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
委託債権	—	—	—	—	1,429	1,486	1,628	1,726	1,920 (11.2%増)
回収金額	—	—	—	—	54	101	100	152	84 (44.7%減)
回収率	—	—	—	—	3.8%	6.8%	6.1%	8.8%	4.4% (4.4ポイント減)

・未収金対策及び連帯保証人の確保が困難な患者への選択肢として、一定の役割・需要があるため、「連帯保証人代行制度」を活用した。

・休日に退院する患者や県外の患者の利便性を高めるため、コンビニエンスストアで24時間支払うことができる「コンビニ収納」を継続して実施した。

コンビニ収納金額

	H27	H28	H29	H30	
件数(件)	872	2,669	3,451	3,236	(6.2%減)
金額(万円)	1,940	4,745	5,354	5,503	(2.8%増)

・診療材料のベンチマークシステムを活用し、当院が市場価格よりも高く購入している材料を抽出し、平均価格での納入を求め卸業者と交渉し、約930万円の削減を図った。

・材料を新規採用する際には、委員会において、必要性や収益性を競合品等と比較検討した上で決定した。特に、償還価格との差を明確にした資料を作成するなど、判断が容易になるよう工夫した。

材料の新規採用の状況

(単位:件)

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
診療材料	申請	221	249	222	168	216	189	145	105	116	(10.5%増)
	採用	200	229	206	164	185	145	112	97	41	(57.7%減)
薬品	申請	92	92	82	65	102	93	118	121	128	(5.8%増)
	採用	89	83	61	51	88	78	103	98	119	(21.4%増)

・中央病院において、共同購入組織である日本ホスピタルアライアンスに平成28年4月から加盟し、汎用医療材料などの7分野の購入事業に参加した。9分野の共同購入に参加し、前年度に比べ30,205千円増の80,623千円と大幅な経費削減を図ることができた。

共同購入による経費削減効果

(単位:千円)

	汎用 医療材料	手術室 関連	ME透析	医薬品	事務管理	循環器 虚血	循環器 不整脈	眼科	整形外科	合計
H28	7,439	378	311	367	23	-	6,426	-	3,745	18,689
H29	24,395	1,633	11,449	1,884	290	2,184	5,128	674	2,781	50,418
H30	32,104	3,753	26,242	1,397	344	3,670	9,598	247	3,268	80,623
計	63,938	5,764	38,002	3,648	657	5,854	21,152	921	9,794	149,730

・薬品については、ベンチマークや自治体病院の全国平均値引率等を参考に、契約業者ごとの割引目標額を設定し価格交渉を行った。また、全国自治体病院協議会が主催する価格交渉研修会に担当者が積極的に参加した。

薬品値引率の状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
当院	11.0%	14.7%	12.6%	14.0%	14.5%	14.2%	14.2%	15.1%	13.7%	(1.4ポイント減)
自治体病院平均	12.0%	13.2%	11.6%	12.5%	13.9%	14.6%	14.1%	14.6%		

※自治体病院平均は毎年度7月下旬に公表される

・後発医薬品採用数は、前年度と比べて7.3%増の661品目、後発医薬品購入割合は、0.27ポイント増の10.52%となった。また、DPCの機能評価係数Ⅱの評価項目である後発医薬品係数は、平成30年度診療報酬改定で廃止となったが「後発医薬品使用体制加算」の算定に応じて、機能評価係数Ⅰにおいて評価対象となった。

中央病院は、入院外来合わせて後発品使用割合が85%以上(96.9%)であるため、後発医薬品使用体制加算の中で最も得点の高い「1.45点」の算定が可能となり、機能係数Ⅰにおいて0.0014の評価対象となった。

後発医薬品の状況(品目ベースでの比較)

(単位:品目)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
増加数	15	30	16	4	72	245	55	93	45	(51.6%減)
後発医薬品採用数	116	146	162	166	238	483	538	616	661	(7.3%増)
後発医薬品係数	-	-	29.6%	30.8%	62.2%	85.1%	93.1%	94.4%	96.9%	(2.5ポイント増)

*準先発薬(昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品)を含む。

医薬品及び後発品購入推移(金額ベースでの比較)

(単位:億円)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
医薬品購入額	24	23	25	26	28	32	35	38	40	(5.3%増)
後発品購入額	0.9	1.1	1.6	1.8	2	2.8	4.0	3.9	4.2	(7.7%増)
後発品購入割合	3.69%	5.07%	6.58%	6.80%	7.11%	8.82%	11.56%	10.25%	10.52%	(0.27ポイント増)

※ソバルディ・ハーボニー除く

業務運営の改善及び効率化に関する事項
4 事務部門の専門性の向上

中期目標
4 事務部門の専門性の向上
県立病院機構が行う業務に必要な法令、会計、診療報酬体系等に精通した事務職員を育成し、事務部門の専門性を向上させることにより、県立病院機構の運営が円滑に行われるよう努めること。

中期計画	年度計画
<p>4 事務部門の専門性の向上 医療事務に精通したプロパー職員の採用や事務職員に必要な知識の習得のための研修の実施など、県立病院機構が行う業務に必要な法令、会計、診療報酬体系等に精通した事務職員の育成に努める。</p>	<p>4 事務部門の専門性の向上 医療事務に精通したプロパー職員の採用や事務職員に必要な知識の習得のための研修の実施など、県立病院機構が行う業務に必要な法令、会計、診療報酬体系等に精通した事務職員の育成に努める。</p>

業務実績及び法人の自己評価																																																			
(33)事務部門の専門性の向上																																																			
評価	A 当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている																																																		
<ul style="list-style-type: none"> 今後の病院経営管理部門の職員を計画的に育成するため、平成30年度においても病院機構事務職員採用試験を実施し、平成31年4月1日付けで事務職5人を採用した。 平成30年度は事務職員1人のプロパー化を行った。 																																																			
<p>事務職員の採用状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務職員採用数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>(うちプロパー化)</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>(プロパー職員総数)</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>21</td> <td>26</td> <td>29</td> <td>34</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(参考)事務職員総数</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>39</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>50</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	合計	事務職員採用数	2	3	9	3	7	5	5	5	39	(うちプロパー化)	2	2	2	2	1	1	1	1	12	(プロパー職員総数)	4	6	13	16	21	26	29	34	—	(参考)事務職員総数	35	35	39	41	44	46	48	50	—
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	合計																																										
事務職員採用数	2	3	9	3	7	5	5	5	39																																										
(うちプロパー化)	2	2	2	2	1	1	1	1	12																																										
(プロパー職員総数)	4	6	13	16	21	26	29	34	—																																										
(参考)事務職員総数	35	35	39	41	44	46	48	50	—																																										
<ul style="list-style-type: none"> 4月の新規採用職員研修において、診療報酬等に係る研修を実施するとともに、事務職員を対象に簿記研修を実施した。また、機構のプロパー職員として必要な知識を習得できるよう、職種横断的な研修を実施した。 DPC業務の強化を図るため、平成30年度から新たに2名の事務プロパー職員を加え、合計3名のプロパー職員を配置した。 病院事務に精通した事務職員を育成するため、全国の病院の各部門における先進事例の発表の場である「全国自治体病院学会」、「日本病院学会」及び「日本医療マネジメント学会学術総会」に総務課、企画経理課、医事課のプロパー職員を派遣した。 全国自治体病院学会が主催する「診療報酬管理研修会」「DPCデータ分析事務無研修会」「薬の値引交渉術勉強会」「診療材料購入管理研修会」等の多くの研修会を関係するプロパー職員が受講した。 当院が抱える事務部門の課題を解決するため、担当プロパー職員が全国の病院を視察し、先進事例を直接学ぶことで自身の知見を深めた。 																																																			
<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神科身体合併症病棟整備に係る視察 (企画経理課施設管理担当、情報システム担当) 手術室関連器械備品に係る視察 (企画経理課調度担当) 図書室リニューアルに係る視察 (企画経理課調度担当) 医事課業務資質向上に係る視察 (医事課全担当) 																																																			

業務運営の改善及び効率化に関する事項
5 職員の経営参画意識の向上

中期目標
5 職員の経営参画意識の向上
職員が、定款に定められた目的、中期目標、中期計画等に掲げる取り組みを共有し、責任感や使命感を持って病院経営に積極的に参画するとともに、職員が協力し、業務改善を推進する体制を構築すること。

中期計画	年度計画
<p>5 職員の経営参画意識の向上</p> <p>(1) 経営関係情報等の周知 医療及び病院経営に関する情報を分析し、その分析結果をわかりやすく職員に周知し、職員の経営参画意識を高める。</p> <p>(2) 取組の共有化 中期計画等に掲げる取組について、病院全体で共通認識をしたうえ、その取組状況の共有を図る。</p> <p>(3) 職員提案の奨励 職員の病院経営に対する参画意識や目標達成に向けた意欲を高めるため、職員提案を奨励し、提案された内容について、真摯に検討をしていく。</p>	<p>5 職員の経営参画意識の向上</p> <p>(1) 経営関係情報の周知 メディカルコード等の活用により医療及び病院経営に関する情報を分析し、その分析結果をわかりやすく職員に周知し、職員の経営参画意識を高める。また、診療報酬上の加算について、導入、拡大できる項目の分析を進め、その可否について検討を行う。</p> <p>(2) 取組の共有化 中期計画等に掲げる取組について、病院全体で共通認識をしたうえ、その取組状況の共有を図る。</p> <p>(3) 職員提案の奨励 職員の病院経営に対する参画意識や目標達成に向けた意欲を高めるため、職員提案を奨励し、提案された内容の実現について、真摯に検討をしていく。</p>

業務実績及び法人の自己評価

(34)職員の経営参画意識の向上		
評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている

- 中央病院の「病院会議」、北病院の「院内連絡会議」において、病院全体の情報交換や意見交換、共通認識の醸成を行い、各科の入院、外来の稼働額を前年同期と比較図示化し、前年同月に比べ稼働額が減った診療科については、その要因を探り、対策を立てることにより、職員の経営参画意識を高めた。また、この両病院の会議で、中期計画等について説明し共通認識を持って日々の業務に取り組んだ。
- 管理料、指導料の取り漏れを減らすため、入院費の計算方法のうち包括評価方式（DPC）ではない出来高算定部分の検証を行うことができるソフト「メディカルコード」を活用し、薬剤管理指導料算定率向上に向けた多職種による取り組みを行った。その結果、薬剤管理指導料は前年度に比べ約600万円の増収となった。
- 職員が病院経営について自由に提案する職員提案の募集を行った。平成26年度からは、プロジェクト“KAIZEN”とプロジェクト“坂の上の雲”の2部門で募集を行っている。平成30年度は46件の提案があった。

職員提案の状況 (単位:件)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
提案数	43	39	30	18	86	28	44	23	46	(100.0%増)
表彰数	4	6	3	2	8	4	3	3	3	(増減なし)
実現数	2	4	3	0	2	—	2	1	—	

※実現数は、各年度の表彰数のうち、H30年度末までに実現した数

- 平成29年度新設した通年型の職員提案制度を継続して実施し、患者サービスの向上、事故防止、事務の合理化等に関する意見の募集を行った。

業務運営の改善及び効率化に関する事項
6 職場環境の整備

中期目標
6 職場環境の整備
医療従事者の配置及び勤務状況を把握するとともに、多様な勤務形態の検討を行い、必要な措置を講じるとともに、医療従事者が安心して働くことができるよう、仕事と生活の調和の取れた職場環境を整備すること。

中期計画	年度計画
<p>6 職場環境の整備</p> <p>(1) 働きやすい職場環境の整備 各現場における医療従事者の配置及び勤務状況を把握するとともに、医療従事者が安心して働くことができるよう、仕事と生活の調和の取れた職場環境の整備に努める。</p> <p>(2) 資格取得を含む研修の充実 病院職員の職務能力の高度・専門化を図るため、資格取得を含む研修を充実する。</p> <p>(3) 公平で客観的な人事評価システムの導入</p>	<p>6 職場環境の整備</p> <p>(1) 働きやすい職場環境の整備 ・ 働きやすい職場環境の実現に向け、各現場における職員の感想や意見をよりの確に把握するため、職員満足度調査を実施する。 ・ 労働安全衛生法に基づくストレスチェックを実施するとともに、職員の働きやすい職場環境の整備に努める。 ・ 救急科医師の勤務環境を改善するため、交代制勤務制度を導入する。また、増え続ける二次救患者に対応するため、二次救急当番日の負担軽減について、県及び他の医療機関との協議会の場で働きかけを行っていく。 ・ 職員の心身の健康を維持するため、夏季休暇を取得可能な期間を拡大し、休暇を取得しやすい環境を整備する。</p> <p>(2) 資格取得を含む研修の充実 病院職員の職務能力の高度・専門化を図るため、資格取得を含む研修を充実する。 また、医療技術職員等の技術向上を図るため、国内職員相互研修制度を積極的に活用する。</p> <p>(3) 公平で客観的な人事評価システムの導入 簡素で公平な人事評価制度を活用し、業績や能力を給与に反映させるとともに、職員の人材育成及び人事管理を行っていく。</p>

業務実績及び法人の自己評価

(35)職場環境の整備

評価	A	当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている
----	---	---------------------------

9月に病院機構職員1,320人に対して、職員満足度調査を実施した。前年度と比べて1.4ポイント増の78.1%の職員から回答があり、4分野66項目で5段階評価を行った結果、平均の評価点は3.76となり、前年度とほぼ同様の評価点であった。

職員満足度調査の状況

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
回答率	59.7%	78.7%	79.1%	75.7%	72.8%	80.9%	76.7%	78.1%	(1.4ポイント増)
評価点(平均)	3.62	3.77	3.79	3.79	3.79	3.76	3.75	3.76	(0.01ポイント増)

10月に中央病院の看護師510人、北病院の看護師110人を対象として、満足度調査を実施した。中央病院では13分野63項目、北病院では17分野119項目で5段階評価を行った結果、平均の評価点は、中央病院3.81、北病院3.87となった。

看護師職員満足度調査の状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
中央病院 回答率	95.6%	97.6%	99.4%	98.4%	98.3%	97.4%	98.4%	99.8%	99.1%	(0.7ポイント減)
中央病院 評価点(平均)	3.63	3.86	3.85	3.88	3.88	3.86	3.78	3.75	3.81	(0.06ポイント増)
北病院 回答率	—	97.8%	95.6%	100.0%	100.0%	98.2%	97.0%	90.4%	100.0%	(9.6ポイント増)
北病院 評価点(平均)	—	3.51	3.50	3.63	3.66	3.82	3.90	3.95	3.87	(0.08ポイント減)

看護職をはじめとするシフト制で業務に従事する医療職員が安心して職務に専念できるよう、院内託児所及び病児・病後児保育室を設置している。

院内託児所及び病児・病後児保育利用者数 (単位:人)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
通常保育	27	40	49	61	55	77
一時保育	38	30	28	30	33	59
計	65	70	77	91	88	136
病児・病後児保育	—	—	—	—	29	108

※ 病児・病後児保育利用者は延べ人数

職員の心身の健康を維持するため、平成31年4月から中央病院に「健康管理室」を新設し、専従の保健師を配置することとした。

労働安全衛生法に基づくストレスチェックを年1回実施し、高ストレスと評価された職員から申し出があった場合には、医師が面談指導する体制を整えた。

労働安全委員会を毎月開催し、職員の時間外勤務の状況や勤務体制・環境の改善に向けた取り組み等について検討した。

高度化する手術環境に対応するため、また、緊急手術など増加する手術ニーズに対応するため、平成31年1月から中央手術室の看護職員を増員し、看護体制をオンコール制から二交代制に変更した(前述P10)。

職員のワークライフバランスの推進と働きやすさ向上ため、平成30年度夏季休暇の取得可能な期間を2か月拡大したが、平成31年度はさらに2か月拡大し5月～11月に取得可能とした。

職員の能力や業務の実績を適切に評価し、その結果を人材育成や人事管理、給与等の基礎資料として活用するため、人事評価制度の運用を開始した。

北病院では看護職員の働く環境の改善を図るため、2交代勤務を平成29年11月から5か月間の試行期間を経て、平成30年度から完全実施とした。

中期目標の各期間における経常利益については、安定的な水準を維持し、経営基盤の安定化に努めると。

中期計画

第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」を着実に実施することにより、経営基盤の安定化を図り、中期目標期間内の累計の経常収支を黒字とする。

1 予算（平成27年度～平成31年度）

(単位:百万円)

区分	金額
収入	
営業収益	111,461
医業収益	92,999
運営費負担金	17,154
その他営業収益	1,308
営業外収益	2,081
運営費負担金	1,171
その他営業外収益	910
資本収入	5,576
運営費負担金	0
長期借入金	5,576
その他資本収入	0
その他の収入	0
計	119,118
支出	
営業費用	95,713
医業費用	94,870
給与費	45,352
材料費	31,144
経費	17,838
研究研修費	536
一般管理費	843
営業外費用	1,701
資本支出	23,879
建設改良費	9,809
償還金	14,070
その他の支出	0
計	121,293

【人件費の見積り】

期間中総額46,015百万円を支出する。

なお、当該金額は、法人の役職員に係る報酬、基本給、諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

【運営費負担金のルール】

救急医療等の政策医療経費については、地方独立行政法人法第85条第1項の規定により算定された額とする。

長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金は、経常費助成のための運営費負担金とする。

年度計画

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（平成30年度）

(単位:百万円)

区分	金額
収入	
営業収益	26,784
医業収益	22,969
運営費負担金	3,487
その他営業収益	328
営業外収益	339
運営費負担金	145
その他営業外収益	194
資本収入	762
運営費負担金	0
長期借入金	762
その他資本収入	0
その他の収入	0
計	27,885
支出	
営業費用	22,995
医業費用	22,885
給与費	10,573
材料費	8,539
経費	3,620
研究研修費	153
一般管理費	110
営業外費用	228
資本支出	4,601
建設改良費	1,641
償還金	2,960
その他の支出	0
計	27,824

【人件費の見積り】

期間中総額10,647百万円を支出する。

なお、当該金額は、法人の役職員に係る報酬、基本給、諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

【運営費負担金のルール】

救急医療等の政策医療経費については、地方独立行政法人法第85条第1項の規定により算定された額とする。

長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金は、経常費助成のための運営費負担金とする。

業務実績及び法人の自己評価

(36)予算、収支計画及び資金計画、短期借入金の限度額

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている
----	---	-----------------------------

1 決算（平成30年度）

(単位:百万円、税込み)

区分	金額
収入	
営業収益	26,472
医業収益	22,656
運営費負担金	3,487
その他営業収益	329
営業外収益	366
運営費負担金	146
その他営業外収益	220
資本収入	762
運営費負担金	0
長期借入金	762
その他資本収入	0
その他の収入	0
計	27,600
支出	
営業費用	22,746
医業費用	22,662
給与費	10,593
材料費	8,422
経費	3,499
研究研修費	148
一般管理費	84
営業外費用	226
資本支出	4,633
建設改良費	1,133
償還金	2,959
その他の支出	540
計	27,605

中期計画

2 収支計画 (平成27年度～平成31年度)

(単位:百万円)

区分	金額
収入の部	113,851
営業収益	111,835
医業収益	92,827
運営費負担金収益	17,154
資産見返負債戻入	546
その他営業収益	1,308
営業外収益	2,016
運営費負担金収益	1,171
その他営業外収益	845
臨時利益	0
支出の部	110,406
営業費用	104,168
医業費用	103,343
給与費	45,320
材料費	28,362
経費	16,417
減価償却費	12,752
研究研修費	492
一般管理費	825
営業外費用	5,988
臨時損失	250
純利益	3,445
目的積立金取崩額	0
総利益	3,445

年度計画

2 収支計画 (平成30年度)

(単位:百万円)

区分	金額
収入の部	27,181
営業収益	26,851
医業収益	22,940
運営費負担金収益	3,487
資産見返負債戻入	96
その他営業収益	328
営業外収益	330
運営費負担金収益	146
その他営業外収益	184
臨時利益	0
支出の部	25,504
営業費用	24,289
医業費用	24,179
給与費	10,570
材料費	7,919
経費	3,388
減価償却費	2,158
研究研修費	144
一般管理費	110
営業外費用	1,164
臨時損失	51
純利益	1,677
目的積立金取崩額	0
総利益	1,677

業務実績及び法人の自己評価

2 収支報告 (平成30年度)

(単位:百万円、税抜き)

区分	金額
収入の部	26,892
営業収益	26,537
医業収益	22,625
運営費負担金収益	3,487
資産見返負債戻入	96
その他営業収益	329
営業外収益	354
運営費負担金収益	146
その他営業外収益	209
臨時利益	0
支出の部	25,162
営業費用	23,981
医業費用	23,897
給与費	10,589
材料費	7,808
経費	3,275
減価償却費	2,086
研究研修費	139
一般管理費	84
営業外費用	1,166
臨時損失	14
経常利益	1,744
純利益	1,730
目的積立金取崩額	0
総利益	1,730

中期計画

年度計画

業務実績及び法人の自己評価

3 資金計画（平成27年度～平成31年度）

(単位:百万円)

区分	金額
資金収入	132,761
業務活動による収入	113,543
診療業務による収入	92,999
運営費負担金による収入	18,325
その他の業務活動による収入	2,219
投資活動による収入	0
運営費負担金による収入	0
その他の投資活動による収入	0
財務活動による収入	5,576
長期借入金による収入	5,576
その他の財務活動による収入	0
前期中期目標期間からの繰越金	13,642
資金支出	132,761
業務活動による支出	97,415
給与費支出	46,015
材料費支出	31,144
その他の業務活動による支出	20,256
投資活動による支出	9,809
固定資産の取得による支出	9,809
その他の投資活動による支出	0
財務活動による支出	14,070
長期借入金の返済による支出	5,929
移行前地方債償還債務の償還による支出	8,141
その他の財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	11,467

短期借入金の限度額

- 1 限度額 1,000百万円
- 2 想定される短期借入金の発生理由
運営費負担金の交付時期の遅れ等による一時的な資金不足への対応

剰余金の使途

決算において剰余金を生じた場合は、将来の病院施設や医療機器の整備費用等に充てる。

3 資金計画（平成30年度）

(単位:百万円)

区分	金額
資金収入	43,548
業務活動による収入	27,123
診療業務による収入	22,969
運営費負担金による収入	3,632
その他の業務活動による収入	522
投資活動による収入	0
運営費負担金による収入	0
その他の投資活動による収入	0
財務活動による収入	762
長期借入金による収入	762
その他の財務活動による収入	0
前事業年度からの繰越金	15,663
資金支出	43,548
業務活動による支出	23,222
給与費支出	10,647
材料費支出	8,539
その他の業務活動による支出	4,036
投資活動による支出	1,596
固定資産の取得による支出	1,594
その他の投資活動による支出	2
財務活動による支出	3,006
長期借入金の返済による支出	1,263
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,697
その他の財務活動による支出	46
翌事業年度への繰越金	15,724

短期借入金の限度額

- 1 限度額 1,000百万円
- 2 想定される短期借入金の発生理由
運営費負担金の交付時期の遅れ等による一時的な資金不足への対応

剰余金の使途

決算において剰余金を生じた場合は、将来の病院施設や医療機器の整備費用等に充てる。

3 資金収支（平成30年度）

(単位:百万円)

区分	金額
資金収入	43,173
業務活動による収入	26,748
診療業務による収入	22,806
運営費負担金による収入	3,633
その他の業務活動による収入	309
投資活動による収入	0
運営費負担金による収入	0
その他の投資活動による収入	0
財務活動による収入	762
長期借入金による収入	762
その他の財務活動による収入	0
前事業年度からの繰越金	15,663
資金支出	43,173
業務活動による支出	22,271
給与費支出	10,552
材料費支出	8,117
その他の業務活動による支出	3,602
投資活動による支出	939
固定資産の取得による支出	939
その他の投資活動による支出	0
財務活動による支出	3,005
長期借入金の返済による支出	1,263
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,696
その他の財務活動による支出	45
翌事業年度への繰越金	16,958

その他業務運営に関する重要事項

- 中期目標
- 1 保健医療行政への協力
県などが進める保健医療行政に積極的に協力すること。
 - 2 法令・社会規範の遵守
県立病院機構が、県民に信頼され、県内医療機関の模範的役割を果たしていけるよう法令や社会規範等を遵守すること。
 - 3 積極的な情報公開
運営の透明性の確保に努め、業務内容や業務運営の改善等の情報発信に積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画
<p>第9 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 保健医療行政への協力 県などが進める保健医療行政に積極的に協力する。</p>	<p>第6 その他業務運営に関する重要事項</p> <p>1 保健医療行政への協力 県などが進める保健医療行政に積極的に協力する。</p>

業務実績及び法人の自己評価																																																														
(37)保健医療行政への協力																																																														
評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている																																																												
<ul style="list-style-type: none"> 中央病院では、がん診療連携拠点病院、三次救急医療を担う救命救急センター、県内の周産期医療の中核をなす総合周産期母子医療センター、難病医療拠点病院等として県の保健医療に係る重要施策に貢献した。 北病院では、精神科救急医療体制の24時間化における精神科救急受診相談センター業務の一部を担うとともに常時対応型病院、認知症対策における認知症疾患医療センター、また、医療観察法の指定入院医療機関等として、県等の保健医療に係る重要施策に貢献した。 県が主催する各種委員会等へ職員を派遣した。 (主なもの) 肝炎対策協議会 がん対策推進協議会 小児慢性特定疾患対策協議会 指定難病審査会 臨床研修病院等連携協議会 訪問看護推進協議会 生活習慣病検診管理指導協議会 精神医療審査会 精神科救急医療事業連絡調整委員会 医療法第25条に基づく、病院への立入検査業務に放射線技師を対象の58病院へ派遣した。 甲府地区の初期救急における深夜帯診療が中止されたため、平成28年度から二次救急当番日には、初期救急の患者を緊急避難的に受け入れた。さらに、一部の病院の受入に支障が出ているため、平成30年4月から当院ではこれまで以上に多くの当番日を設け、患者を受け入れることとなった(前述P7)。 平成29年度の二次救急当番日における患者数は、前年比5.5%減の4,158人となった。 																																																														
<p>救急車搬送人数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一次救他</td> <td>1,827</td> <td>2,013</td> <td>2,082</td> <td>2,376</td> <td>2,556</td> <td>2,882</td> <td>2,297</td> <td>3,170</td> <td>3,170</td> <td>(増減なし)</td> </tr> <tr> <td>二次救</td> <td>1,305</td> <td>1,415</td> <td>1,577</td> <td>1,678</td> <td>1,807</td> <td>1,984</td> <td>2,568</td> <td>1,808</td> <td>1,867</td> <td>(3.3%増)</td> </tr> <tr> <td>三次救</td> <td>1,003</td> <td>1,012</td> <td>1,094</td> <td>1,348</td> <td>1,194</td> <td>982</td> <td>1,235</td> <td>1,178</td> <td>1,109</td> <td>(5.9%減)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,135</td> <td>4,440</td> <td>4,753</td> <td>5,402</td> <td>5,557</td> <td>5,848</td> <td>6,100</td> <td>6,156</td> <td>6,146</td> <td>(0.2%減)</td> </tr> </tbody> </table>				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		一次救他	1,827	2,013	2,082	2,376	2,556	2,882	2,297	3,170	3,170	(増減なし)	二次救	1,305	1,415	1,577	1,678	1,807	1,984	2,568	1,808	1,867	(3.3%増)	三次救	1,003	1,012	1,094	1,348	1,194	982	1,235	1,178	1,109	(5.9%減)	計	4,135	4,440	4,753	5,402	5,557	5,848	6,100	6,156	6,146	(0.2%減)					
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																					
一次救他	1,827	2,013	2,082	2,376	2,556	2,882	2,297	3,170	3,170	(増減なし)																																																				
二次救	1,305	1,415	1,577	1,678	1,807	1,984	2,568	1,808	1,867	(3.3%増)																																																				
三次救	1,003	1,012	1,094	1,348	1,194	982	1,235	1,178	1,109	(5.9%減)																																																				
計	4,135	4,440	4,753	5,402	5,557	5,848	6,100	6,156	6,146	(0.2%減)																																																				
<p>※ 一次救他は、一次救急、二次救急当番日以外に搬送された二次救急患者及び二次救急当番日に甲府・中巨摩地区以外から搬送された二次救急患者</p>																																																														
<p>二次救急病院別患者数 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>3,098</td> <td>3,181</td> <td>3,422</td> <td>3,354</td> <td>3,698</td> <td>4,000</td> <td>4,803</td> <td>4,401</td> <td>4,158</td> <td>4,361</td> <td>(4.9%増)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>13,020</td> <td>11,990</td> <td>11,976</td> <td>12,529</td> <td>12,799</td> <td>12,965</td> <td>11,966</td> <td>11,111</td> <td>12,121</td> <td>11,732</td> <td>(3.2%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16,118</td> <td>15,171</td> <td>15,398</td> <td>15,883</td> <td>16,497</td> <td>16,965</td> <td>16,769</td> <td>15,512</td> <td>16,279</td> <td>16,093</td> <td>(1.1%減)</td> </tr> <tr> <td>中央病院割合</td> <td>19.2%</td> <td>21.0%</td> <td>22.2%</td> <td>21.1%</td> <td>22.4%</td> <td>23.6%</td> <td>28.6%</td> <td>28.4%</td> <td>25.5%</td> <td>27.1%</td> <td>(1.6ポイント増)</td> </tr> </tbody> </table>				H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		中央病院	3,098	3,181	3,422	3,354	3,698	4,000	4,803	4,401	4,158	4,361	(4.9%増)	その他	13,020	11,990	11,976	12,529	12,799	12,965	11,966	11,111	12,121	11,732	(3.2%減)	合計	16,118	15,171	15,398	15,883	16,497	16,965	16,769	15,512	16,279	16,093	(1.1%減)	中央病院割合	19.2%	21.0%	22.2%	21.1%	22.4%	23.6%	28.6%	28.4%	25.5%	27.1%	(1.6ポイント増)
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																				
中央病院	3,098	3,181	3,422	3,354	3,698	4,000	4,803	4,401	4,158	4,361	(4.9%増)																																																			
その他	13,020	11,990	11,976	12,529	12,799	12,965	11,966	11,111	12,121	11,732	(3.2%減)																																																			
合計	16,118	15,171	15,398	15,883	16,497	16,965	16,769	15,512	16,279	16,093	(1.1%減)																																																			
中央病院割合	19.2%	21.0%	22.2%	21.1%	22.4%	23.6%	28.6%	28.4%	25.5%	27.1%	(1.6ポイント増)																																																			
<p>※二次救急輪番病院 第1グループ(メイン) : 当院、山梨大学医学部付属病院、市立甲府病院、甲府共立病院 第2グループ(サブ) : 国立甲府病院、地域医療機構山梨病院、甲府城南病院、甲府脳神経外科病院、巨摩共立病院、白根徳洲会病院</p>																																																														

中期計画	年度計画	業務実績及び法人の自己評価																																				
<p>2 法令・社会規範の遵守</p> <p>県立の病院としての公的使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、内部規律の策定、倫理委員会によるチェック等を通じて、職員の行動規範と倫理を確立する。</p>	<p>2 法令・社会規範の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立の病院としての公的使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、内部規律の策定、倫理委員会によるチェック等を通じて、職員の行動規範と倫理を確立する。 法人の業務の適正化を確保するため、「内部統制」、「リスク管理」、「外部通報、内部通報制度」等に関する規程を整備するとともに、組織の見直しについて検討を行う。 	<p>(38)法令・社会規範の遵守</p> <table border="1" data-bbox="1516 226 2804 310"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 法人業務の適正化を確保するため、「内部統制」、「リスク管理」、「外部通報、内部通報制度」等に関する規程を整備した。 職員のコンプライアンスの向上については、病院内の研修会等で周知を徹底し、職員全員一丸となり法令、社会規範の遵守に努めた。 倫理委員会を開催し、院内で行われる医療行為及び医学の研究に関し、倫理的、社会的観点から審査を行った。 <p>倫理委員会の審査状況 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1516 598 2804 714"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央病院</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>21</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>(16.7%減)</td> </tr> <tr> <td>北病院</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>16</td> <td>29</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>(34.8%増)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年7月に中央病院で発生した薬剤紛失事案について、県に提出した改善計画を継続して実行することにより、薬剤管理のより一層の強化と再発防止に取り組んだ(前述P24)。 【主な改善策】 第3種向精神薬の管理方法の強化(施錠管理)、すべての向精神薬について購入量・処方数量・在庫数量を月毎に照合、監視カメラ設置、インターホン増設、ドアアラーム装置設置、各種マニュアルの改訂、職員に対する研修会の実施(棚卸、防犯対策) 平成29年6月に発生した輸血医療事故について、県立中央病院輸血医療事故調査委員会からの提言を受け、再発防止策を継続して実施した(前述P22)。 【再発防止策】 緊急輸血の手順の見直し、緊急輸血に関するマニュアルの整備、必要な機器の設置、研修会の実施、安全に緊急輸血が実施できる仕組みづくり 中央病院の理念達成や地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」受審に向け様々な改善の取り組みを行った。2月に本審査を受審し、当院の医療が概ね適切に行われていることが確認できた(前述P19)。 	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		中央病院	12	12	14	15	21	25	21	24	20	(16.7%減)	北病院	16	17	12	30	29	16	29	23	31	(34.8%増)
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																				
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																													
中央病院	12	12	14	15	21	25	21	24	20	(16.7%減)																												
北病院	16	17	12	30	29	16	29	23	31	(34.8%増)																												
<p>3 積極的な情報公開</p> <p>運営の透明性の確保に努め、年度計画の策定時や評価委員会の評価を受けた後などに、ホームページを活用し、業務内容や業務改善等の情報発信に積極的に取り組む。</p>	<p>3 積極的な情報公開</p> <p>運営の透明性の確保に努め、年度計画の策定時や評価委員会の評価を受けた後などに、ホームページを活用し、業務内容や業務改善等の情報発信に積極的に取り組む。</p> <p>また、病院の情報発信力を高めるため、各部署においてホームページの修正が簡単に行えるよう、ホームページシステムを更新する。</p>	<p>(39)積極的な情報公開</p> <table border="1" data-bbox="1516 1306 2804 1390"> <tr> <td>評価</td> <td>B</td> <td>当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 病院機構、中央病院、北病院がそれぞれホームページを開設し、評価委員会の評価、年度計画や決算状況、理事会の議事録等を公表するとともに、法人組織や診療案内、研修内容や公開講座の案内、採用情報等も掲載し、積極的な情報公開に取り組んだ。 各診療科の活動、診療実績、その治療成績を病院のホームページに掲載した。 病院の情報発信力を高めるため、各部署においてホームページの作成、修正等が簡単に行えるよう、ホームページシステムの更新を行った。 中央病院の年内の研究成果をまとめた山梨県立中央病院年報に、学会発表、和文英文の論文発表や各種講演会での発表等の病院の詳細な活動を掲載するとともに、ホームページにも掲載した。 中央病院の掲示板に、学会発表、論文、各種講演会での発表等を掲示した。 <p>研究成果の院内掲示の状況</p> <table border="1" data-bbox="1516 1837 2804 1921"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>掲示数</td> <td>23</td> <td>36</td> <td>30</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>(増減なし)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成26年8月から掲示</p>	評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である		H26	H27	H28	H29	H30		掲示数	23	36	30	23	23	(増減なし)																			
評価	B	当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である																																				
	H26	H27	H28	H29	H30																																	
掲示数	23	36	30	23	23	(増減なし)																																

中期計画

4 山梨県地方独立行政法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則第5条で定める事項

(1) 施設及び設備に関する計画

施設及び設備の内容	予定額	財源
病院施設、医療機器等整備	総額 9,809百万円	国・県補助金、長期借入金等

(2) 人事に関する計画

政策医療の確実な実施や質の高い医療の提供に向け、医療従事者の確保など、適切な人事管理を行う。

(3) 積立金の処分に関する計画

前期中期目標期間繰越積立金については、病院施設や医療機器の整備費用等に充てる。

年度計画

4 山梨県地方独立行政法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則第5条で定める事項

(1) 施設及び設備に関する計画

施設及び設備の内容	予定額	財源
病院施設、医療機器等整備	総額 2,253百万円	国・県補助金、長期借入金等

(2) 人事に関する計画

政策医療の確実な実施や質の高い医療の提供に向け、医療従事者の確保など、適切な人事管理を行う。

(3) 積立金の処分に関する計画

前期中期目標期間繰越積立金については、病院施設や医療機器の整備費用等に充てる。

業務実績及び法人の自己評価

(40)山梨県地方独立行政法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則第5条で定める事項

評価	S	当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている

長期借入金、繰越積立金等を財源として、病院の施設及び設備の整備を実施した。

【中央病院】

施設整備・改修	34,389万円
医療機器	54,236万円
ソフトフェア	1,142万円
合計	89,767万円

【北病院】

施設整備・改修	4,502万円
医療機器	7,200万円
車両	680万円
ソフトウエア	856万円
合計	14,616万円

高度医療機器の整備の状況(主なもの)

(単位:万円)

中央病院	購入理由	金額	契約	執行	入札方法
生体情報モニタリングシステム	劣化による更新	3,932	H30	H30	一般競争入札
ベッド一式	劣化による更新	2,644	H30	H30	一般競争入札
多用途透析用監視装置	劣化による更新	1,944	H30	H30	一般競争入札
硝子体手術装置	劣化による更新	1,400	H30	H30	一般競争入札
呼吸機能測定装置、総合呼吸抵抗装置	劣化による更新	1,295	H30	H30	一般競争入札
デジタル式回診用X線撮影装置	劣化による更新	1,566	H30	H30	一般競争入札
冷凍アブレーション装置	リース品の購入	1,847	H30	H30	随意契約
ダウインチ関連器具一式	新規購入	2,542	H30	H30	一般競争入札
Film Array	新規購入	810	H30	H30	指名競争入札
手術台一式	劣化による更新	7,560	H29	H30	一般競争入札
内視鏡下適応手術室整備	新規購入	7,560	H29	H30	一般競争入札
超音波診断装置(産科)	劣化による更新	1,836	H29	H30	一般競争入札
超音波診断装置(検査部)	劣化による更新	2,900	H29	H30	一般競争入札

(単位:万円)

北病院	H30執行額
全自動錠剤分包機	1,825
多項目自動血球分析装置	537

施設整備・改修(主なもの)

(単位:万円)

中央病院	H30執行額	工事期間
常用発電機設備ガスエンジン更新工事	12,320	H29-30
8A病棟無菌室改修工事	5,273	H29-30
8A病棟無菌室ユニット設置工事	7,399	H29-30
患者支援センター増築工事	5,117	H30
図書室改修工事	1,328	H30
当直室改修工事	680	H30
放射線機器室外機移設工事	1,522	H30

北病院	H29執行額	工事期間
冷温水ユニット改修工事	702	H30
屋上土間改修工事	373	H30

- 政策医療を着実に実施するため、必要な人員を確保できるよう採用試験を複数回実施した。
 看護師 6回
 医療技術者 3回
 事務・技術職 1回

採用者数の状況 (単位:人)

	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4	差引
看護師	60	54	62	78	82	4
薬剤師	6	8	4	3	4	1
臨床検査技師	2	3	2	3	2	△1
診療放射線技師	1	1	1	1	1	0
管理栄養士	1	0	0	1	0	△1
理学療法士	1	3	0	0	1	1
作業療法士	0	2	0	2	0	△2
言語聴覚士	0	1	0	1	0	△1
視能訓練士	1	0	0	0	0	0
臨床工学技士	1	1	3	2	4	2
精神保健福祉士	2	2	0	1	1	0
心理	1	0	3	0	1	1
社会福祉士	0	0	0	2	0	△2
保健師	0	0	0	1	1	0
事務職員	0	4	4	4	5	1
技術職員	3	3	1	1	0	△1
研究員	0	0	0	0	0	0
合計	79	82	80	100	102	2

- 職員数は、前年度と比べて4.1%増、機構発足時と比べると38.0%(415人)増加し、1,506人となった。

機構職員数の推移(4月1日現在) (単位:人)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
常勤医師	155	159	160	170	175	187	194	196	202	208	(3.0%増)
医師	111	108	109	108	116	125	124	127	130	137	(5.4%増)
専修医・研修医	44	51	51	62	59	62	70	69	72	71	(1.4%減)
非常勤医師	5	5	4	4	4	4	3	5	5	3	(40.0%減)
研究員	—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	(増減なし)
医療技術職	111	113	118	126	148	157	171	177	188	190	(1.1%増)
看護職	676	680	676	677	683	689	690	709	740	783	(5.8%増)
事務職	29	31	32	32	35	34	35	37	39	40	(2.6%増)
技術職	3	4	3	3	4	7	9	9	9	10	(11.1%増)
専門員					6	14	16	25	27	33	(22.2%増)
看護助手・技労職	26	23	23	22	21	19	19	18	16	14	(12.5%減)
非常勤・臨時職員	86	124	137	163	194	213	222	217	220	224	(1.8%増)
合計	1,091	1,139	1,153	1,198	1,271	1,325	1,360	1,394	1,447	1,506	(4.1%増)

- 平成30年度からスタートした新専門医制度において、当機構では、「内科」「救急科」「整形外科」「総合診療科」「外科」「精神科」の6つの領域で基幹施設として専門研修プログラムが承認されている。平成30年度は基幹施設として内科5名、救急科1名、精神科1名、連携施設として内科1名、外科1名、産婦人科2名、精神科1名の計12名の専攻医を採用した。また、平成31年度は、基幹施設として内科2名、外科2名、救急科2名、精神科2名、連携施設として内科2名、整形外科1名、小児科1名、産婦人科1名、皮膚科1名の計14名の専攻医を採用した(前述P16)。

H31新規採用専攻医(中央病院)

現所属名	領域	基幹プログラム	基幹施設
血液内科	内科	山梨県立中央病院	○
消化器内科	内科	山梨県立中央病院	○
呼吸器内科	内科	東京医科歯科大学	
呼吸器内科	内科	山梨大学医学部	
救急科	救急科	山梨県立中央病院	○
救急科	救急科	山梨県立中央病院	○
胃食道外科	外科	山梨県立中央病院	○
呼吸器外科	外科	山梨県立中央病院	○
整形外科	整形外科	山梨大学医学部	
小児科	小児科	山梨大学医学部	
産科	産婦人科	山梨大学医学部	
産科	産婦人科	山梨大学医学部	

H31新規採用専攻医(北病院)

現所属名	領域	基幹プログラム	基幹施設
精神科	精神科	山梨県立北病院	○
精神科	精神科	山梨県立北病院	○